

調布市民福祉ニーズ調査

報告書

－概要版－



令和 8（2026）年 3 月
調布市

目 次

調査概要・報告書の見方	1
1 調査の目的	1
2 アンケート調査の実施概要	1
3 住民懇談会の実施概要	2
4 報告書（概要版）の見方	4
5 居住地域の分類について	5
アンケート調査の結果の概要	6
第1章 調査間での共通質問の結果	6
1 日頃のコミュニケーション	6
2 市民同士の支え合い，地域活動	9
3 外出，ひきこもりの状況	10
4 市民の権利を守る取組	15
5 誰もが暮らしやすいまちづくり	16
第2章 市民（18歳以上）調査結果	19
◆近所付き合いの状況	19
◆孤独・孤立の状況	20
◆地域活動・ボランティア活動の取組状況，今後の取組意向	23
◆経済的に困った経験，その原因	25
◆複雑な課題を抱えた世帯の見聞状況	26
◆市民の権利を守る制度や事業の利用意向，利用しない・わからない理由	27
◆地域のつながりに対する考え方	28
◆市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況	29
第3章 高齢者（65歳以上）調査結果	30
◆孤独・孤立の状況	30
◆地域活動・ボランティア活動の取組状況，今後の取組意向	33
◆現在の職業，就労に必要なこと	35
◆市民の権利を守る制度や事業の利用意向，利用しない・わからない理由	36
◆外出の目的，移動手段	37
◆困りごとを相談できる人や機関	38
◆高齢者の生活を守る取組や相談窓口などの認知度	39
◆共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した条例の認知度	40
第4章 障害者（18歳以上）調査結果	41
◆同居の家族構成	42
◆孤独・孤立の状況	43
◆共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した条例の認知度	46
◆外出時の主な移動手段	50

◆市の相談窓口や制度の認知度	51
◆市の障害者福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組	55
第5章 障害児（18歳未満）の保護者調査結果	56
◆お子さんの普段の活動機会	56
◆保護者への支援として力を入れてほしいこと	57
◆孤独・孤立の状況	58
◆共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した条例の認知度	61
◆外出時の主な移動手段	62
◆市の相談窓口や制度の認知度	63
◆市の障害児福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組	64
住民懇談会の結果の概要	65
1 緑ヶ丘・滝坂／若葉・調和小学校地域	65
2 第一・富士見台・多摩川／第三・石原・飛田給小学校地域	66
3 上ノ原・柏野／北ノ台・深大寺小学校地域	67
4 第二・八雲台・国領／染地・杉森・布田小学校地域	68
調査のまとめ	69
第1章 地域別のまとめ	69
1 緑ヶ丘・滝坂小学校地域	69
2 若葉・調和小学校地域	71
3 上ノ原・柏野小学校地域	73
4 北ノ台・深大寺小学校地域	75
5 第二・八雲台・国領小学校地域	77
6 染地・杉森・布田小学校地域	79
7 第一・富士見台・多摩川小学校地域	81
8 第三・石原・飛田給小学校地域	83
第2章 アンケート調査から見えた課題	85
第3章 住民懇談会から見えた課題	91

調査概要・報告書の見方

1 調査の目的

本調査は，国や調布市の動向を踏まえ，アンケート調査及び住民懇談会により市民の生活実態や福祉に対する意識，意見，ニーズ等を把握し，次期「調布市地域福祉計画」「調布市高齢者総合計画」「調布市障害者総合計画」を策定する際の基礎資料等とすることを目的とする。

2 アンケート調査の実施概要

(1) 調査方法	○ 調査票の郵送配付 ○ 調査票による郵送回答／専用ウェブサイトからのインターネット回答（回答者が選択） ○ 督促礼状を対象者全員に1回送付
(2) 調査期間	令和7年10月16日～令和7年11月4日

(3) 調査の一覧

調査名	対象	調査数	回答数	回答率	(参考)
			(うち、インターネット)		令和4年度
誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18歳以上の市民（市内在住）	2,000人	924人 (433)	46.2% (21.7)	40.8% (10.7)
高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	65歳以上の市民（市内在住）	1,000人	633人 (89)	63.3% (8.9)	60.2% (3.6)
障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18歳以上の障害者手帳や特定医療費（指定難病）受給者証所持者	2,700人	1,408人 (449)	52.1% (16.6)	54.5% (8.6)
	①身体障害者手帳所持者（64歳以下）	400人	238人 (91)	59.5% (22.8)	53.3% (13.8)
	②身体障害者手帳所持者（65歳以上）	400人	190人 (30)	47.5% (7.5)	59.3% (2.0)
	③愛の手帳所持者	500人	240人 (56)	48.0% (11.2)	60.7% (4.7)
	④精神障害者保健福祉手帳所持者	800人	392人 (151)	49.0% (18.9)	44.3% (12.3)
	⑤難病患者	600人	348人 (121)	58.0% (20.2)	57.3% (9.7)
子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート	18歳未満の障害者手帳や児童福祉通所受給者証所持者の保護者	300人	185人 (118)	61.7% (39.3)	65.0% (20.0)
合計		6,000人	3,150人 (1,089)	52.5% (18.2)	52.2% (8.0)

3 住民懇談会の実施概要

(1) 実施概要

実施目的	地域住民，高齢者，障害者の生活実態や福祉に対する意識・意見を把握し，今後の市の福祉施策や次期「調布市地域福祉計画」「調布市高齢者総合計画」「調布市障害者総合計画」の策定の基礎資料等とすることを目的に，地域住民等が日頃の想いや感じていることを話し合い，考え合う場として開催し，地域における支え合いの仕組みづくりを推進していく契機とする。
実施回数	全4回（1回×2圏域）
実施時間	2時間／回
実施手法	○少人数に分かれたグループディスカッション形式の懇談会を実施 ○KJ法により，テーマごとに模造紙にまとめて結果を共有

(2) 開催日程・会場等

圏域	日時	会場
上ノ原・柏野小学校地域 北ノ台・深大寺小学校地域	令和7年11月9日 午前10時～正午	総合福祉センター （小島町2-47-1） <2階201～203会議室>
第二・八雲台・国領小学校地域 染地・杉森・布田小学校地域	令和7年11月9日 午後2時～午後4時	
第一・富士見台・多摩川小学校地域 第三・石原・飛田給小学校地域	令和7年11月22日 午前10時～正午	
緑ヶ丘・滝坂小学校地域 若葉・調和小学校地域	令和7年11月22日 午後2時～午後4時	

(3) 参加人数

圏域	地域等の活動団体	自治会	地区協議会	民生委員・児童委員	福祉関係機関	地域住民	その他	合計（人）
上ノ原・柏野小学校地域 北ノ台・深大寺小学校地域	2	－	4	2	5	2	－	15
第二・八雲台・国領小学校地域 染地・杉森・布田小学校地域	6	－	2	1	5	5	－	19
第一・富士見台・多摩川小学校地域 第三・石原・飛田給小学校地域	1	－	2	6	2	1	1	13
緑ヶ丘・滝坂小学校地域 若葉・調和小学校地域	3	1	1	4	6	4	－	19
合計	12	1	9	13	18	12	1	66

(4) 募集方法

方法	概要
広報	- 市報（令和7年10月5日号） - 市ホームページ（令和7年10月8日～11月22日）
案内チラシ	- 調布市社会福祉協議会（地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員）を通じて配布 - アンケート調査票に同封（令和7年10月16日発送）
その他	- 民生児童委員協議会に周知 - 地域福祉推進会議委員に周知 - 高齢者福祉推進協議会委員に周知 - 自立支援協議会全体会に周知 - 地域活動関係者等に個別に周知

☆案内チラシ



(5) 懇談会のテーマ

懇談会のテーマ	誰もが地域で支え合い安心して暮らすための「つながり」ってどんなもの？
話し合う3つのテーマ	①「つながりがあったってよかったことは？（ご自身の経験など）」 ②「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」 ③「②の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」

4 報告書（概要版）の見方

●「回答者数」について

それぞれの質問の回答者数は、全体的場合はN（Number of cases）、それ以外の場合にはnと表記している。

●図表の単位について

回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示している。％は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。そのため、合計値が100.0%にならない場合がある。また、回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）についても、％の合計は100.0%にならない場合がある。

●図表における選択肢について

図表の記載に当たっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。省略していない選択肢は、全体版の「資料編」の調査票を参照のこと。

●集計方法について

この報告書では、以下の2つの集計を行っている。

①全体集計

回答者全体、又は質問に該当する人全体のみで集計した結果である。

②クロス集計

上記①の全体集計をさらに男女や年代ごとに詳細に集計した結果である。なお、集計の柱となる項目の「無回答」は掲載を省略している。したがって、集計の柱となる項目の回答者数の合計は、全体と一致しない。

●問番号について

概要版は、全体版から主な調査結果を抜粋したものであるため、問番号が連番となっていない。

●クロス集計表の網掛けについて

クロス集計表で網掛けしている項目は、最も回答の多かった項目である。

●経年比較について

経年比較は過去の調査との比較である。なお、平成19年度から平成28年度までの調査対象は64歳以下であったが、令和元年度から65歳以上も調査対象に含むこととした。そのため、令和元年度以降の調査結果は64歳以下の回答を抽出したもの（n）とし、必要に応じて全体（N）と併せて掲載している。また、令和7年度も65歳以上を調査対象に含むため、回答者のうち、60歳代以下（65～69歳を含む）に絞って再集計した結果を用いて分析している。

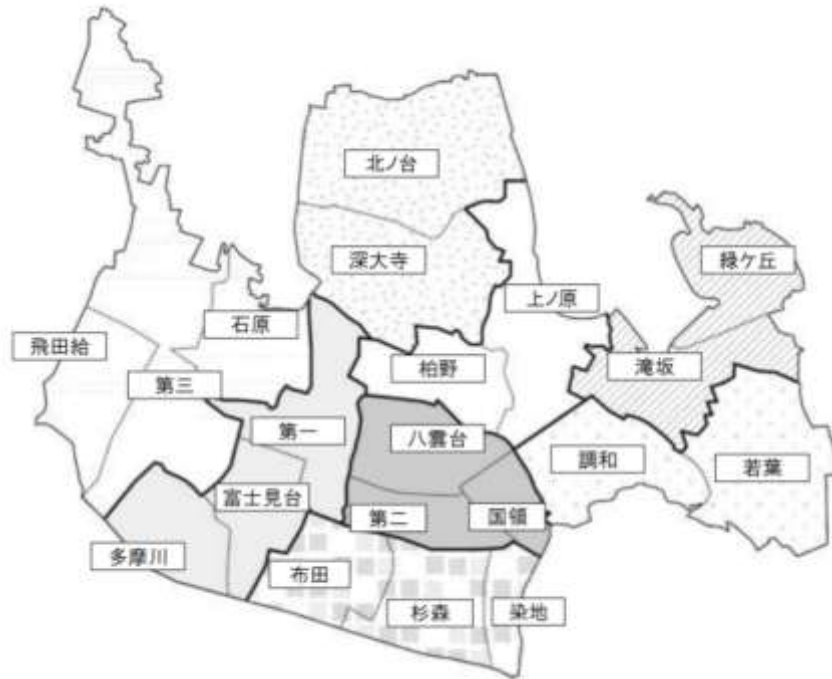
5 居住地域の分類について

市内を8つの福祉圏域に区分している。

なお、実際の福祉圏域は、小学校区を基礎としているため、地番まで区分されている地区もあるが、本調査では、下記表に掲げる地区により集計している。

■福祉圏域の地域区分

下記の□内の記載は小学校区の名称



福祉圏域名	福祉圏域に属する地区
緑ヶ丘・滝坂 小学校地域	東つつじヶ丘1丁目, 2丁目 緑ヶ丘 仙川町 西つつじヶ丘1丁目, 2丁目, 3丁目 若葉町1丁目
若葉・調和 小学校地域	東つつじヶ丘3丁目 菊野台 入間町 西つつじヶ丘4丁目 若葉町2丁目, 3丁目
上ノ原・柏野 小学校地域	佐須町1丁目, 2丁目, 4丁目, 5丁目 調布ヶ丘3丁目 柴崎 深大寺南町1丁目, 2丁目, 3丁目 深大寺東町3丁目, 4丁目
北ノ台・深大寺 小学校地域	深大寺東町1丁目, 2丁目, 5丁目, 6丁目, 7丁目, 8丁目 深大寺北町 深大寺元町2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目 深大寺南町4丁目, 5丁目
第二・八雲台・国領 小学校地域	国領町1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目, 8丁目 佐須町3丁目 布田2丁目, 3丁目 調布ヶ丘2丁目 八雲台
染地・杉森・布田 小学校地域	国領町6丁目, 7丁目 布田5丁目, 6丁目 多摩川6丁目, 7丁目 染地
第一・富士見台・多摩川 小学校地域	多摩川1丁目, 2丁目, 3丁目, 4丁目, 5丁目 調布ヶ丘1丁目, 4丁目 布田1丁目, 4丁目 深大寺元町1丁目 下石原1丁目 小島町
第三・石原・飛田給 小学校地域	上石原 富士見町 西町 下石原2丁目, 3丁目 飛田給 野水

アンケート調査の結果の概要

第1章 調査間での共通質問の結果

1 日頃のコミュニケーション

③孤独・孤立の状況【市民，高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。（それぞれ1つに○）

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、市民，高齢者，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，難病，障害児保護者は[ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある]，精神障害は[イ 自分を取り残されていると感じることがある] が最も多くなっている。

<『ある』の割合>『ある』の割合は、ア～エそれぞれで「時々ある」と「常にある」の回答合計

単位：％		ア 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある	イ 自分を取り残されていると感じることがある	ウ 自分とは他の人たちがから孤立していると感じる	エ 自分とは孤独であると感じる	(参考) 【国】※孤独であると感じる
市民（N=924）		41.1	16.4	15.2	17.6	19.7
高齢者（N=633）		31.7	10.1	10.8	12.7	
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	45.0	31.9	30.2	34.9	
	身体障害（65歳以上）（N=190）	35.7	23.2	20.5	23.7	
	知的障害（N=240）	43.7	30.8	28.8	29.2	
	精神障害（N=392）	56.4	60.8	59.2	58.9	
	難病（N=348）	34.8	24.7	22.4	25.0	
障害児保護者（N=185）		50.3	42.7	42.1	38.9	

※「令和6年人々のつながりに関する基礎調査」（内閣府）において、記載の問に「しばしばある・常にある」、「時々ある」と回答した人の割合

④コミュニケーションの頻度【市民，高齢者，障害者（18歳以上），障害児保護者】

家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について，お答えください。
(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す（手話等を含む）

○ 直接会って話す（手話等を含む）頻度は，市民，障害児保護者は「月1回未満」，高齢者は「月1回程度」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，難病は「週4～5回以上」，精神障害は「全くない・できない」が最も多くなっている。

単位：％		週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない・できない	無回答
市民（N=924）		16.6	13.9	12.7	10.8	17.2	18.3	6.6	4.0
高齢者（N=633）		11.7	17.9	17.9	7.7	19.7	11.2	7.6	6.3
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	25.6	8.4	8.4	4.6	14.3	17.6	11.3	9.7
	身体障害（65歳以上）（N=190）	17.9	10.0	14.2	8.4	11.6	11.1	11.1	15.8
	知的障害（N=240）	26.7	7.1	4.2	6.7	10.0	15.8	17.9	11.7
	精神障害（N=392）	15.1	10.5	9.9	7.7	13.0	16.1	19.9	7.9
	難病（N=348）	22.1	9.5	12.6	10.6	13.2	16.7	6.9	8.3
障害児保護者（N=185）		13.0	13.5	14.1	11.4	13.5	24.3	8.6	1.6

イ 電話（ビデオ通話含む）

○ 電話（ビデオ通話含む）の頻度は，市民，難病は「月1回未満」，高齢者，障害児保護者は「月1回程度」，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害は「全くない・できない」が最も多くなっている。

単位：％		週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない・できない	無回答
市民（N=924）		7.8	11.0	12.3	10.9	17.9	20.7	14.7	4.7
高齢者（N=633）		8.4	11.8	16.3	10.4	16.9	14.7	10.6	10.9
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	11.8	7.6	10.1	5.9	13.4	17.6	21.0	12.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	10.0	10.0	13.2	10.0	8.9	8.9	15.8	23.2
	知的障害（N=240）	5.4	4.6	3.3	3.3	7.9	14.2	43.8	17.5
	精神障害（N=392）	12.5	7.1	8.2	5.4	11.0	18.4	28.6	8.9
	難病（N=348）	11.2	8.9	17.0	9.2	13.8	19.5	9.5	10.9
障害児保護者（N=185）		5.4	12.4	9.7	11.9	22.7	18.9	17.3	1.6

ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、市民、身体障害（64歳以下）、精神障害、難病、障害児保護者は「週4～5回以上」、高齢者、身体障害（65歳以上）、知的障害は「全くない・できない」が最も多くなっている。

単位：％		週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない・できない	無回答
市民（N=924）		27.8	14.8	12.7	9.7	9.7	8.2	11.4	5.6
高齢者（N=633）		14.8	13.1	11.7	7.6	9.5	8.2	22.1	13.0
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	25.2	8.8	11.8	4.6	8.8	9.2	19.7	11.8
	身体障害（65歳以上）（N=190）	10.5	9.5	9.5	4.7	5.8	2.6	28.4	28.9
	知的障害（N=240）	14.2	5.8	2.9	1.3	4.2	7.1	44.2	20.4
	精神障害（N=392）	24.0	9.2	9.7	7.1	7.1	10.7	21.2	11.0
	難病（N=348）	24.1	16.1	12.1	7.8	6.6	9.5	12.1	11.8
障害児保護者（N=185）		25.4	18.9	17.3	12.4	11.9	7.6	4.9	1.6

2 市民同士の支え合い、地域活動

①手助けを「してほしい」事柄，手助けを「できる・してもいい」事柄【市民，高齢者】

あなたは次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。また、まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。①手助けしてほしいか、②手助けできるかについて、それぞれ1つに○を付けてください。

- 家族以外のまわりの人から手助けを「してほしい」事柄の上位は、市民で[キ 災害時避難の手助け]，[ア 安否確認の声かけ]，[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する]，高齢者で[キ 災害時避難の手助け]，[ア 安否確認の声かけ]，[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する]となっている。
- また、手助けを「できる・してもいい」事柄の上位は、市民で[ア 安否確認の声かけ]，[キ 災害時避難の手助け]，[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する]，高齢者で[ア 安否確認の声かけ]，[ク 具合がよくない時に病院などに連絡する]，[キ 災害時避難の手助け]となっている。

<「してほしい」の割合>

単位：％	ア 安 否 確 認 の 声 か け	イ ち よ つ と し た 買 い 物	ウ 食 事 や 掃 除 ・ 洗 濯 の 手 伝 い	エ 通 院 の 送 迎 や 外 出 の 手 助 け	オ 子 ど も の 預 か り	カ 話 し 相 手 や 相 談 相 手	キ 災 害 時 避 難 の 手 助 け	ク 病 院 な ど に よ く 連 絡 し な い 時 に
市民（N=924）	53.2	13.2	9.2	15.2	13.4	23.2	69.7	47.9
高齢者（N=633）	44.7	14.8	10.1	16.4	6.3	24.8	60.2	44.4

<「できる・してもいい」の割合>

市民（N=924）	73.3	49.4	25.6	27.2	23.6	47.7	72.6	66.5
高齢者（N=633）	61.9	42.2	19.9	22.1	16.4	44.2	56.9	58.8

3 外出、ひきこもりの状況

①外出の移動手段【高齢者、障害者（18歳以上）、障害児保護者】

利用している移動手段は何ですか。（いくつでも○）※1

- 利用している移動手段は、高齢者は「徒歩」、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、難病、障害児保護者は「徒歩・自転車・車いす」、精神障害は「電車」が最も多くなっている。

単位：％	徒歩	自転車	分 自 家 用 車 等 （ 自 分 で 運 転 ）	分 自 家 用 車 等 （ 自 分 以 外 が 運 転 ）	送 介 護 事 業 所 等 の 迎 接	施 病 院 の 送 り ハ ビ リ	バ ス	タ ク シ ー	福 祉 タ ク シ ー	電 車	そ の 他	無 回 答
高齢者（n=621）	77.6	38.5	23.3	12.6	5.5	3.2	54.9	15.6	0.8	53.9	1.6	0.3

単位：％		運転する （自家用車・自 ら）	手が別にある （自家用車・運 転）	電車	バス	タク シー	徒歩・自 転車・	その他	該当なし	無 回 答
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	19.7	13.0	47.9	27.3	13.9	51.3	4.6	0.8	2.9
	身体障害（65歳以上）（N=190）	12.1	14.7	33.7	36.8	17.9	44.2	5.3	2.1	4.7
	知的障害（N=240）	2.5	27.5	46.7	32.1	5.0	52.1	1.7	0.8	5.4
	精神障害（N=392）	4.8	8.4	65.1	36.5	4.6	62.0	2.6	0.3	2.6
	難病（N=348）	22.4	11.2	45.7	27.0	13.5	52.3	3.4	0.9	2.3
障害児保護者（N=185）		33.0	19.5	45.9	16.2	3.2	67.0	1.6	0.0	2.2

※1 高齢者アンケートの設問対象者は外出をする方のみ。

障害者（18歳以上）アンケート、障害児保護者アンケートの設問は〔外出時に使用している主な移動手段は何ですか。（2つまで○）〕

②外出の状況とひきこもりの期間・理由【市民、高齢者、障害者（18歳以上）】

あなたは普段、どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。
(1つに○)

- 外出の状況は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、知的障害、精神障害、難病は「仕事や学校等で週に5日以上外出する」、身体障害（65歳以上）は「遊びや趣味の活動等で頻繁に外出する」が最も多くなっている。

単位：％		外仕事 出する ※1	外仕事 出する 学校等 で週に 3～4日	外遊び 出する 趣味の 活動等 で頻繁に	外人づ 出する きあいの ために ときどき	出味普 する段 は家に いる用 事の がと、 きだ けの 外趣	ン普 ビ段 は家 にに は出 が、 近 所 の コ	出自 ない 室 から は 出 る が 、 家 から は	自室 から ほと んど 出 ない	無 回 答
市民（N=924）		46.6	13.4	10.8	7.3	7.9	7.5	0.9	0.4	5.2
高齢者（N=633）		21.0	13.3	19.7	10.0	11.8	14.5	3.2	1.1	5.4
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	37.0	18.1	3.4	5.9	11.8	10.9	5.9	3.4	3.8
	身体障害（65歳以上）（N=190）	3.2	9.5	18.9	12.6	18.4	15.8	10.0	3.2	8.4
	知的障害（N=240）	67.1	10.0	4.2	1.3	4.2	4.6	1.7	1.3	5.8
	精神障害（N=392）	29.6	18.4	5.1	7.1	13.5	16.3	4.3	2.0	3.6
	難病（N=348）	29.9	10.3	10.3	10.1	10.9	15.5	4.9	1.7	6.3
【国】15～39歳（N=7,035） ※2		69.3	12.1	3.8	4.3	5.2	3.6	0.7	0.2	0.7
【国】40～64歳（N=5,214） ※2		59.0	15.1	3.7	7.7	6.8	5.8	0.6	0.2	1.2

※1 障害者（18歳以上）アンケートの選択肢は「仕事や学校等で平日は毎日外出する」

※2 「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」（内閣府）より

あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（1つに○）

- 外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「1年～5年未満」、知的障害は「3か月未満」が最も多くなっている。

単位：％		3 か 月 未 満	3 か 月 ～ 6 か 月 未 満	6 か 月 ～ 1 年 未 満	1 年 ～ 5 年 未 満	5 年 ～ 1 0 年 未 満	1 0 年 以 上	無 回 答
市民（n=154）		11.0	8.4	7.8	37.7	13.6	17.5	3.9
高齢者（n=194）		11.9	2.6	7.7	39.2	12.9	22.2	3.6
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（n=76）	15.8	2.6	6.6	27.6	21.1	21.1	5.3
	身体障害（65歳以上）（n=90）	13.3	0.0	6.7	28.9	18.9	22.2	10.0
	知的障害（n=28）	39.3	7.1	3.6	10.7	14.3	17.9	7.1
	精神障害（n=142）	17.6	5.6	4.9	30.3	18.3	20.4	2.8
	難病（n=115）	11.3	6.1	13.0	35.7	13.9	15.7	4.3

あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

- 外出状況が現在の状態になった主な理由は、市民は「退職したこと」、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は「病気」が最も多くなっている。

単位：％		病気	介護・看護を担ったこと	（就労中）自宅で仕事をしている	学校になじめなかったこと	職場になじめなかったこと	受験に失敗したこと（高校・大学等）	就職活動がうまくいかなかったこと	人間関係がうまくいかなかったこと	退職したこと	その他	特に理由はない	わからない	無回答
市民（n=118）		22.0	5.9	12.7	0.0	1.7	0.8	3.4	3.4	27.1	13.6	20.3	0.0	5.9
高齢者（n=159）		32.7	12.6	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	21.4	20.1	20.8	3.1	3.8
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（n=58）	70.7	3.4	3.4	1.7	5.2	0.0	0.0	1.7	10.3	15.5	1.7	3.4	1.7
	身体障害（65歳以上）（n=69）	56.5	4.3	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.4	27.5	14.5	1.4	2.9
	知的障害（n=13）	46.2	7.7	0.0	7.7	15.4	7.7	7.7	7.7	15.4	15.4	23.1	15.4	7.7
	精神障害（n=105）	68.6	3.8	3.8	5.7	10.5	1.9	6.7	21.0	22.9	14.3	8.6	3.8	2.9
	難病（n=90）	62.2	10.0	7.8	1.1	0.0	0.0	3.3	0.0	12.2	8.9	10.0	2.2	1.1

③市内に住む家族の外出状況とひきこもりの期間・理由【市民、高齢者、障害者（18歳以上）】

あなた以外で、市内にお住まいのご家族（同居・別居問わず）に下記の外出状況が当てはまる人はいますか。（1つに○）

- 市内に住む家族の外出状況は、「いずれもいない」を除くと、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」が最も多くなっている。

単位：％		出味普 すに段 るは 関は す家 にに 用事 の が と、 き自 だ 分 け の 外趣	ン普 ビ段 は二 は家 にに は 出 が か、 近 所 の コ	出 自 室 か ら は 出 る が 、 家 か ら は	自 室 か ら ほ と ん ど 出 な い	い ず れ も い な い	外 出 状 況 が わ か ら な い	無 回 答
市民（N=924）		11.1	6.5	1.3	0.5	58.4	7.3	14.8
高齢者（N=633）		12.6	11.4	3.0	0.3	42.5	8.2	22.0
障害者（18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	17.6	8.8	2.5	0.8	48.7	8.0	13.4
	身体障害（65歳以上）（N=190）	22.6	12.6	3.7	1.6	31.6	6.3	21.6
	知的障害（N=240）	14.2	5.8	0.8	0.4	43.8	8.3	26.7
	精神障害（N=392）	16.1	10.5	1.5	0.3	49.0	7.4	15.3
	難病（N=348）	18.7	6.6	2.6	0.6	51.4	3.7	16.4

ご家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。(1つに○)

- 家族の外出状況が現在の状態となって、どのくらい経つかは、市民、高齢者、難病は「1年～5年未満」、身体障害(64歳以下)は「3か月未満」、身体障害(65歳以上)、精神障害は「10年以上」が最も多く、知的障害は「3か月未満」と「10年以上」が同率となっている。

単位：％		3 か 月 未 満	3 か 月 ～ 6 か 月 未 満	6 か 月 ～ 1 年 未 満	1 年 ～ 5 年 未 満	5 年 ～ 1 0 年 未 満	1 0 年 以 上	無 回 答
市民 (n=180)		12.2	3.3	8.3	31.1	10.0	29.4	5.6
高齢者 (n=173)		12.7	4.6	4.6	28.9	12.7	28.3	8.1
障害者 (18歳以上)	身体障害 (64歳以下) (n=71)	29.6	2.8	2.8	21.1	15.5	25.4	2.8
	身体障害 (65歳以上) (n=77)	16.9	3.9	3.9	22.1	11.7	28.6	13.0
	知的障害 (n=51)	21.6	7.8	3.9	15.7	13.7	21.6	15.7
	精神障害 (n=111)	19.8	2.7	2.7	16.2	16.2	29.7	12.6
	難病 (n=99)	21.2	2.0	10.1	33.3	9.1	17.2	7.1

ご家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも○)

- 家族の外出状況が現在の状態になった主な理由は、市民は「退職したこと」、高齢者、身体障害(64歳以下)、身体障害(65歳以上)、精神障害、難病は「病気」、知的障害は「特に理由はない」が最も多くなっている。

単位：％		病 気	介 護 ・ 看 護 を 担 う こ と	を し て い る (就 労 中) 自 宅 で 仕 事	こ 学 校 に な じ め な か つ た	こ 職 場 に な じ め な か つ た	受 験 に 失 敗 し た こ と (高 校 ・ 大 学 等)	就 職 活 動 が う ま く い か な か つ た こ と	人 間 関 係 が う ま く い か な か つ た こ と	退 職 し た こ と	そ 他	特 に 理 由 は な い	わ か ら な い	無 回 答
市民 (n=142)		21.1	7.0	5.6	0.7	1.4	0.0	3.5	0.7	23.2	16.2	19.7	6.3	8.5
高齢者 (n=129)		26.4	12.4	2.3	0.0	0.8	0.0	0.8	2.3	24.0	7.0	23.3	4.7	10.1
障害者 (18歳以上)	身体障害 (64歳以下) (n=46)	30.4	10.9	4.3	2.2	4.3	0.0	0.0	2.2	10.9	15.2	13.0	4.3	13.0
	身体障害 (65歳以上) (n=51)	33.3	9.8	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	3.9	25.5	9.8	17.6	5.9	11.8
	知的障害 (n=28)	25.0	3.6	3.6	7.1	3.6	0.0	3.6	7.1	10.7	7.1	35.7	3.6	10.7
	精神障害 (n=72)	33.3	11.1	5.6	2.8	2.8	0.0	4.2	11.1	16.7	19.4	15.3	8.3	6.9
	難病 (n=69)	34.8	11.6	2.9	2.9	1.4	0.0	0.0	5.8	15.9	13.0	17.4	0.0	10.1

【ひきこもりに該当する可能性のある群の割合】

本項目は、報告書「Ⅳ 調査のまとめ 第2章 アンケート調査から見えた課題」から抜粋して掲載する。

- 本調査では、国の令和4年度調査（＊）の設問を簡略化（生活条件等を除外）して、ひきこもりに該当する可能性のある群の割合を把握した。

＊国の令和4年度調査は「こども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」

- 市民調査では、広義のひきこもりに該当する可能性のある群は 3.03％，狭義のひきこもりに該当する可能性のある群は 1.52％となっている。また，市内居住の家族（同居・別居問わず）について，本人と同じ設問を行った結果，広義のひきこもりに該当する可能性のある群は 8.12％，狭義のひきこもりに該当する可能性のある群は 3.03％となっている。
- 高齢者調査では，ひきこもりに該当する可能性のある群は，広義のひきこもりに該当する可能性のある群が高齢者本人 11.06％，市内居住の家族（同居・別居問わず）10.11％，狭義のひきこもりに該当する可能性のある群が高齢者本人 6.48％，市内居住の家族（同居・別居問わず）4.74％となっている。
- 障害者調査では，「ひきこもり」に該当する可能性のある群は，広義のひきこもりに該当する可能性のある群が障害者本人 4.90％，市内居住の家族（同居・別居問わず）7.88％，狭義のひきこもりに該当する可能性のある群が障害者本人 3.05％，市内居住の家族（同居・別居問わず）2.77％となっている。

※参考：ひきこもりの定義（市，高齢者，障害者の各調査共通）

様々な要因の結果として社会的参加（就学，就労，家庭外での交遊など）を回避し，原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態を指す現象概念（他者と交わらない形での外出をしてもよい）。

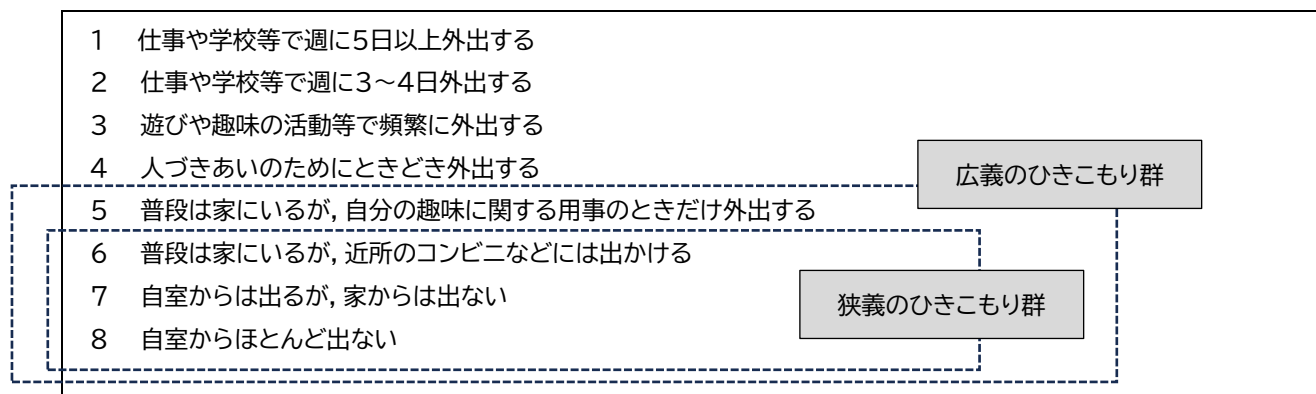
（出典：「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」（平成22年5月）（厚生労働科学研究でとりまとめ））

※参考：本調査におけるひきこもりの抽出条件

市民，高齢者，障害者の各調査において，下記の間で，選択肢5～8を選択（選択肢5～8を広義，選択肢6～8を狭義）し，付問1で期間「6か月以上」を選択し，かつ付問2で「病気」，「介護・看護を担うこと」，「自宅で仕事をしている」以外を選択した回答サンプルをひきこもり対象者とした。

なお，市民（18歳以上）では問7の現在の職業で就業と回答したサンプルや「専業主婦・主夫」と回答したサンプル，高齢者では問17で就業・活動参加をしているサンプル，障害者（18歳以上）では問16で就業をしているサンプル及び「これまで仕事をしたことがない（学生を含む）」を回答したサンプルは対象から除外している。

問 あなたは普段，どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。（1つに○）



4 市民の権利を守る取組

①市民の権利を守る制度や事業の認知度【市民，高齢者】

市や社会福祉協議会等で行っている下記の制度や事業をご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

- 市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業について、「知っている」の割合は、市民、高齢者ともに〔ア 成年後見制度〕が最も多く、〔イ 法定後見制度〕が続いている。

<「知っている」の割合>

単位：％	ア 成年 後見 制度	イ 法定 後見 制度	ウ 任意 後見 制度	エ 市民 後見 人	オ 専門 職紹 介制 度	カ 事地 域福 祉権 利擁 護	キ 事あ んし ん未 来支 援
市民 (N=924)	39.3	25.9	19.4	6.3	4.0	5.3	1.8
高齢者 (N=633)	42.0	21.6	20.1	6.0	4.3	3.9	3.0

②市民の権利を守る制度や事業の利用意向と利用しない理由【市民，高齢者】

あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは既にできない場合、いずれかの制度や事業を利用したいと思いますか。
(1つに○)

- 市民の権利を守る制度や事業の利用意向は、市民、高齢者ともに「利用を検討する」が最も多くなっている。

単位：％	既 に 利 用 し て い る	利 用 を 検 討 す る	利 用 し な い	わ か ら な い	無 回 答
市民 (N=924)	1.8	61.4	5.8	26.1	4.9
高齢者 (N=633)	1.3	47.1	10.3	29.5	11.8

制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は何ですか。(いくつでも○)

- 制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は、市民は「制度の内容や利用方法がわからない」、高齢者は「家族などに支援してもらいたい」が最も多くなっている。

単位：％	ない 制度の 内容や 利用方 法がわ から	事務 手続 きが 難し い	や後 契見 約人 手続 きの 第三 者に 任せ るの は財 産管 理	め経 に済 、申 立な 理由 がや 難し い	家 族 な どに 支 援 し て も ら い たい	そ の 他	無 回 答
市民 (n=295)	53.6	14.9	21.7	4.7	36.9	7.8	5.1
高齢者 (n=252)	41.7	14.7	26.6	4.4	59.1	7.1	3.2

5 誰もが暮らしやすいまちづくり

⑥共生社会の充実のための法律や考え方、条例の認知度

【市民、高齢者、障害者（18歳以上）、障害児保護者】

共生社会の充実のための法律や考え方、調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。(それぞれ1つに○)

ア 障害者差別解消法

- 障害者差別解消法の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。

単位：％		内 容 を 知 っ て い る	（ 聞 いた こ と は あ る ）	知 ら ない	無 回 答
市民 (N=924)		8.1	18.8	70.1	2.9
高齢者 (N=633)		5.4	23.1	64.1	7.4
障害者 (18歳以上)	身体障害（64歳以下）(N=238)	12.6	27.7	55.0	4.6
	身体障害（65歳以上）(N=190)	8.9	17.9	61.1	12.1
	知的障害 (N=240)	13.3	21.3	57.9	7.5
	精神障害 (N=392)	11.0	24.0	62.0	3.1
	難病 (N=348)	8.9	21.8	66.7	2.6
障害児保護者 (N=185)		18.9	26.5	54.6	0.0

イ 合理的配慮

- 合理的配慮の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。
- 障害児保護者は「内容を知っている」が3割を超えている。

単位：％		内容を知っている	（聞いたことはある）	知らない	無回答
市民（N=924）		9.3	18.2	69.5	3.0
高齢者（N=633）		3.8	13.3	75.0	7.9
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	14.7	22.3	58.4	4.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	9.5	14.7	62.6	13.2
	知的障害（N=240）	15.0	18.3	58.8	7.9
	精神障害（N=392）	18.4	21.4	56.4	3.8
	難病（N=348）	8.3	18.7	69.0	4.0
障害児保護者（N=185）		31.4	28.6	40.0	0.0

ウ パラハートちょうふ

- パラハートちょうふの認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病は「知らない」、障害児保護者は「聞いたことはある（内容は知らない）」が最も多くなっている。

単位：％		内容を知っている	（聞いたことはある）	知らない	無回答
市民（N=924）		5.6	26.8	64.5	3.0
高齢者（N=633）		5.1	24.5	63.3	7.1
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	5.0	30.3	60.1	4.6
	身体障害（65歳以上）（N=190）	8.9	25.3	54.7	11.1
	知的障害（N=240）	17.1	33.8	41.3	7.9
	精神障害（N=392）	8.4	34.9	53.3	3.3
	難病（N=348）	8.3	32.8	56.3	2.6
障害児保護者（N=185）		17.8	60.0	22.2	0.0

エ 調布市手話言語条例

- 調布市手話言語条例の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。

単位：％		内容を 知っ てい る	（聞 いた こと はあ る）	知 ら な い	無 回 答
市民（N=924）		1.5	7.7	87.7	3.1
高齢者（N=633）		2.1	8.4	82.3	7.3
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	3.8	11.3	79.4	5.5
	身体障害（65歳以上）（N=190）	5.3	14.2	68.4	12.1
	知的障害（N=240）	3.3	13.8	74.6	8.3
	精神障害（N=392）	3.8	10.7	80.4	5.1
	難病（N=348）	3.2	14.9	78.2	3.7
障害児保護者（N=185）		4.3	10.8	84.9	0.0

オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例

- 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例の認知度は、市民、高齢者、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病、障害児保護者ともに「知らない」が最も多くなっている。

単位：％		内容を 知っ てい る	（聞 いた こと はあ る）	知 ら な い	無 回 答
市民（N=924）		0.9	7.6	88.3	3.2
高齢者（N=633）		1.3	7.7	83.6	7.4
障害者 （18歳以上）	身体障害（64歳以下）（N=238）	3.4	10.9	80.7	5.0
	身体障害（65歳以上）（N=190）	6.3	15.8	68.9	8.9
	知的障害（N=240）	4.6	12.5	74.6	8.3
	精神障害（N=392）	2.6	10.7	83.9	2.8
	難病（N=348）	2.9	14.1	79.9	3.2
障害児保護者（N=185）		3.2	13.0	83.8	0.0

第2章 市民（18歳以上）調査結果

【調査名】誰もが暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 基本属性

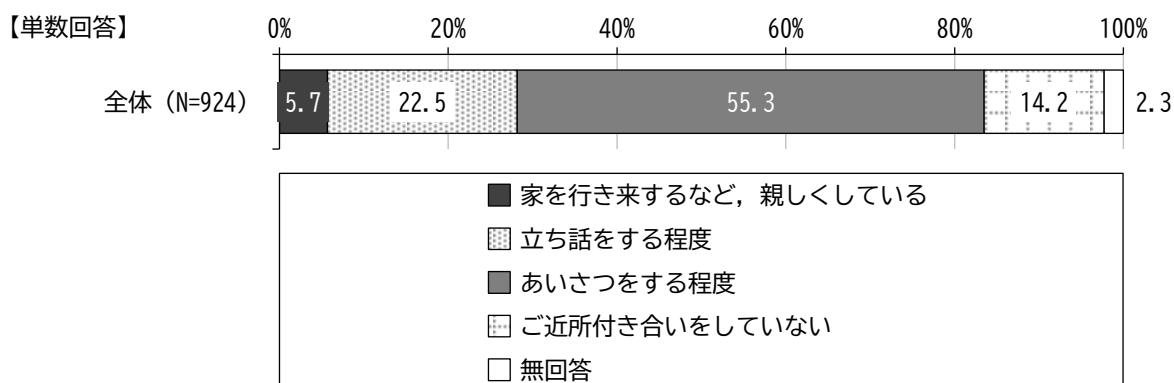
- 回答者の性別は、「男性（39.6%）」、「女性（58.7%）」、「その他（0.4%）」である。
- 年齢は、「50歳代（18.2%）」が最も多く、「40歳代（15.9%）」、「60歳代（15.5%）」が続いている。
- 居住地域の割合を福祉圏域別にみると、「第一・富士見台・多摩川（15.4%）」が最も多く、「第二・八雲台・国領（14.1%）」「第三・石原・飛田給（14.1%）」、「緑ヶ丘・滝坂（13.7%）」が続いている。
- 居住年数は、「30年以上（32.1%）」が最も多く、「10年以上20年未満（21.1%）」、「20年以上30年未満（17.4%）」が続いている。
- 住居形態は、「持ち家（一戸建て）（40.8%）」が最も多く、「民間賃貸（集合住宅）（25.0%）」、「持ち家（集合住宅）（23.7%）」が続いている。
- 家族構成は、「夫婦と子ども（二世帯同居）（35.3%）」が最も多く、「夫婦のみ（25.1%）」、「ひとり暮らし（18.0%）」が続いている。

2 日頃のコミュニケーションについておたずねします

◆近所付き合いの状況

問8 ご近所付き合いは、どの程度していますか。（主なもの1つに○）

- 近所付き合いの状況は、「あいさつをする程度（55.3%）」が最も多く、「立ち話をする程度（22.5%）」、「ご近所付き合いをしていない（14.2%）」が続いている。
- 「家を行き来するなど、親しくしている」と「立ち話をする程度」を合わせた『親密な近所付き合いをしている』の割合は28.2%となっている。

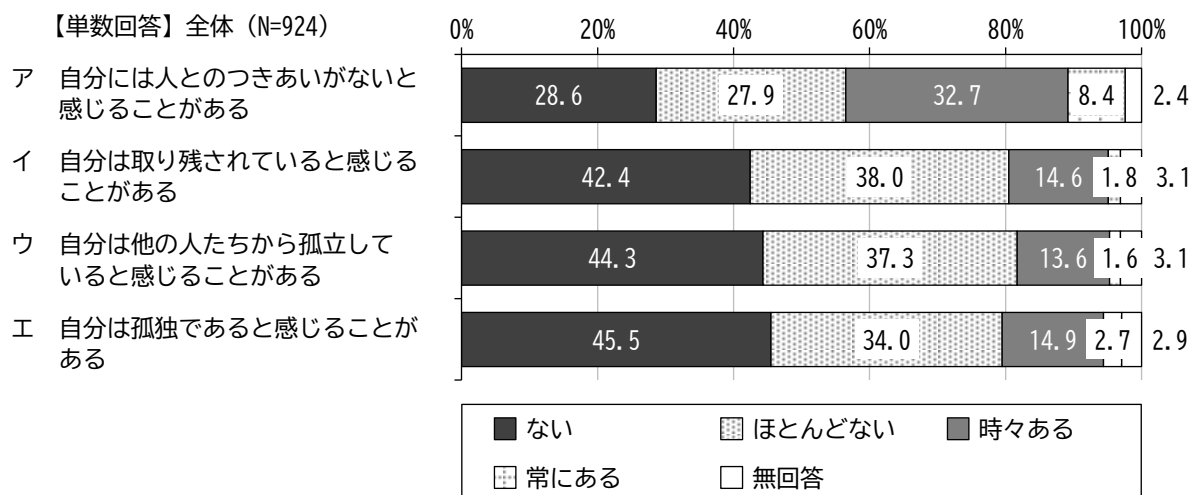


- 経年で比較すると、今回の『親密な近所付き合いをしている』の割合は、これまでの調査のうち、最も少なくなっている。

◆孤独・孤立の状況

問 10 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感ずることがある (41.1%)] が最も多く、[エ 自分は孤独であると感じることがある (17.6%)], [イ 自分は取り残されていると感じることがある (16.4%)] が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 問 10 の項目「エ」が孤独な状況を直接うかがう「直接質問」であるのに対し、項目「ア」～「ウ」は「UCLA 孤独感尺度 (日本語版の3項目短縮版)」と呼ばれ、間接的な質問 (間接質問) により回答をスコア化して孤独感を評価するものである。
- 今回は、令和6年に内閣府が行った「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」に倣い、「ない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化し、その合計スコアについて、便宜的に「10～12点」(常にある)、「7～9点」(時々ある)、「4～6点」(ほとんどない)、「3点」(決してない) の4区分に整理した。

- 間接質問のスコア化の結果を性別にみると、男性、女性ともに「ほとんどない」が最も多くなっている。
- 年代別にみると、70歳代で「決してない」、20歳代、30歳代、50歳代、80歳以上で「ほとんどない」、40歳代、60歳代で「時々ある」が最も多く、10歳代で「決してない」と「時々ある」が同率となっている。

<孤独感尺度>

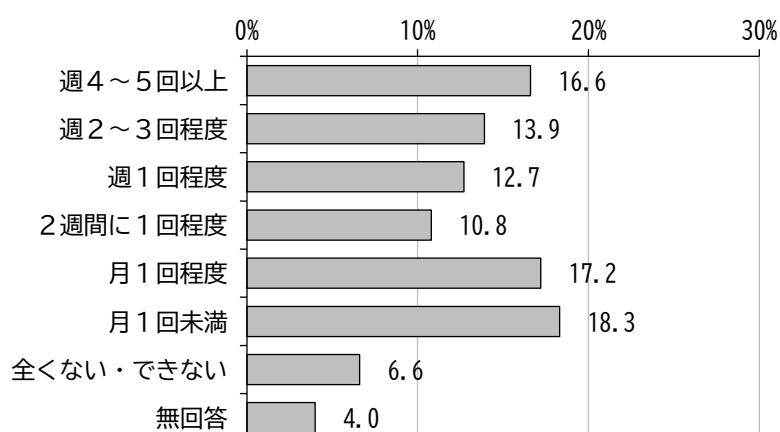
		決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体 (N=924)		25.2	37.7	31.3	2.6	3.2
性別	男性 (n=366)	24.9	36.6	32.0	2.7	3.8
	女性 (n=542)	25.6	38.4	31.2	2.6	2.2
	その他 (n=4)	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
年代別	10歳代 (n=12)	33.3	25.0	33.3	8.3	0.0
	20歳代 (n=79)	32.9	40.5	22.8	2.5	1.3
	30歳代 (n=119)	20.2	42.0	37.0	0.8	0.0
	40歳代 (n=147)	21.1	36.1	38.8	3.4	0.7
	50歳代 (n=168)	20.2	36.9	35.7	6.5	0.6
	60歳代 (n=143)	26.6	32.9	35.0	2.1	3.5
	70歳代 (n=134)	38.8	38.1	20.9	0.0	2.2
	80歳以上 (n=113)	20.4	41.6	23.0	0.9	14.2

問 11 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同じ居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す(手話等を含む)

○ 直接会って話す(手話等を含む)頻度は、「月1回未満(18.3%)」が最も多く、「月1回程度(17.2%)」、「週4～5回以上(16.6%)」が続いている。

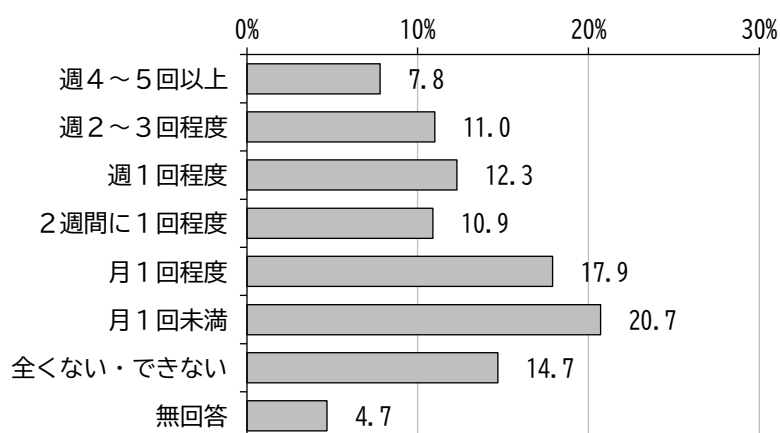
【単数回答】全体 (N=924)



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回未満（20.7%）」が最も多く、「月1回程度（17.9%）」、「全くない・できない（14.7%）」が続いている。

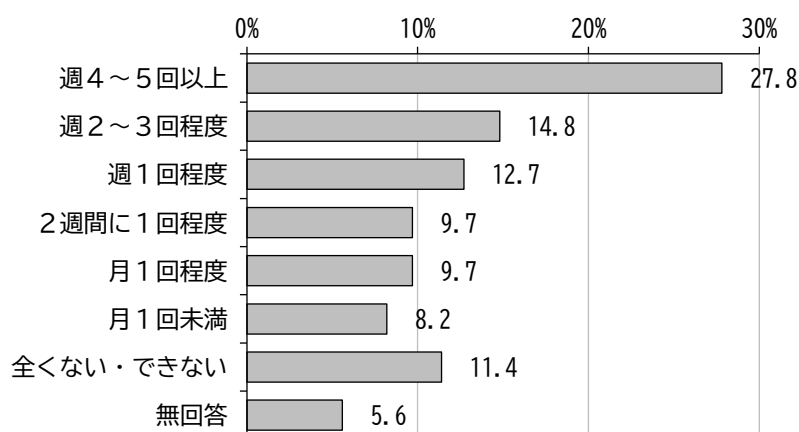
【単数回答】全体（N=924）



ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、「週4～5回以上（27.8%）」が最も多く、「週2～3回程度（14.8%）」、「週1回程度（12.7%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=924）



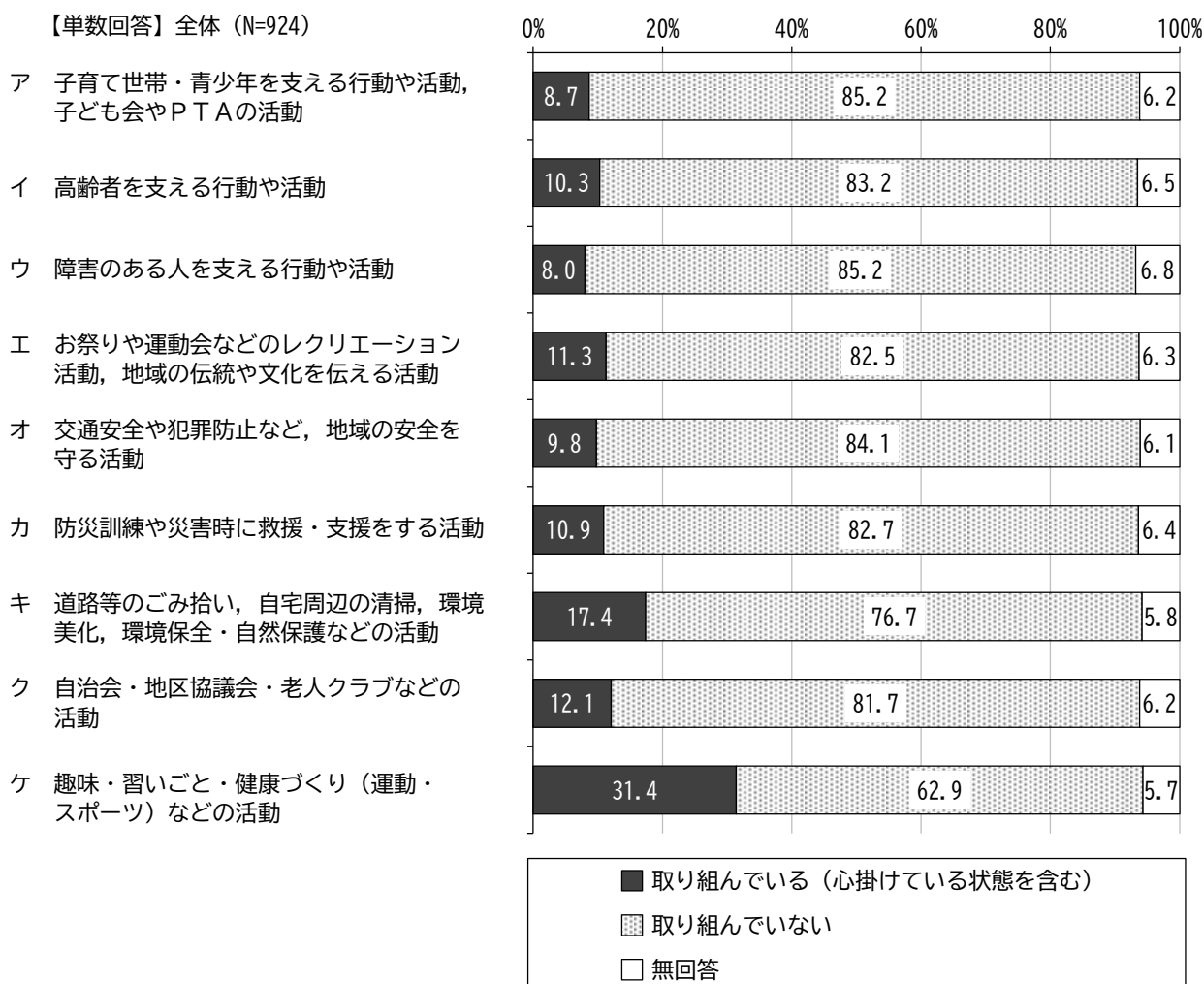
3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします

◆地域活動・ボランティア活動の取組状況、今後の取組意向

問 14 あなたは地域での活動に参加したり、地域のために日頃から心掛けていますか。①現在の状況、②今後の意向をお答えください。(それぞれ1つに○)

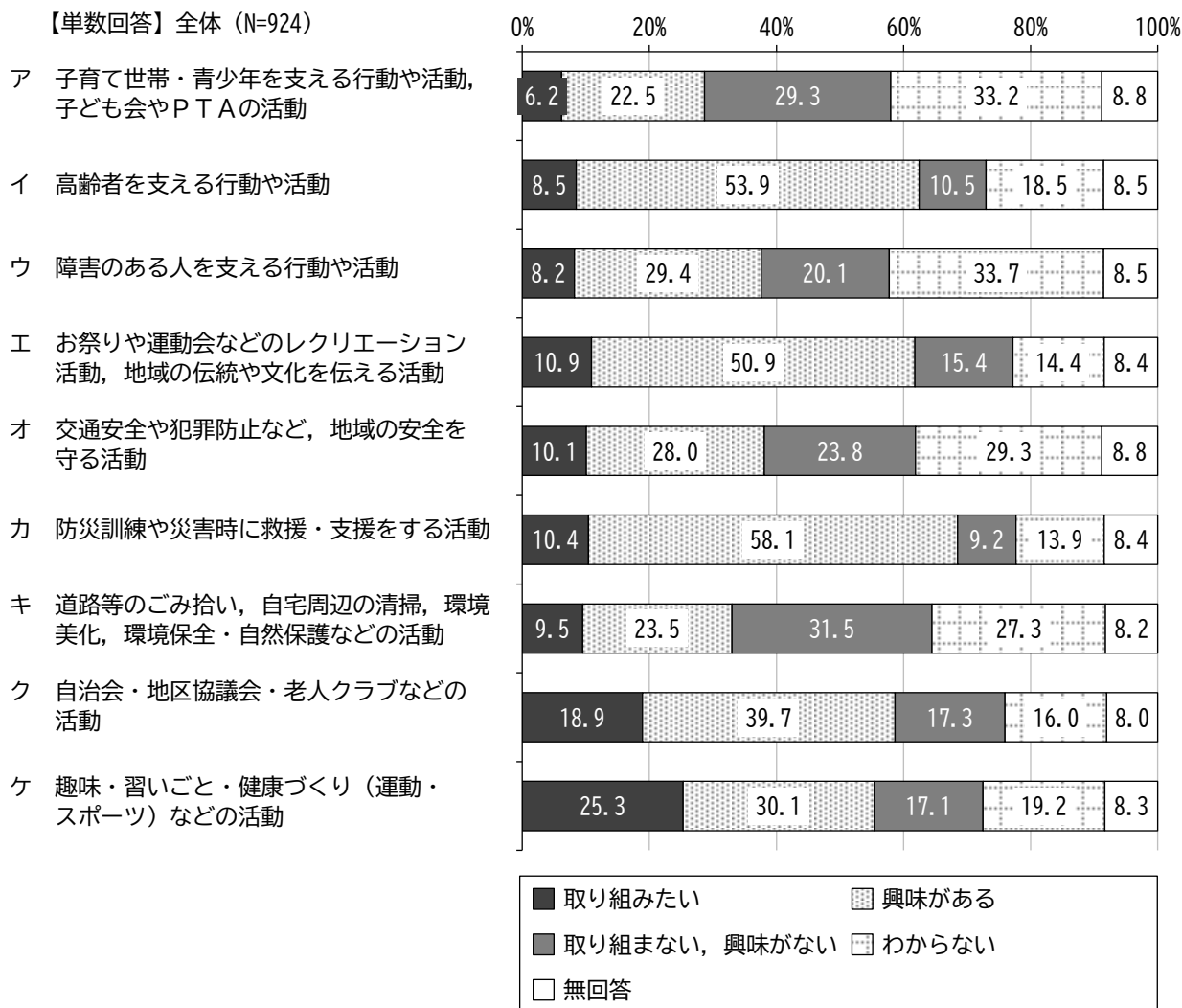
①現在の状況

- 地域での活動等の取組状況について、すべての活動で「取り組んでいない」が多くなっている。
- 「取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」の割合は、[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（31.4%）]が最も多く、[キ 道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃、環境美化、環境保全・自然保護などの活動（17.4%）]、[ク 自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動（12.1%）]が続いている。



②今後の意向

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合は、[カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（68.5%）]が最も多く、[イ 高齢者を支える行動や活動（62.4%）]，[エ お祭りや運動会などのレクリエーション活動，地域の伝統や文化を伝える活動（61.8%）]が続いている。

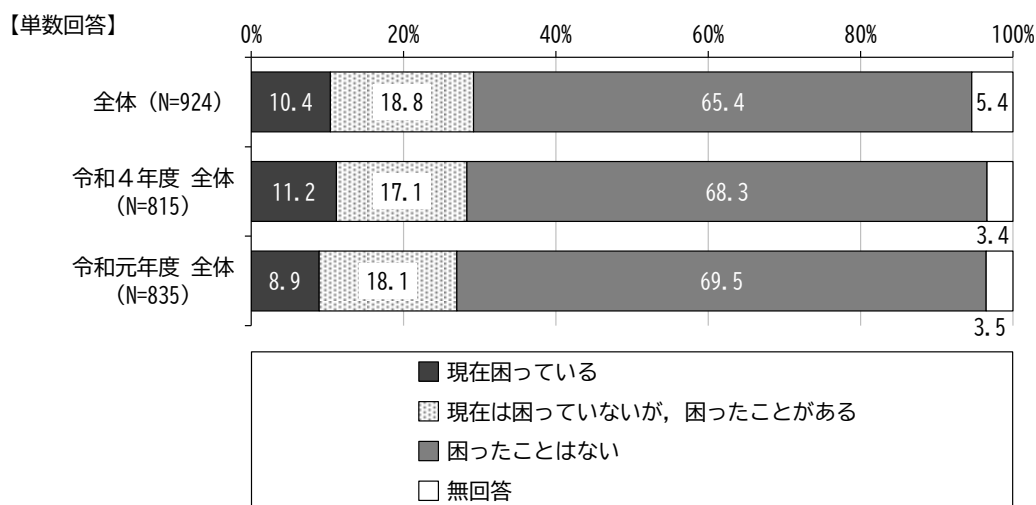


4 暮らしのことについておたずねします

◆経済的に困った経験、その原因

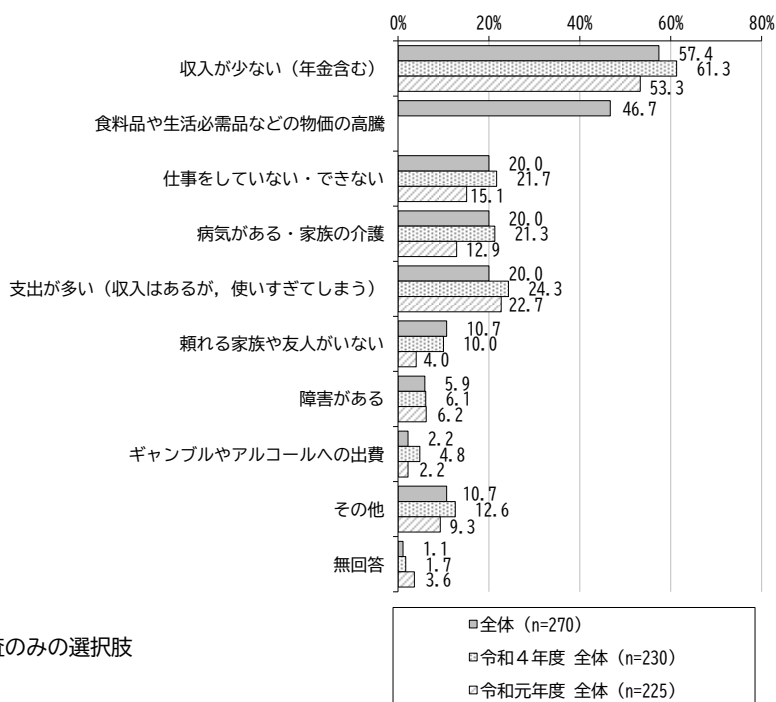
問 16 これまでに経済的に困った経験がありますか。(1つに○)

- 経済的に困った経験は、「困ったことはない(65.4%)」が最も多く、「現在は困っていないが、困ったことがある(18.8%)」、「現在困っている(10.4%)」が続いている。
- 「現在困っている」と「現在は困っていないが、困ったことがある」を合わせた『困ったことがある』は29.2%となっている。
- 令和元年度、令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



付問 問16で「1～2(困っている、困ったことがある)」と答えた人におたずねします。
困っている(困った)原因は何ですか。(いくつでも○)

- 困っている(困った)原因は、「収入が少ない(年金含む)(57.4%)」が最も多く、「食料品や生活必需品などの物価の高騰(46.7%)」、「仕事をしていない・できない(20.0%)」、「病気がある・家族の介護(20.0%)」、「支出が多い(収入はあるが、使いすぎてしまう)(20.0%)」が続いている。



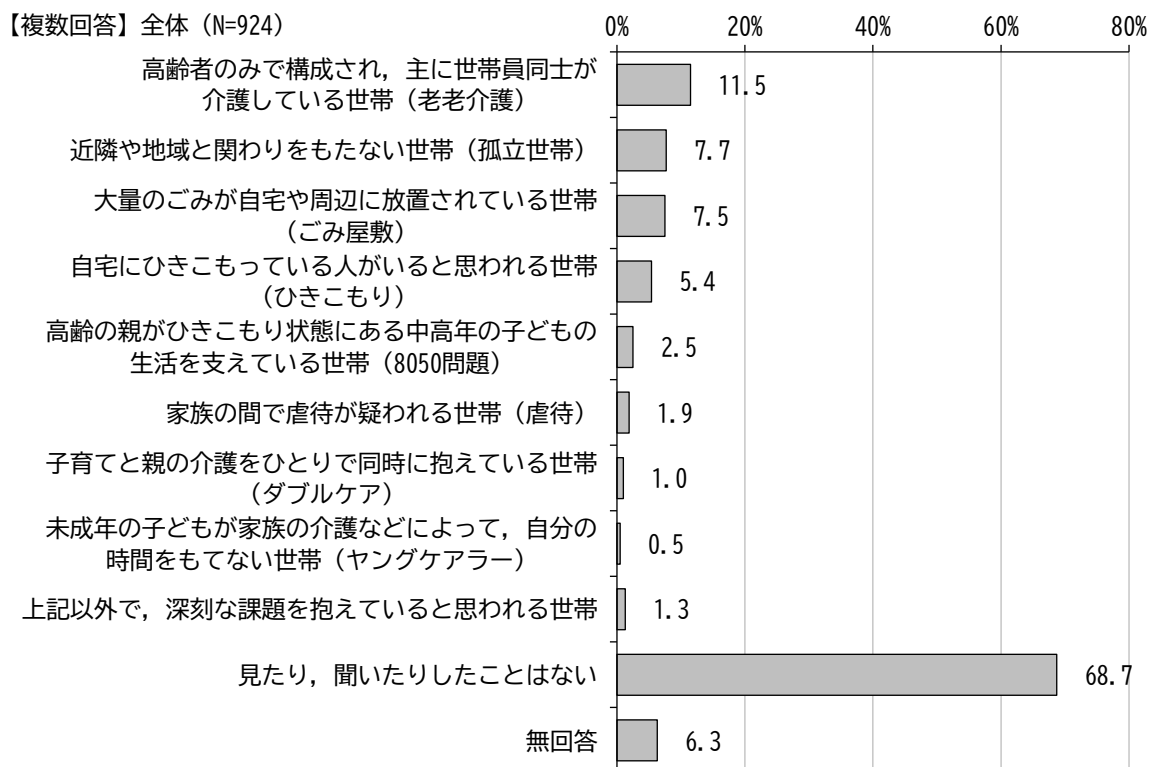
※「食料品や生活必需品などの物価の高騰」は今回調査のみの選択肢

※令和元年度は「特になし」(8.4%)の選択肢あり

◆複雑な課題を抱えた世帯の見聞状況

問 19 あなたの地域で次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。
(いくつでも○)

- 複雑な課題を抱えた世帯の見聞状況は、「見たり、聞いたりしたことはない(68.7%)」が最も多く、「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯(老老介護)(11.5%)」、「近隣や地域と関わりをもたない世帯(孤立世帯)(7.7%)」、「近隣や地域と関わりをもたない世帯(孤立世帯)(7.7%)」が続いている。



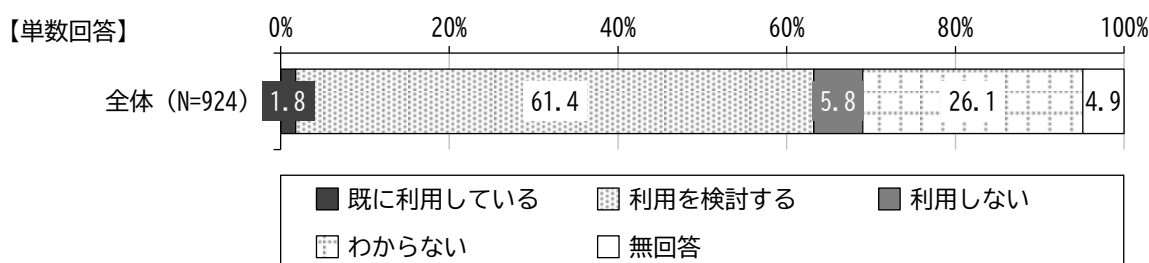
5 市民の権利を守る取組についておたずねします

◆市民の権利を守る制度や事業の利用意向、利用しない・わからない理由

問 24 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて、あるいは既にできない場合、前問（問 23）のいずれかの制度や事業を利用したいと思いますか。（1 つに○）

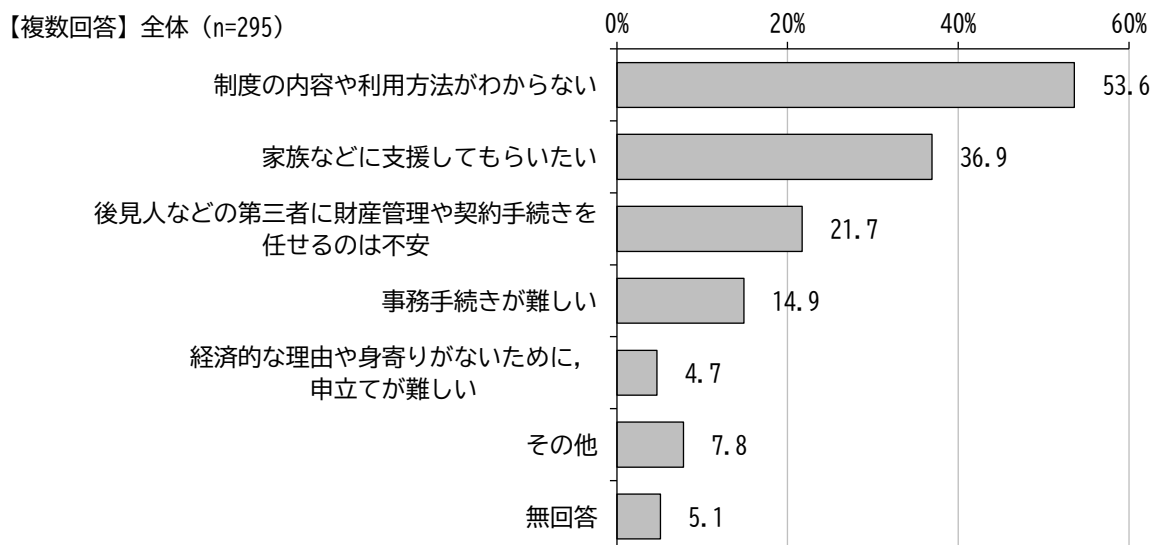
（注）問 23 の選択肢：ア 成年後見制度 イ 法定後見制度 ウ 任意後見制度 エ 市民後見人
オ 専門職紹介制度 カ 地域福祉権利擁護事業 キ あんしん未来支援事業

○ 問 23 の市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業の利用意向は、「利用を検討する（61.4%）」が最も多く、「わからない（26.1%）」、「利用しない（5.8%）」が続いている。



付問 問 24 で「3 利用しない」、「4 わからない」と答えた方におたずねします。
制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は何ですか。
（いくつでも○）

○ 制度を利用しない、または、わからないと答えた主な理由は、「制度の内容や利用方法がわからない（53.6%）」が最も多く、「家族などに支援してもらいたい（36.9%）」、「後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せるのは不安（21.7%）」が続いている。



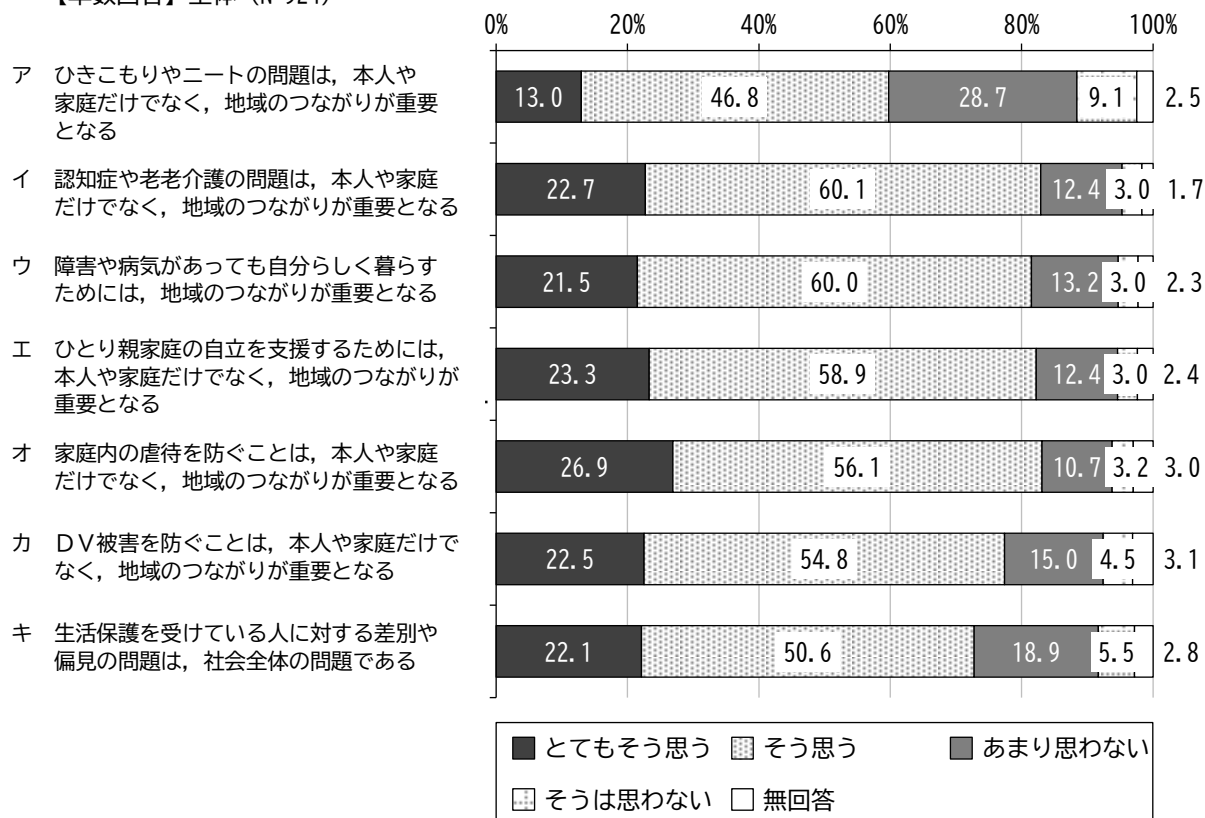
6 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

◆地域のつながりに対する考え方

問 26 地域のつながりに対する考え方について、あなたはどのように思いますか。
(それぞれ1つに○)

- 地域のつながりに対する考え方について、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、[オ 家庭内の虐待を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (83.0%)] が最も多く、[イ 認知症や老老介護の問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (82.8%)], [エ ひとり親家庭の自立を支援するためには、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (82.2%)] が続いている。
- 一方、「あまり思わない」と「そうは思わない」を合わせた『そう思わない』の割合は、[ア ひきこもりやニートの問題は、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (37.8%)] が最も多く、[キ 生活保護を受けている人に対する差別や偏見の問題は、社会全体の問題である (24.4%)], [カ DV被害を防ぐことは、本人や家庭だけでなく、地域のつながりが重要となる (19.5%)] が続いている。

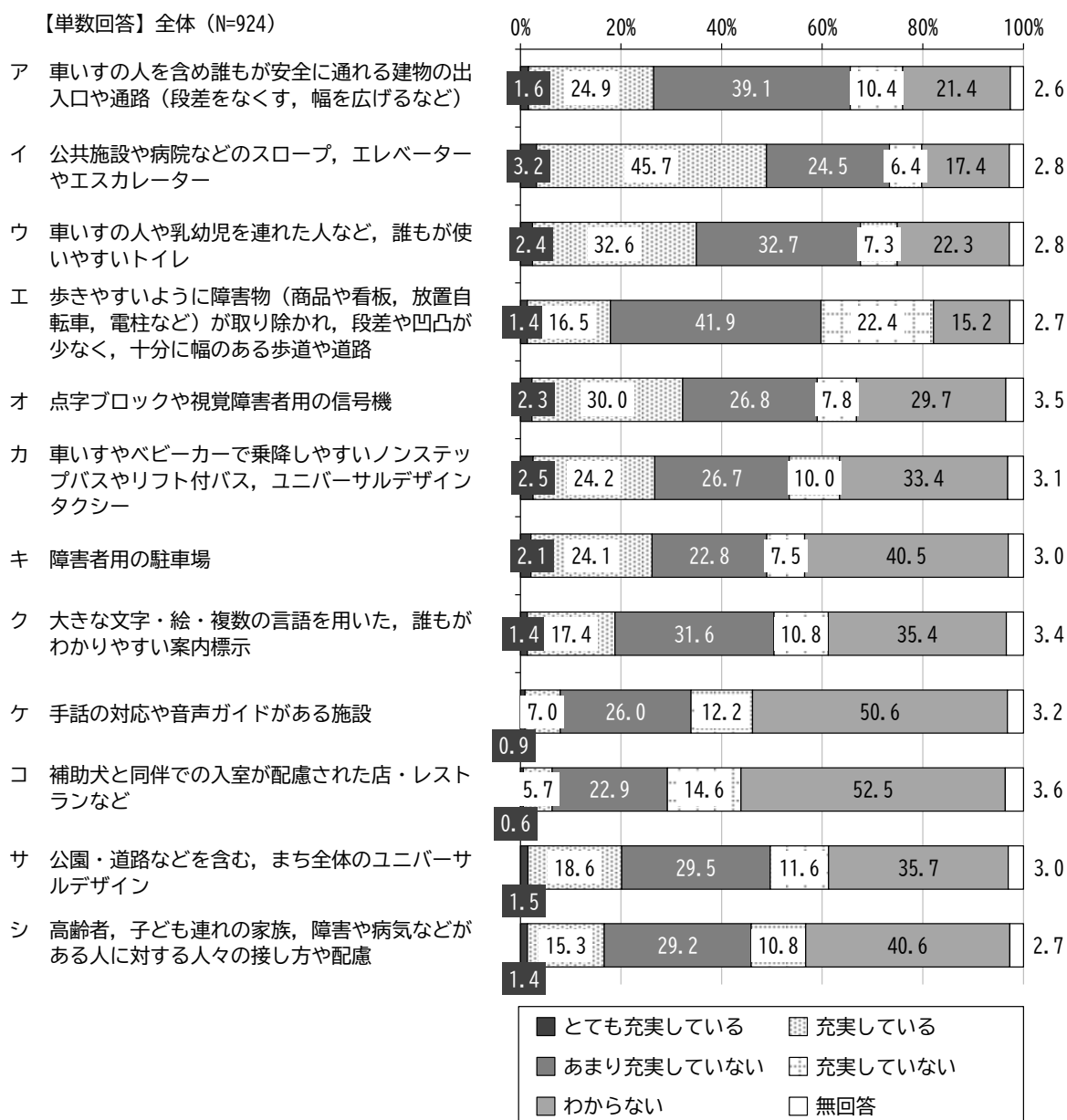
【単数回答】全体 (N=924)



◆市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況

問 27 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター (48.9%)] が最も多く、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人など、誰もが使いやすいトイレ (35.0%)], [オ 点字ブロックや視覚障害者用の信号機 (32.3%)] が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく、十分に幅のある歩道や道路 (64.3%)] が最も多く、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど） (49.5%)], [ク 大きな文字・絵・複数の言語を用いた、誰もがわかりやすい案内標示 (42.4%)] が続いている。



第3章 高齢者（65歳以上）調査結果

【調査名】高齢者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 基本属性

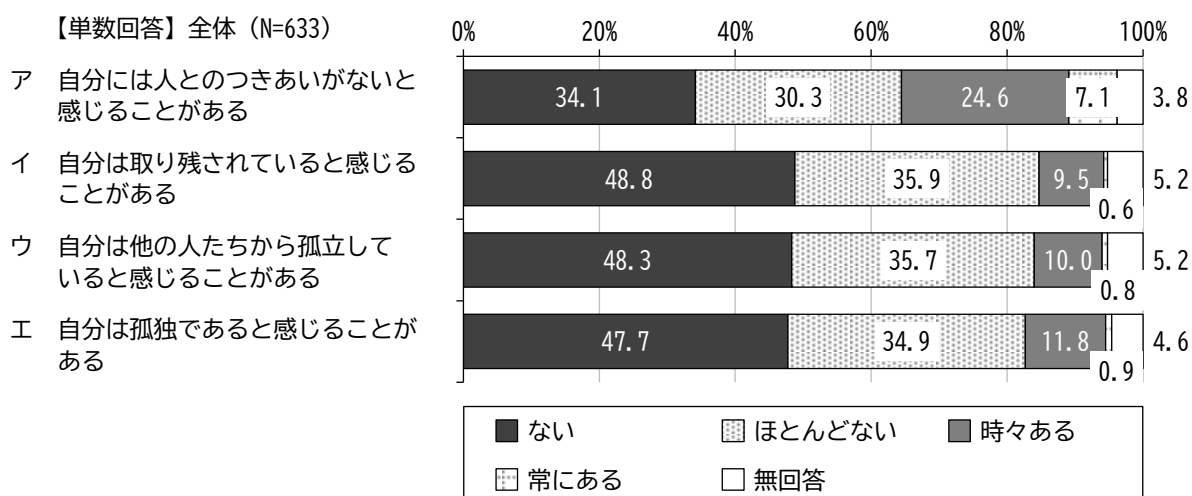
- 性別は、「男性（40.0%）」、「女性（56.2%）」、「その他（0.3%）」である。
- 年齢は、「75～79歳（23.4%）」が最も多く、「65～69歳（21.3%）」、「85歳以上（17.9%）」が続いている。
- 居住地域（福祉圏域）は、「第二・八雲台・国領（16.1%）」が最も多く、「第三・石原・飛田給（14.8%）」、「染地・杉森・布田（12.5%）」が続いている。
- 居住年数は、「30年以上（59.6%）」が最も多く、「20年以上30年未満（16.1%）」、「10年以上20年未満（9.6%）」が続いている。
- 住居形態は、「自宅（持ち家）で生活している（72.5%）」が最も多く、「自宅（賃貸）で生活している（20.5%）」、「上記以外（2.5%）」が続いている。
- 家族構成は、「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）（36.5%）」が最も多く、「上記（1～4）以外（28.9%）」、「ひとり暮らし（22.3%）」が続いている。

2 日頃のコミュニケーションについておたずねします

◆孤独・孤立の状況

問10 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
（それぞれ1つに○）

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感ずることがある（31.7%）]が最も多く、[エ 自分は孤独であると感じることがある（12.7%）]、[ウ 自分は他の人たちから孤立していると感ずることがある（10.8%）]が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 「UCLA 孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」による間接質問のスコア化の結果を年代別にみると、65～69歳で「決してない」が最も多く、それ以外の年代で「ほとんどない」が最も多くなっている。

単位：％		決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体（N=633）		30.8	40.3	21.6	1.6	5.7
年代別	65～69歳（n=135）	36.3	34.1	25.2	1.5	3.0
	70～74歳（n=112）	26.8	44.6	25.9	1.8	0.9
	75～79歳（n=148）	33.1	38.5	22.3	1.4	4.7
	80～84歳（n=105）	28.6	41.9	20.0	1.0	8.6
	85歳以上（n=113）	25.7	44.2	15.0	2.7	12.4

－ 孤独感尺度 －

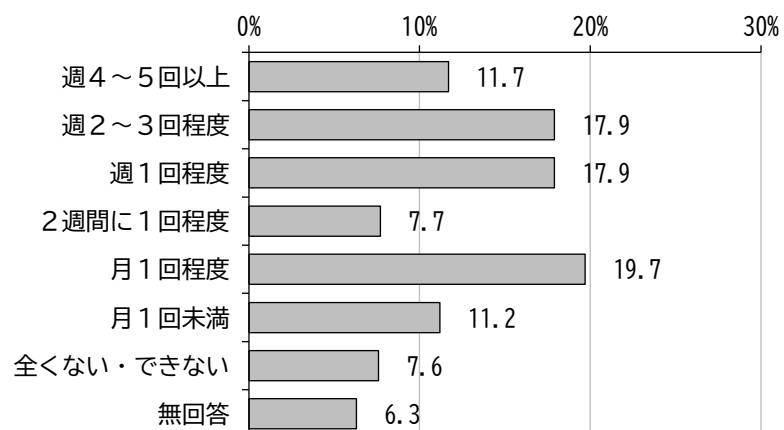
- 問 10 の項目「エ」が孤独な状況を直接うかがう「直接質問」であるのに対し、項目「ア」～「ウ」は「UCLA 孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」と呼ばれ、間接的な質問（間接質問）により回答をスコア化して孤独感を評価するものである。
- 今回は、令和 6 年に内閣府が行った「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」に倣い、「ない」を 1 点、「ほとんどない」を 2 点、「時々ある」を 3 点、「常にある」を 4 点としてスコア化し、その合計スコアについて、便宜的に「10～12 点」（常にある）、「7～9 点」（時々ある）、「4～6 点」（ほとんどない）、「3 点」（決してない）の 4 区分に整理した。

問 11 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。（それぞれ1つに○）

ア 直接会って話す（手話等を含む）

- 直接会って話す（手話等を含む）頻度は、「月 1 回程度（19.7%）」が最も多く、「週 2～3 回程度（17.9%）」、「週 1 回程度（17.9%）」が続いている。

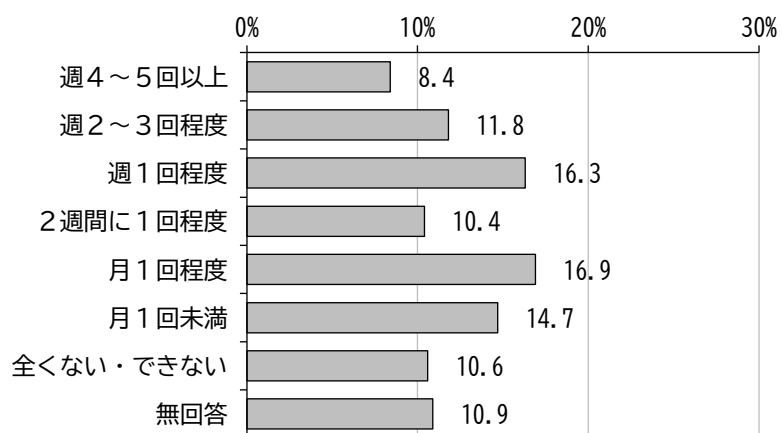
【単数回答】全体（N=633）



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回程度（16.9%）」が最も多く、「週1回程度（16.3%）」、「月1回未満（14.7%）」が続いている。

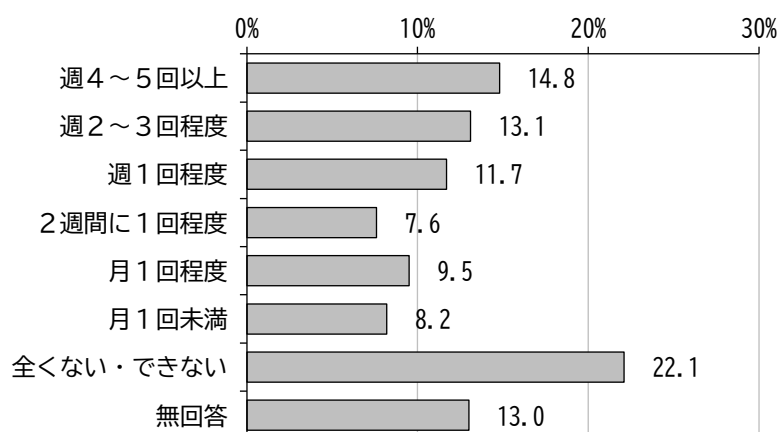
【単数回答】全体（N=633）



ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、「全くない・できない（22.1%）」が最も多く、「週4～5回以上（14.8%）」、「週2～3回程度（13.1%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=633）



3 市民同士の支え合い、地域活動についておたずねします

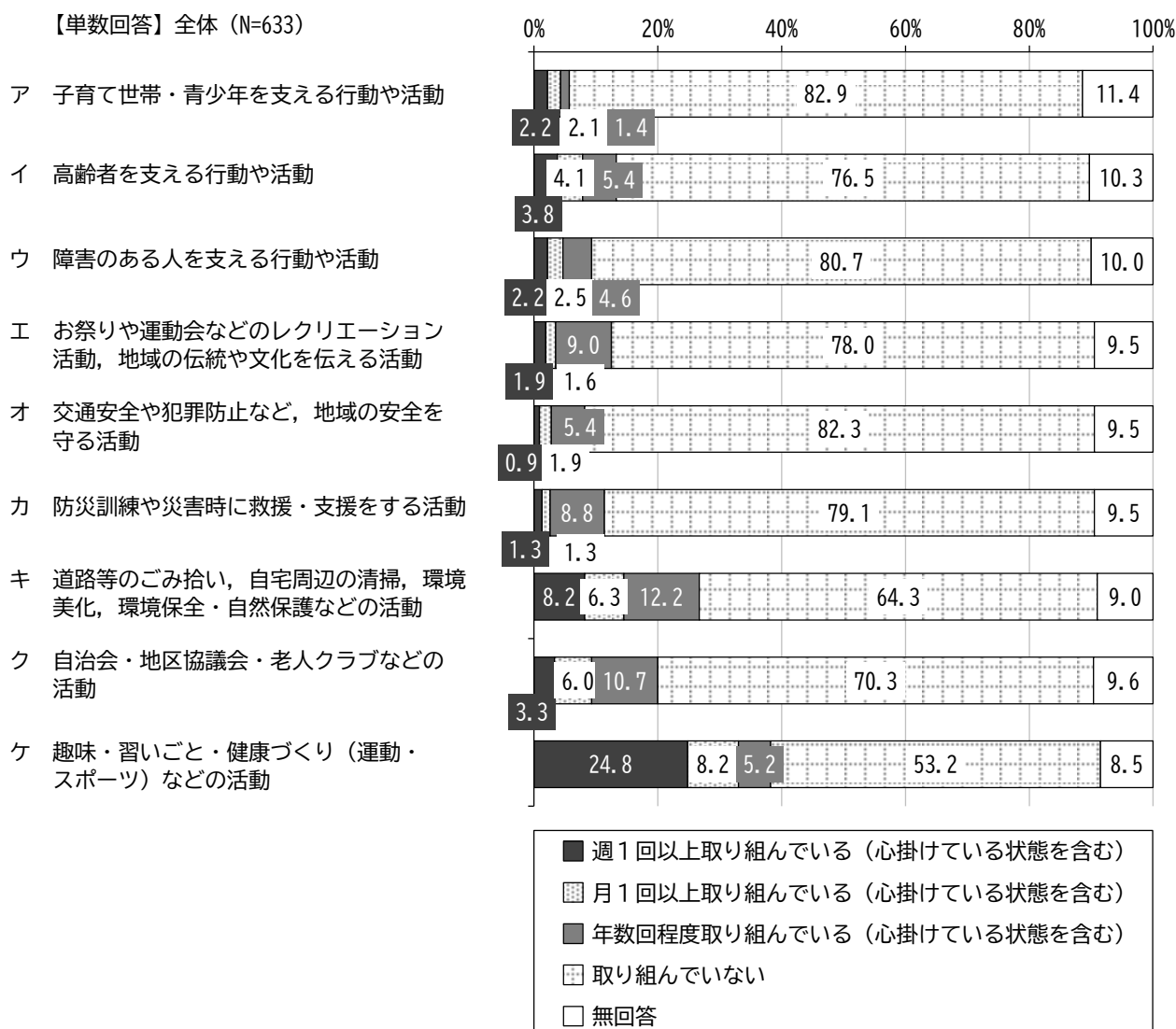
◆地域活動・ボランティア活動の取組状況、今後の取組意向

問 15 あなたは地域での活動に参加したり、地域のために日頃から心掛けていますか。①現在の状況、②今後の意向をお答えください。(それぞれ1つに○)

①現在の状況

- 地域での活動等の取組状況は、[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動]を除くすべての活動で「取り組んでいない」が6割を超えている。
- 「週1回以上取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」と「月1回以上取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」と「年数回程度取り組んでいる（心掛けている状態を含む）」を合わせた『取り組んでいる』の割合は、[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（38.2%）]が最も多く、[キ 道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃、環境美化、環境保全・自然保護などの活動（26.7%）]、[ク 自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動（20.0%）]が続いている。

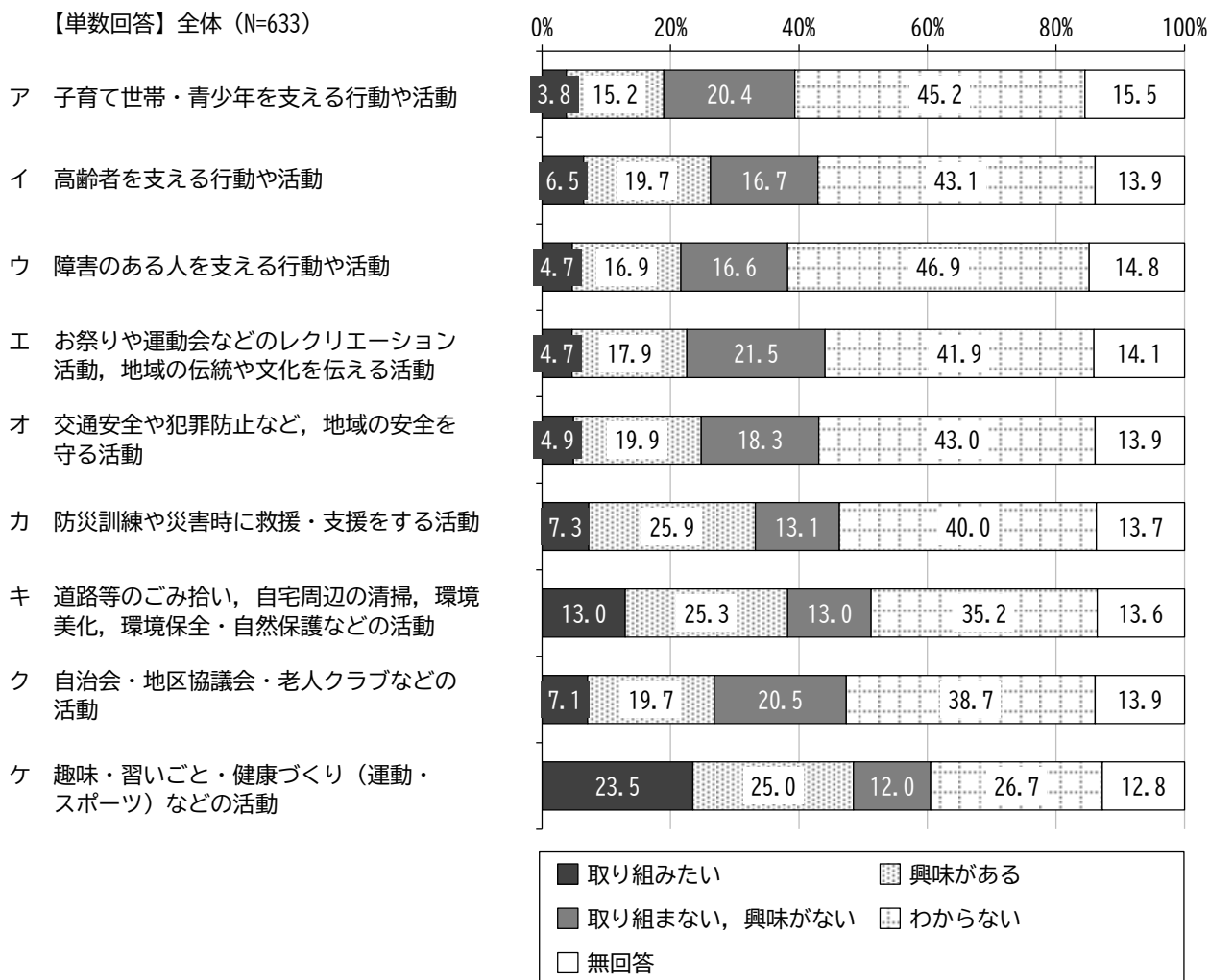
【単数回答】全体（N=633）



②今後の意向

- 地域での活動等の今後の取組意向について、「取り組みたい」と「興味がある」の合計割合は、[ケ 趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動（48.5%）]が最も多く、[キ 道路等のごみ拾い，自宅周辺の清掃，環境美化，環境保全・自然保護などの活動（38.3%）]，[カ 防災訓練や災害時に救援・支援をする活動（33.2%）]が続いている。

【単数回答】全体（N=633）

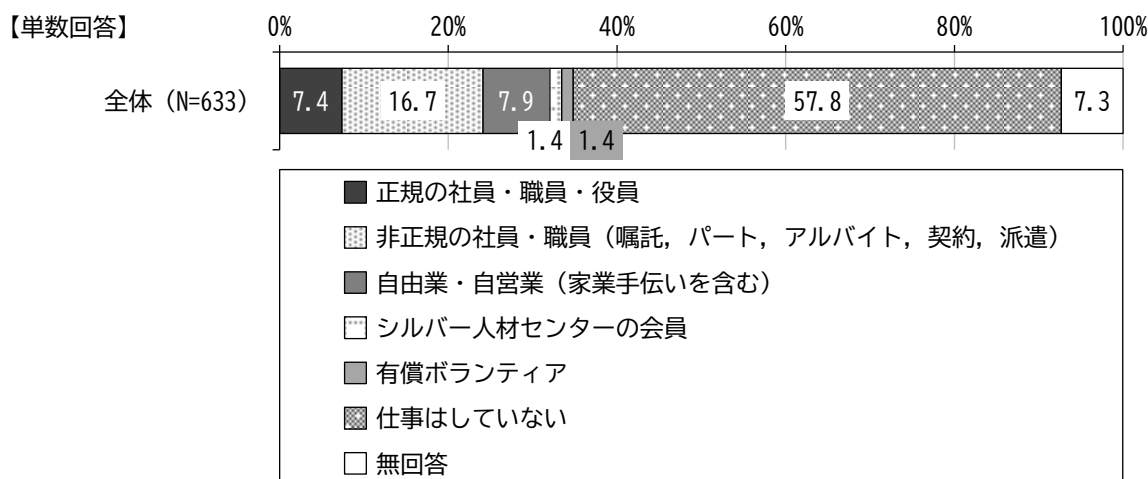


4 就労についておたずねします

◆現在の職業、就労に必要なこと

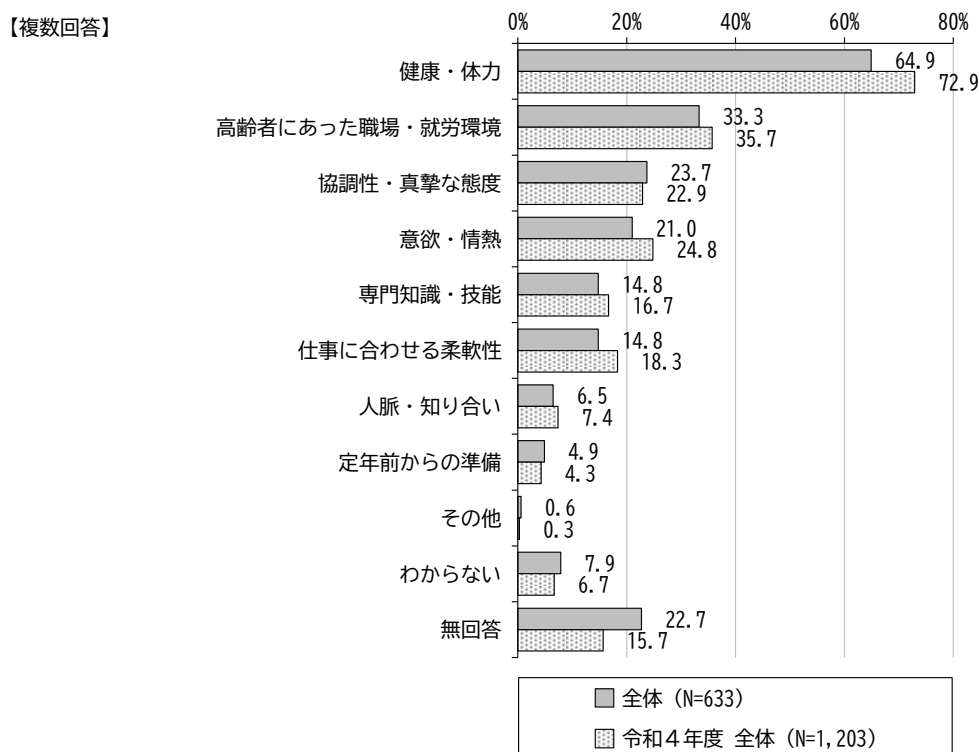
問 17 現在の職業を教えてください。(1つに○)

- 現在の職業は、「仕事はしていない (57.8%)」が最も多く、「非正規の社員・職員（嘱託，パート，アルバイト，契約，派遣）(16.7%)」，「自由業・自営業（家業手伝いを含む）(7.9%)」が続いている。



問 19 高齢者が就労する（続ける）ために特に必要なことは何ですか。（3つまで○）

- 高齢者が就労する（続ける）ために必要なことは、「健康・体力 (64.9%)」が最も多く，「高齢者にあった職場・就労環境 (33.3%)」，「協調性・真摯な態度 (23.7%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると，「健康・体力」が 8.0 ポイント低くなっている。



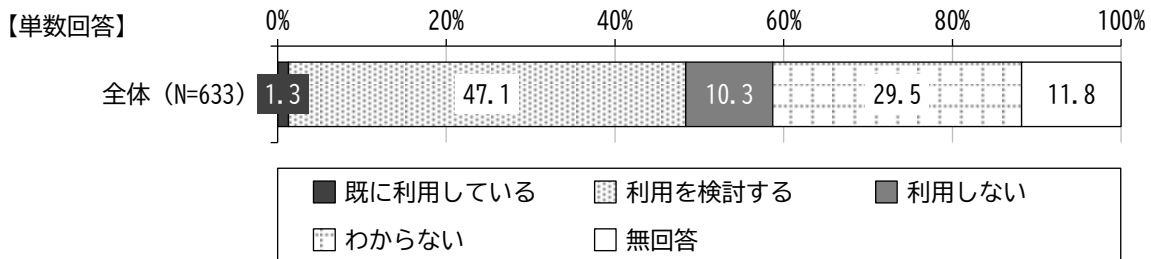
5 健康増進，権利擁護の取組についておたずねします

◆市民の権利を守る制度や事業の利用意向，利用しない・わからない理由

問 24 あなたやご家族のどなたかが認知症などによって判断が十分にできなくなる場合に備えて，あるいは既にできない場合，前問（問 23）のいずれかの制度を利用したいと思いませんか。（1 つに○）

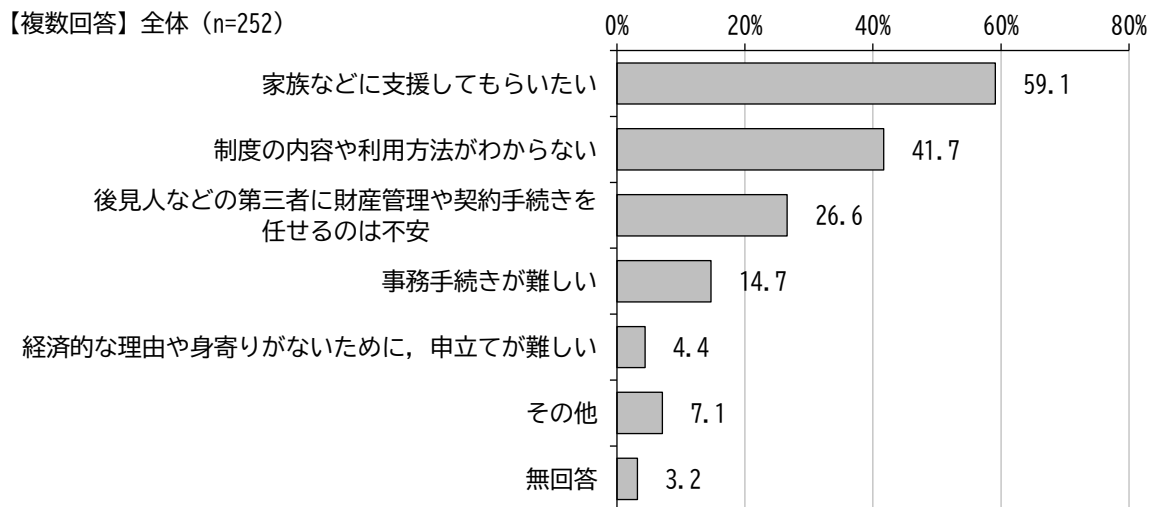
（注）問 23 の選択肢：ア 成年後見制度 イ 法定後見制度 ウ 任意後見制度 エ 市民後見人
オ 専門職紹介制度 カ 地域福祉権利擁護事業 キ あんしん未来支援事業

○ 問 23 の市や社会福祉協議会等で行っている市民の権利を守る制度や事業の利用意向は，「利用を検討する（47.1%）」が最も多く，「わからない（29.5%）」，「利用しない（10.3%）」が続いている。



付問 問 24 で「3 利用しない」，「4 わからない」と答えた方におたずねします。
制度を利用しない，または，わからないと答えた主な理由は何ですか。
（いくつでも○）

○ 制度を利用しない，または，わからないと答えた主な理由は，「家族などに支援してもらいたい（59.1%）」が最も多く，「制度の内容や利用方法がわからない（41.7%）」，「後見人などの第三者に財産管理や契約手続きを任せるのは不安（26.6%）」が続いている。



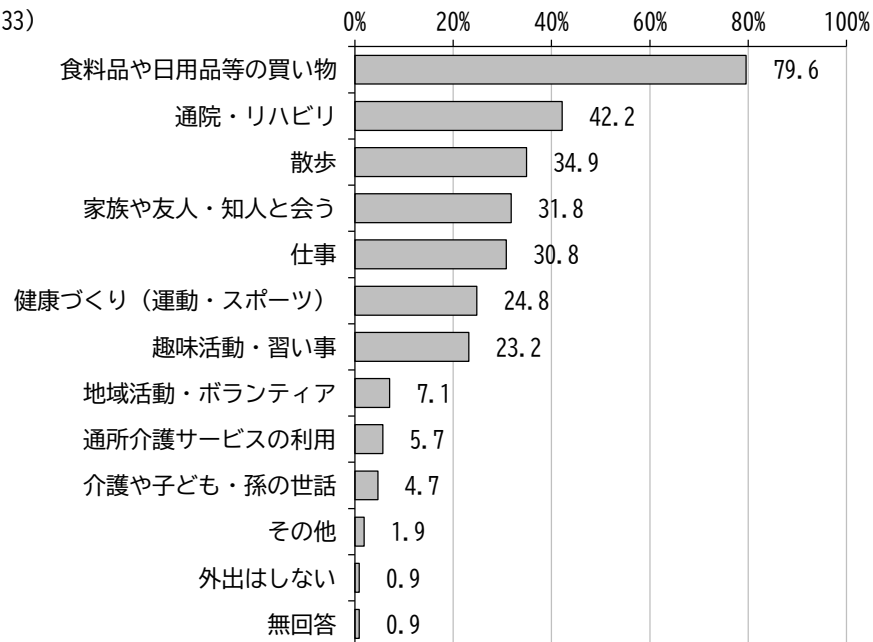
6 暮らしのことについておたずねします

◆外出の目的、移動手段

問 25 あなたは主にどのような目的で外出をしますか。(3つまで○)

- 外出の目的は、「食料品や日用品等の買い物 (79.6%)」が最も多く、「通院・リハビリ (42.2%)」、「散歩 (34.9%)」が続いている。

【複数回答】全体 (N=633)

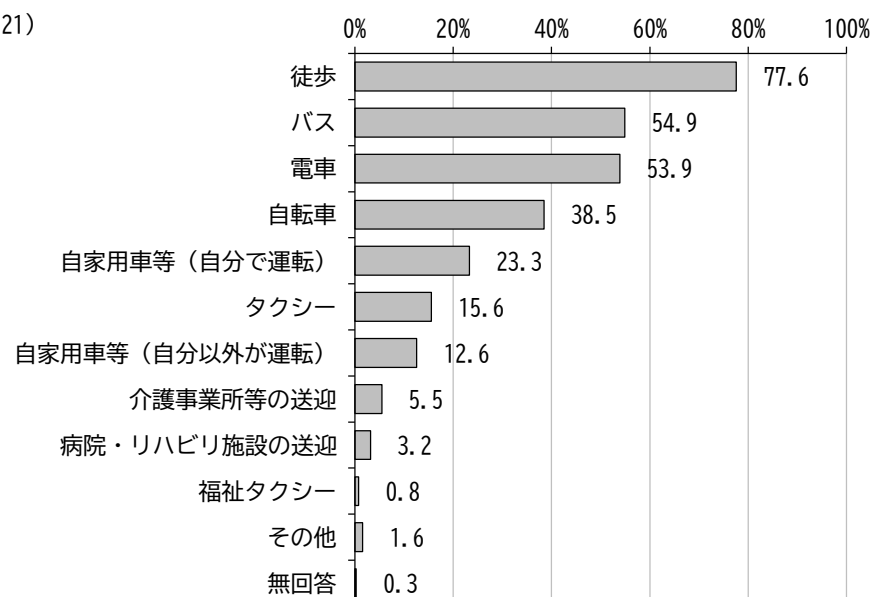


付問 前問 (問 25) で「1～11 (様々な目的で外出をする)」のいずれかに答えた方におたずねします。

利用している移動手段は何ですか。(いくつでも○)

- 利用している移動手段は、「徒歩 (77.6%)」が最も多く、「バス (54.9%)」、「電車 (53.9%)」が続いている。

【複数回答】全体 (n=621)

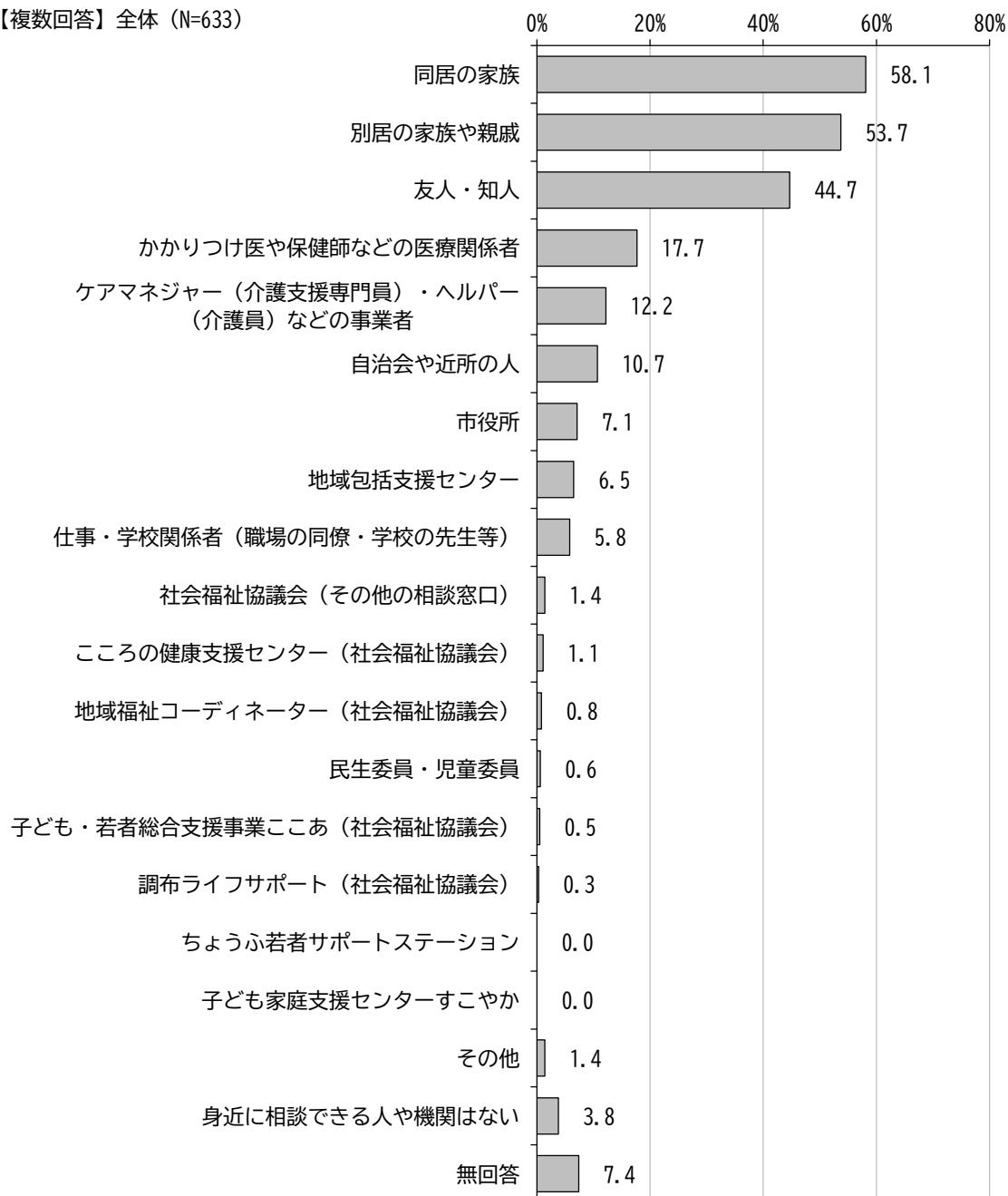


◆困りごとを相談できる人や機関

問 29 日常生活での困りごとを相談できる人や機関はありますか。(いくつでも○)

○ 日常生活での困りごとを相談できる人や機関は、「同居の家族 (58.1%)」が最も多く、「別居の家族や親戚 (53.7%)」,「友人・知人 (44.7%)」が続いている。

【複数回答】全体 (N=633)

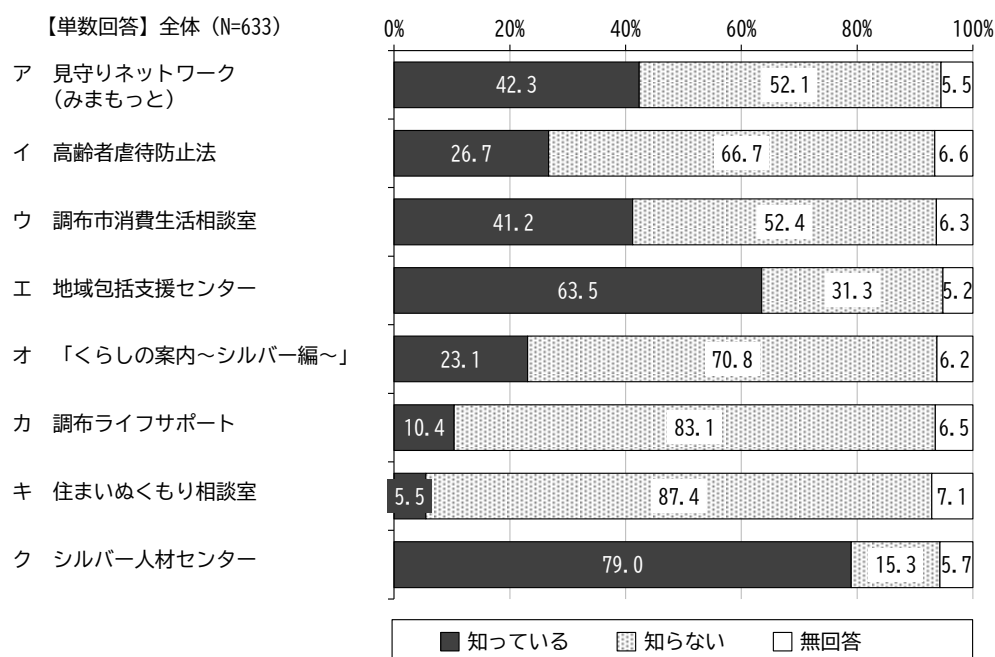


7 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

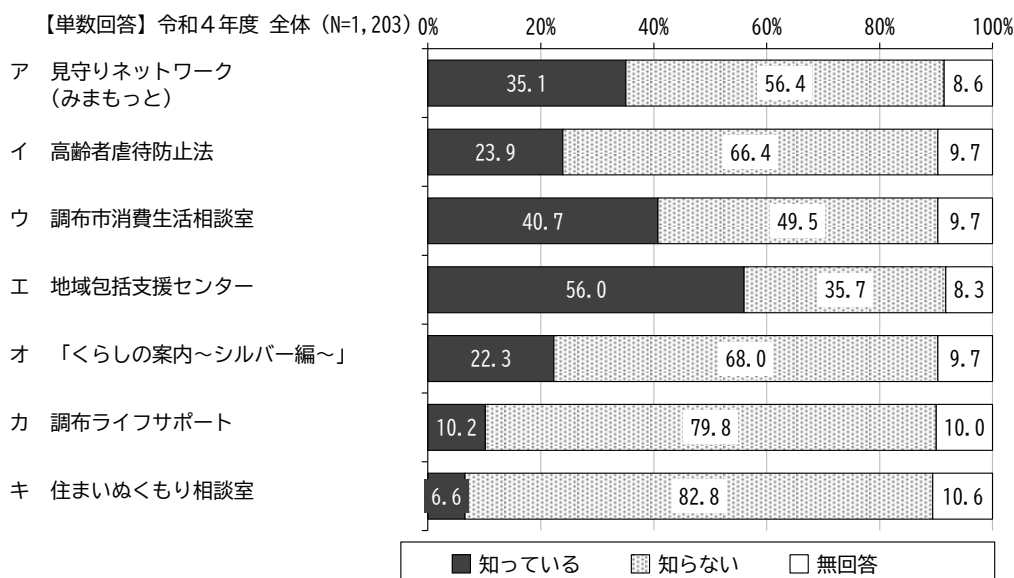
◆高齢者の生活を守る取組や相談窓口などの認知度

問 34 高齢者の生活を守る取組や相談窓口などがあります。下記のことをご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

- 高齢者の生活を守る取組や相談窓口などの認知状況について、「知っている」の割合は、
[ク シルバー人材センター (79.0%)] が最も多く、[エ 地域包括支援センター (63.5%)], [ア 見守りネットワーク (みまもっと) (42.3%)] が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「知っている」の割合は、[ア 見守りネットワーク (みまもっと)] が7.2ポイント、[エ 地域包括支援センター] が7.5ポイント、
それぞれ高くなっている。



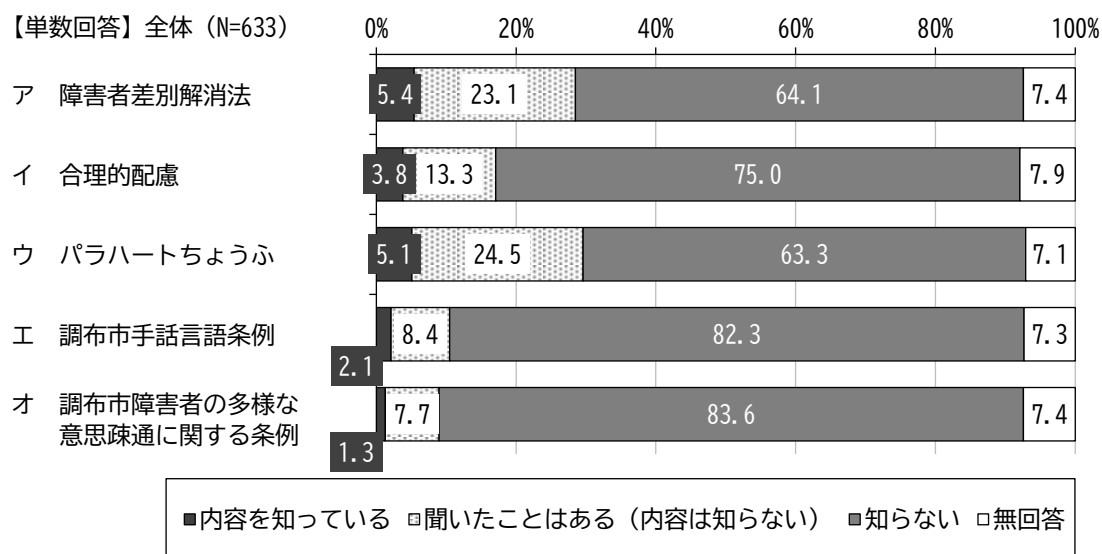
※ [ク シルバー人材センター] は今回調査のみの項目



◆共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した条例の認知度

問 36 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 共生社会の充実のための法律や考え方について、「内容を知っている」の割合は，[ア 障害者差別解消法（5.4%）] が最も多く，[ウ パラハートちょうふ（5.1%）] が続いている。市が令和6年度に制定した2つの条例について，「内容を知っている」の割合は，[エ 調布市手話言語条例（2.1%）]，[オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例（1.3%）] が続いている。



第4章 障害者（18歳以上）調査結果

【調査名】障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 基本属性

<回答者>

- 回答者は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害、難病は「本人」が最も多く、それぞれの割合は77.7%、73.2%、84.9%、85.3%となっている。
- 知的障害は「家族などが代筆（52.5%）」が最も多くなっている。

<障害者本人の性別>

- 性別は、身体障害（64歳以下）は「男性（54.6%）」、「女性（41.6%）」である。
- 身体障害（65歳以上）は「男性（54.2%）」、「女性（43.2%）」である。
- 知的障害は「男性（59.2%）」、「女性（35.8%）」である。
- 精神障害は「男性（43.9%）」、「女性（51.8%）」である。
- 難病は「男性（44.5%）」、「女性（52.6%）」である。

<障害者本人の年齢>

- 年齢は、身体障害（64歳以下）は「50歳代（28.6%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65歳以上）は「80歳以上（46.8%）」が最も多くなっている。
- 知的障害は「20歳代（37.5%）」、精神障害は「50歳代（26.0%）」、難病は「70歳代（24.4%）」が最も多くなっている。

<障害者本人の居住地域>

- 居住地域（福祉圏域）は、身体障害（64歳以下）は「第一・富士見台・多摩川（18.5%）」が最も多くなっている。
- 身体障害（65歳以上）、難病は「第二・八雲台・国領」が最も多く、それぞれの割合は16.8%、17.5%となっている。
- 知的障害は「第三・石原・飛田給（18.3%）」が最も多くなっている。
- 精神障害は「第二・八雲台・国領」「第三・石原・飛田給」（15.8%）が同率となっている。

<障害者本人の住居形態>

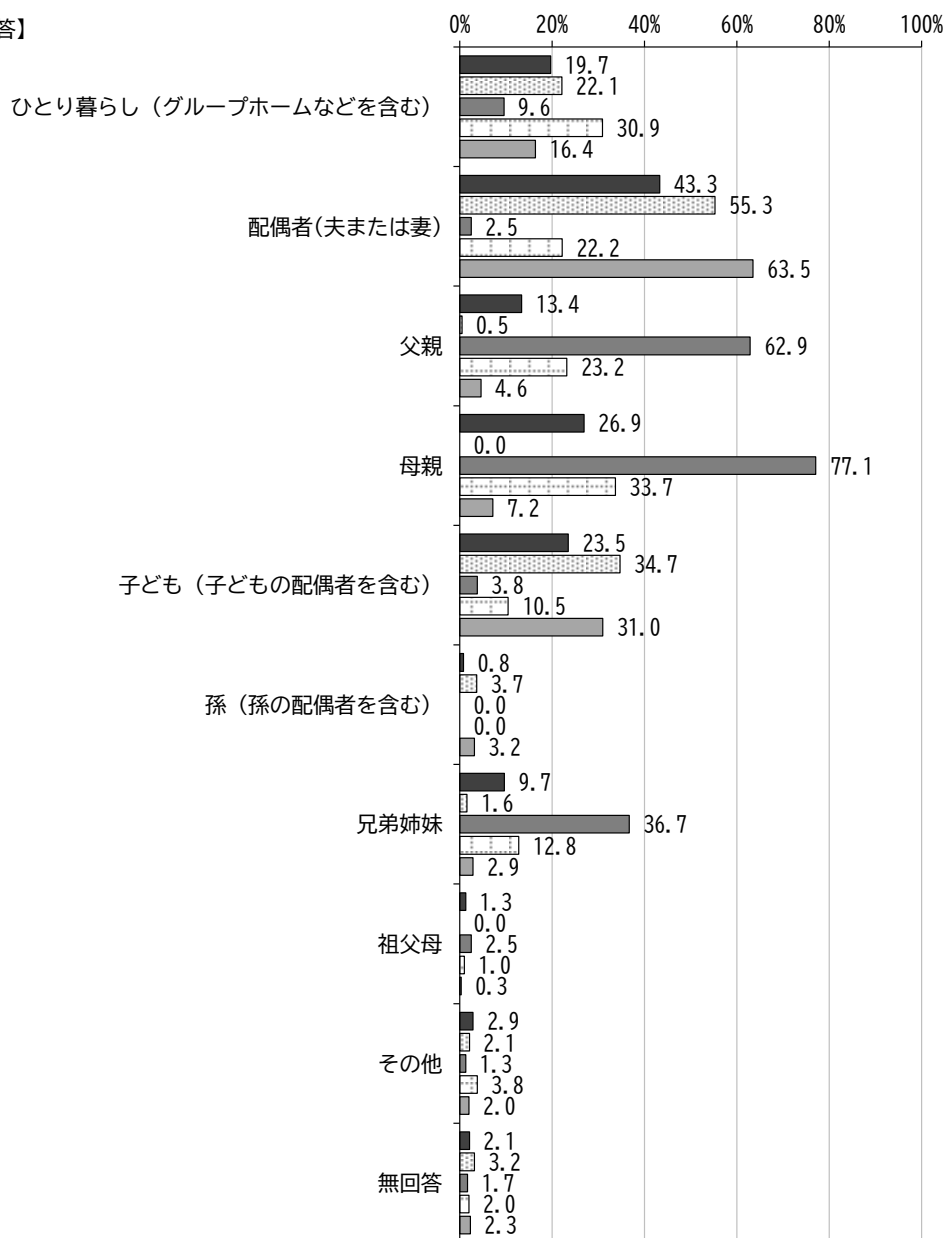
- 住居形態は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、難病は「持ち家」が最も多く、それぞれの割合は55.9%、65.3%、64.6%、66.1%となっている。
- 精神障害は「賃貸住宅（民間アパート、都営住宅などを含む）（57.9%）」が最も多くなっている。

◆同居の家族構成

問6 同居している家族を教えてください。(いくつでも○)

- 同居家族は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、難病は「配偶者(夫または妻)」が最も多く、それぞれの割合は43.3%，55.3%，63.5%となっている。
- 知的障害、精神障害は「母親」が最も多く、それぞれの割合は77.1%，33.7%となっている。
- また、知的障害では「父親」と「母親」との同居割合が多くなっている。

【複数回答】



■ 身体障害（64歳以下） (N=238)
 ▨ 身体障害（65歳以上） (N=190)
 ■ 知的障害 (N=240)
 ▨ 精神障害 (N=392)
 ■ 難病 (N=348)

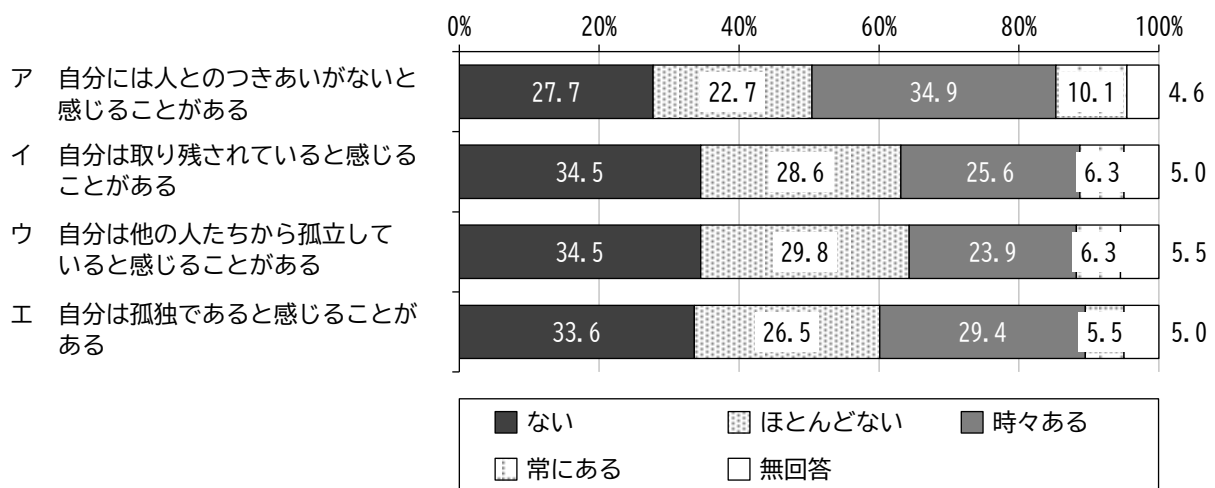
2 日頃のコミュニケーションについておたずねします

◆孤独・孤立の状況

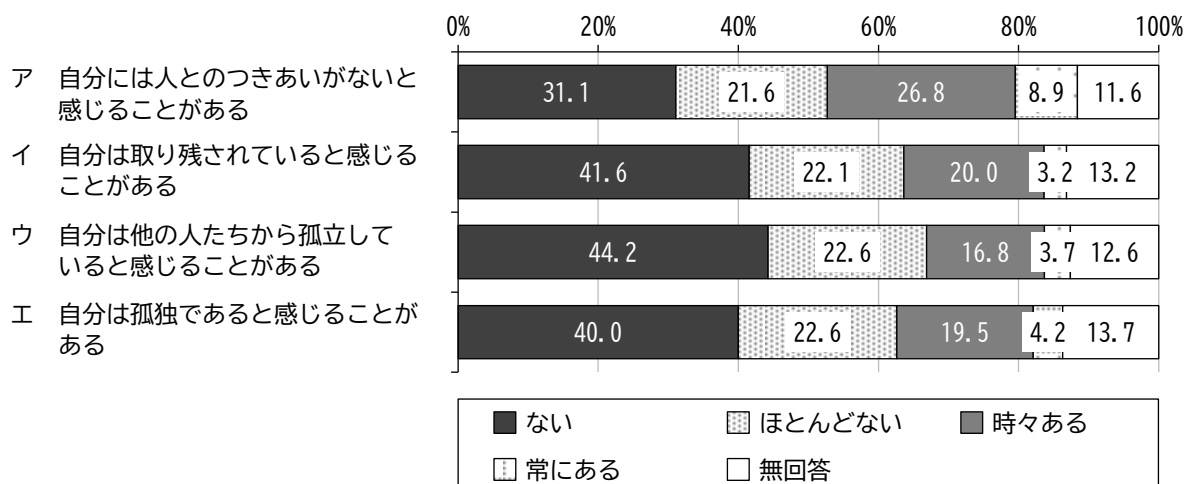
問 12 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、難病は「ア 自分には人とのつきあいがないと感じることがある」が最も多く、それぞれの割合は45.0%, 35.7%, 43.7%, 34.8%となっている。
- 精神障害は「イ 自分は取り残されていると感じることがある（60.8%）」が最も多く、「ア 自分には人とのつきあいがないと感じることがある」, 「ウ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある」, 「エ 自分は孤独であると感じることがある」も5割を超えている。

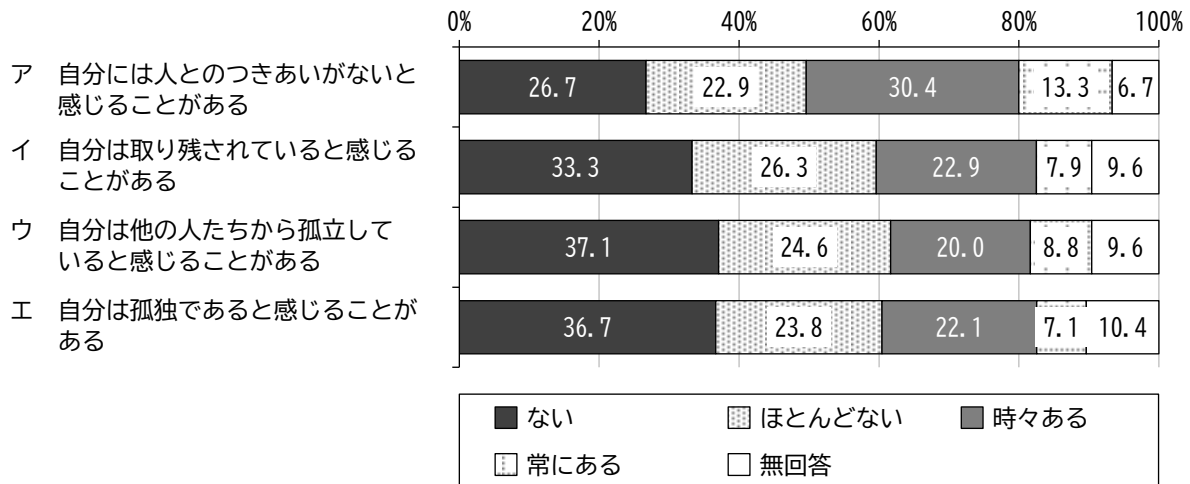
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



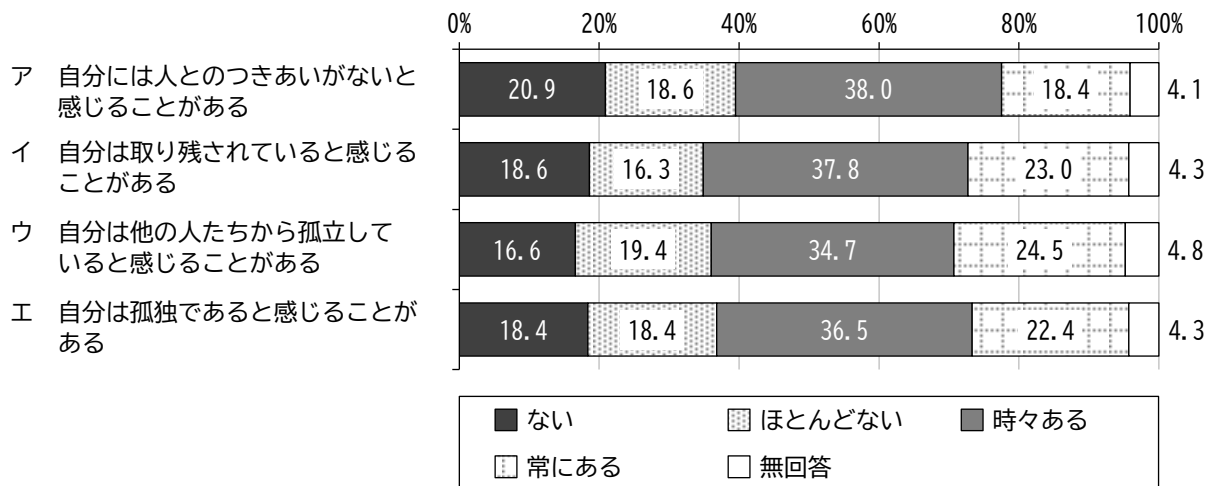
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



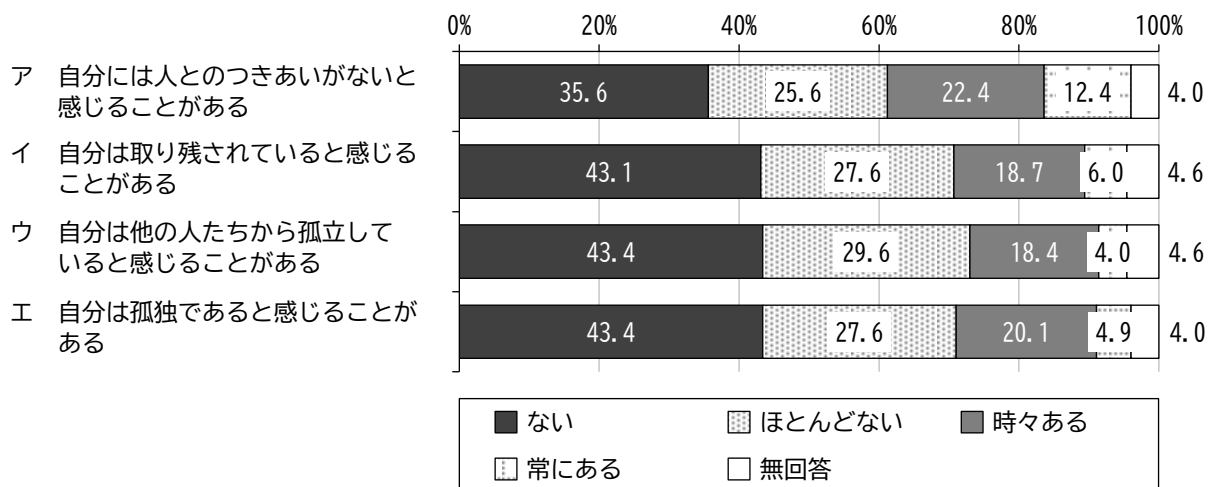
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）

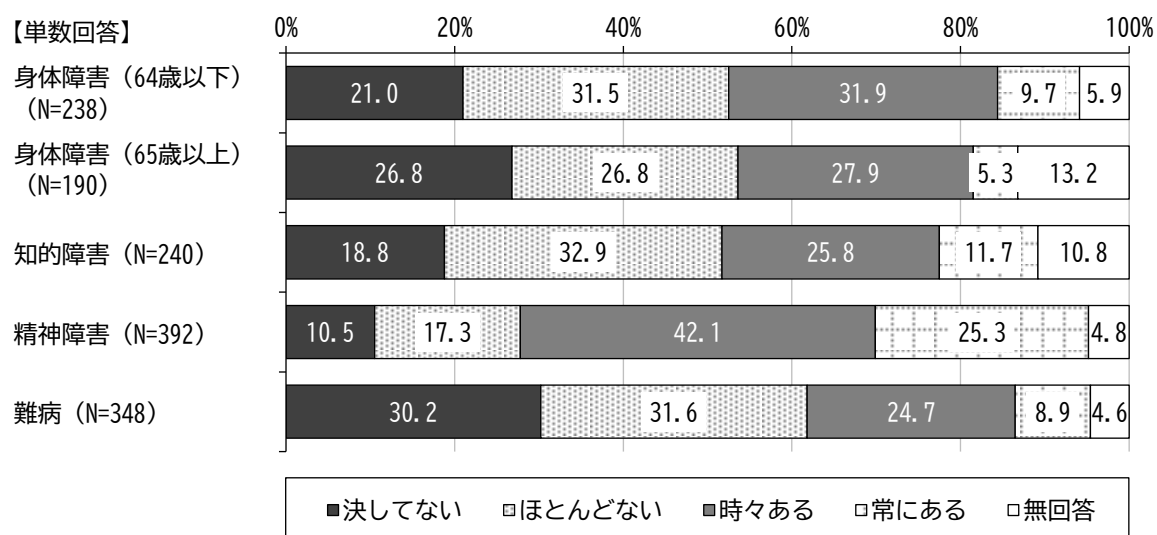


【単数回答】難病（N=348）



－ 孤独感尺度 －

- 「UCLA 孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」による間接質問のスコア化の結果を障害種別にみると、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、精神障害で「時々ある」、知的障害、難病で「ほとんどない」が最も多くなっている。



－ 孤独感尺度 －

- 問 12 の項目「エ」が孤独な状況を直接うかがう「直接質問」であるのに対し、項目「ア」～「ウ」は「UCLA 孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」と呼ばれ、間接的な質問（間接質問）により回答をスコア化して孤独感を評価するものである。
- 今回は、令和6年に内閣府が行った「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」に倣い、「ない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化し、その合計スコアについて、便宜的に「10～12点」（常にある）、「7～9点」（時々ある）、「4～6点」（ほとんどない）、「3点」（決していない）の4区分に整理した。

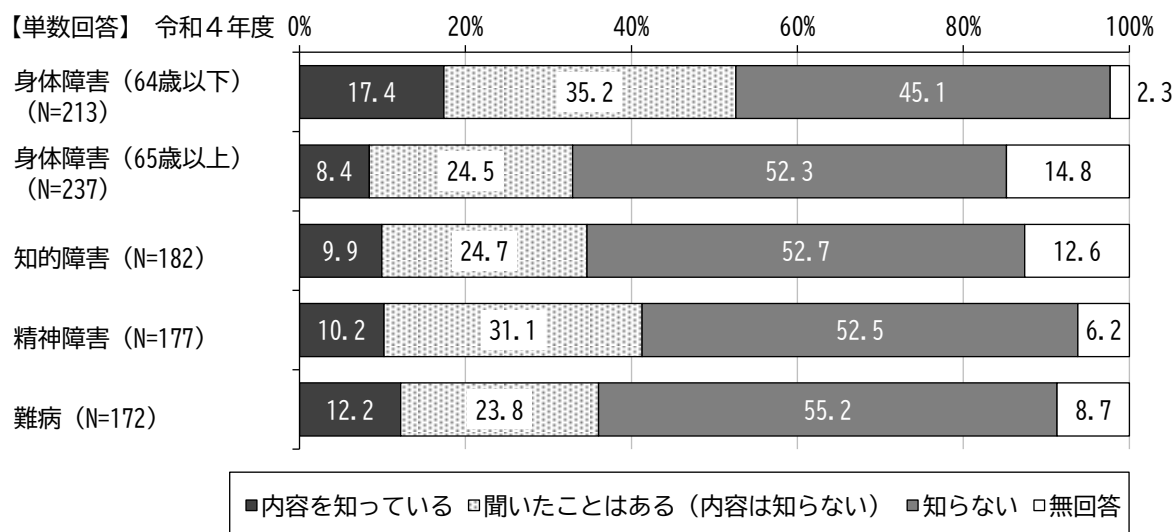
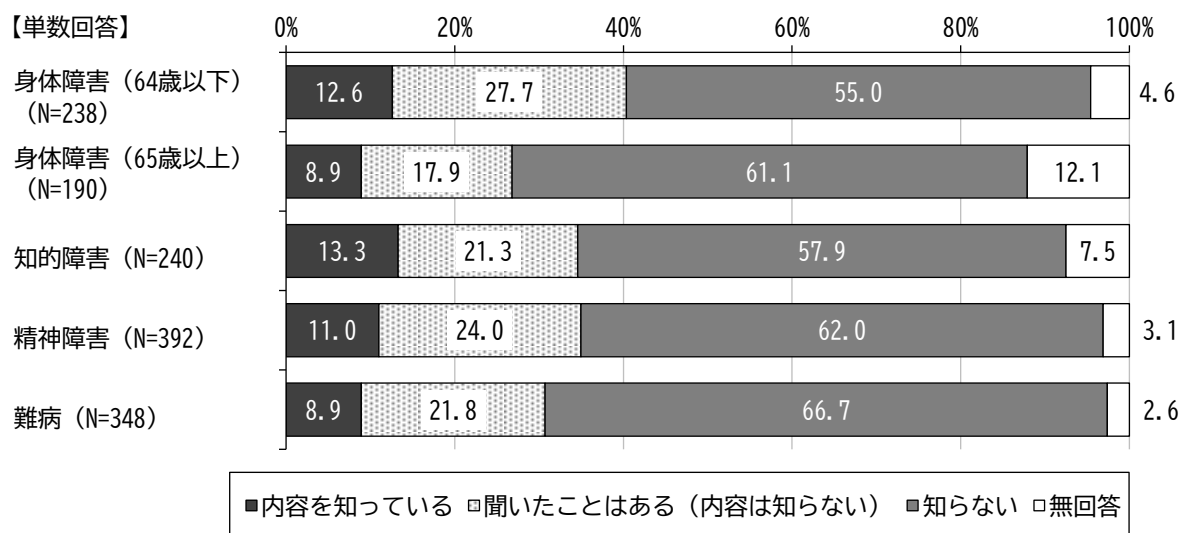
3 誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

◆共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した条例の認知度

問 27 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。(それぞれ1つに○)

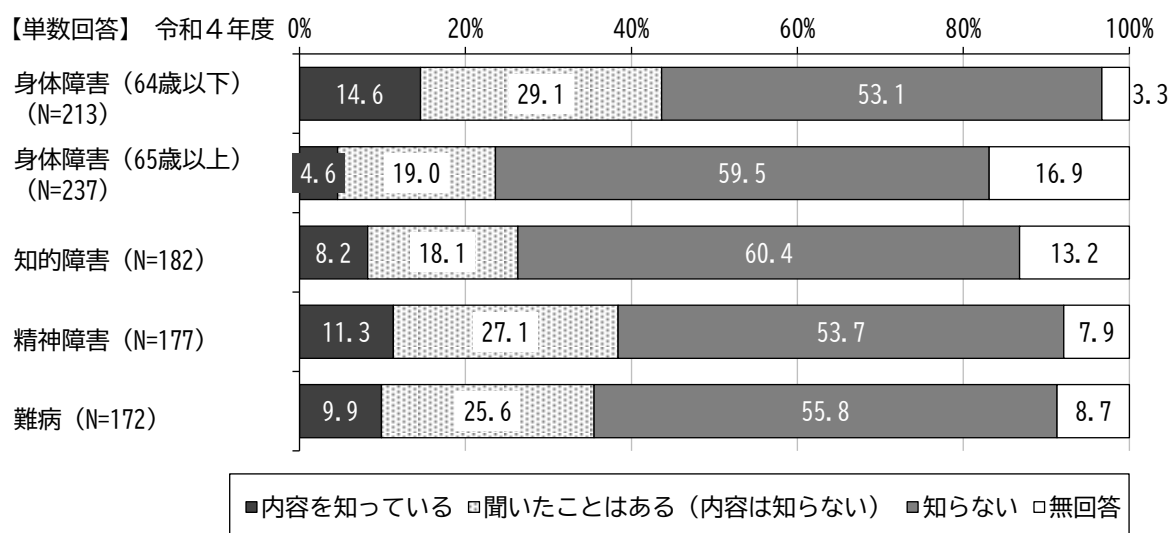
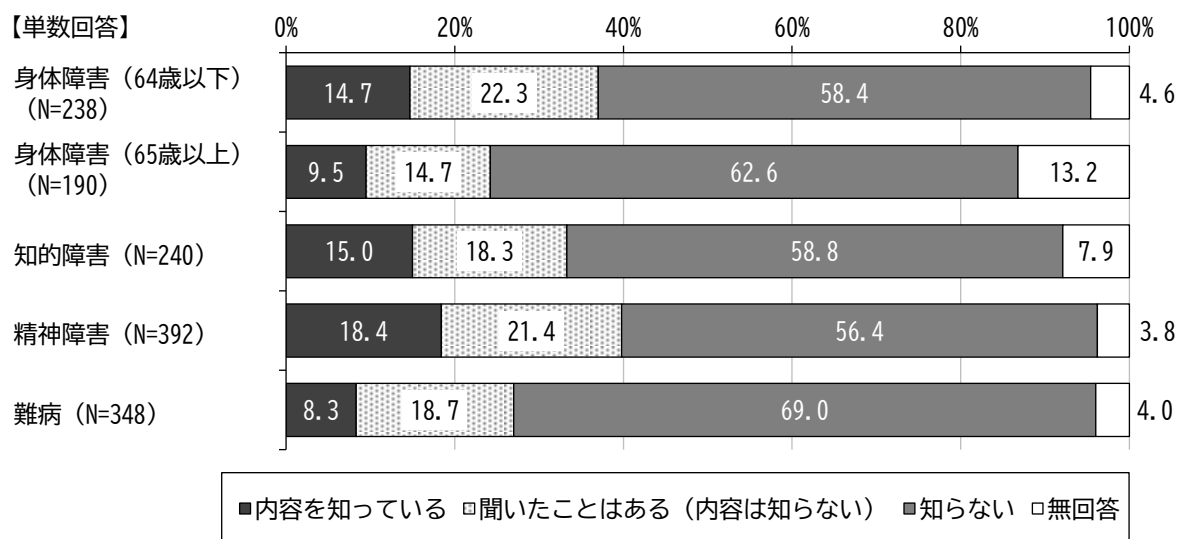
ア 障害者差別解消法

- 障害者差別解消法の認知度は，身体障害（64歳以下），身体障害（65歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について，それぞれの割合は12.6%，8.9%，13.3%，11.0%，8.9%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると，いずれの障害でも「知らない」の割合が高くなっており，知的障害を除いて10ポイント近く高くなっている。



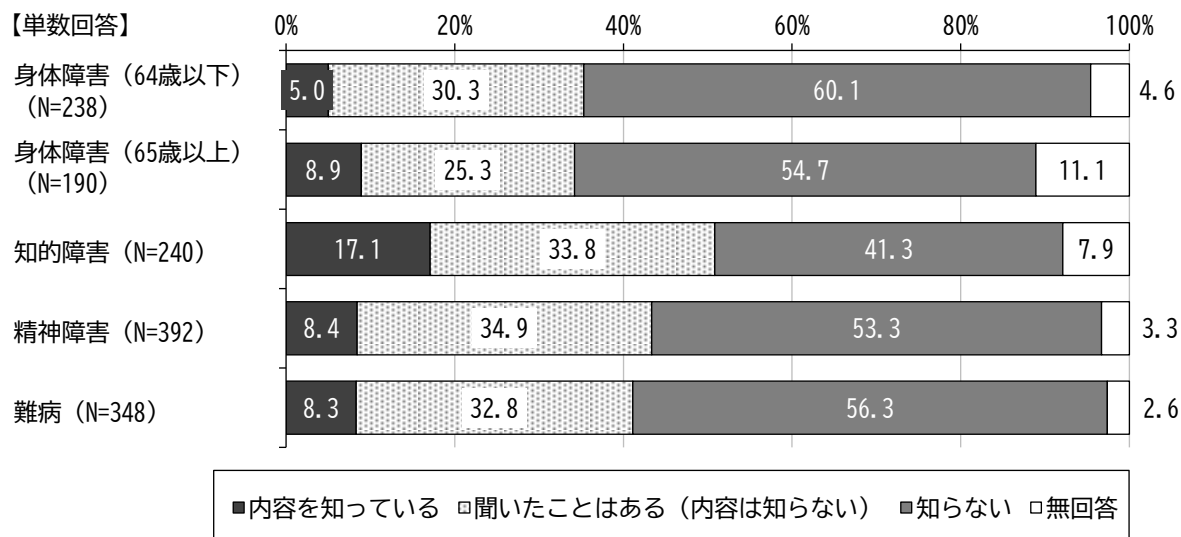
イ 合理的配慮

- 合理的配慮の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は14.7%、9.5%、15.0%、18.4%、8.3%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害において「内容を知っている」の割合が高くなっており、特に知的障害と精神障害で7ポイント近く高くなってきている。



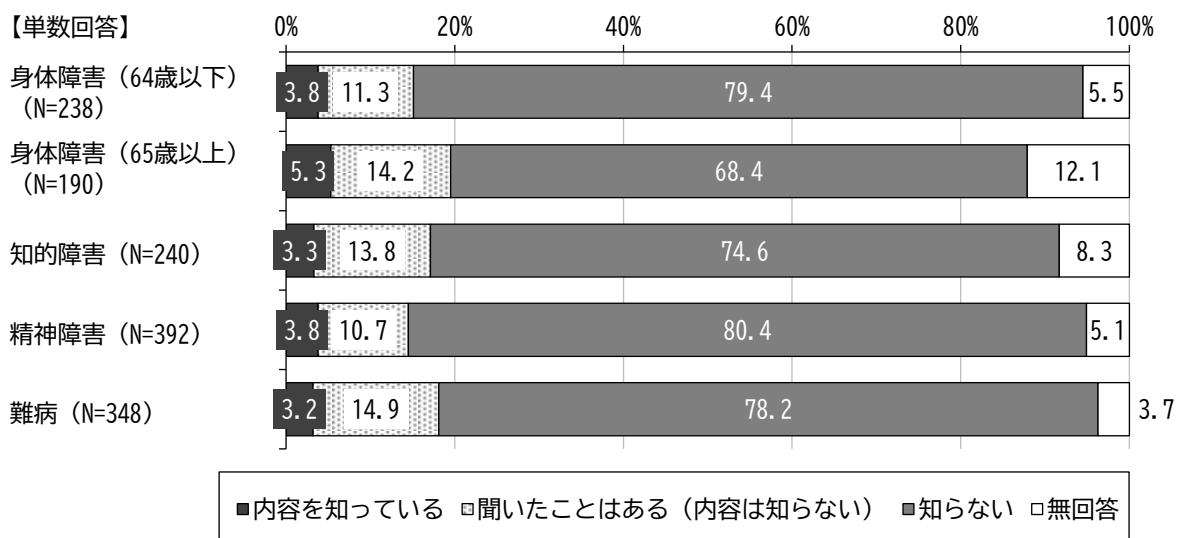
ウ パラハートちょうふ

- パラハートちょうふの認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は5.0％、8.9％、17.1％、8.4％、8.3％となっている。



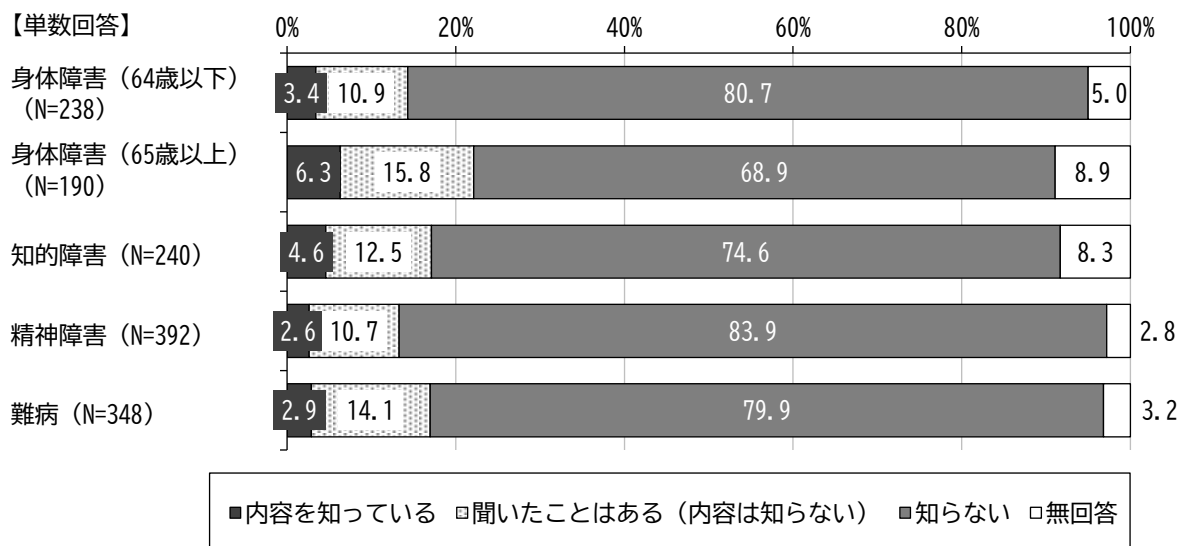
エ 調布市手話言語条例

- 調布市手話言語条例の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は3.8％、5.3％、3.3％、3.8％、3.2％となっている。



オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例

- 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例の認知度は、身体障害（64歳以下）、身体障害（65歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について、それぞれの割合は3.4%、6.3%、4.6%、2.6%、2.9%となっている。

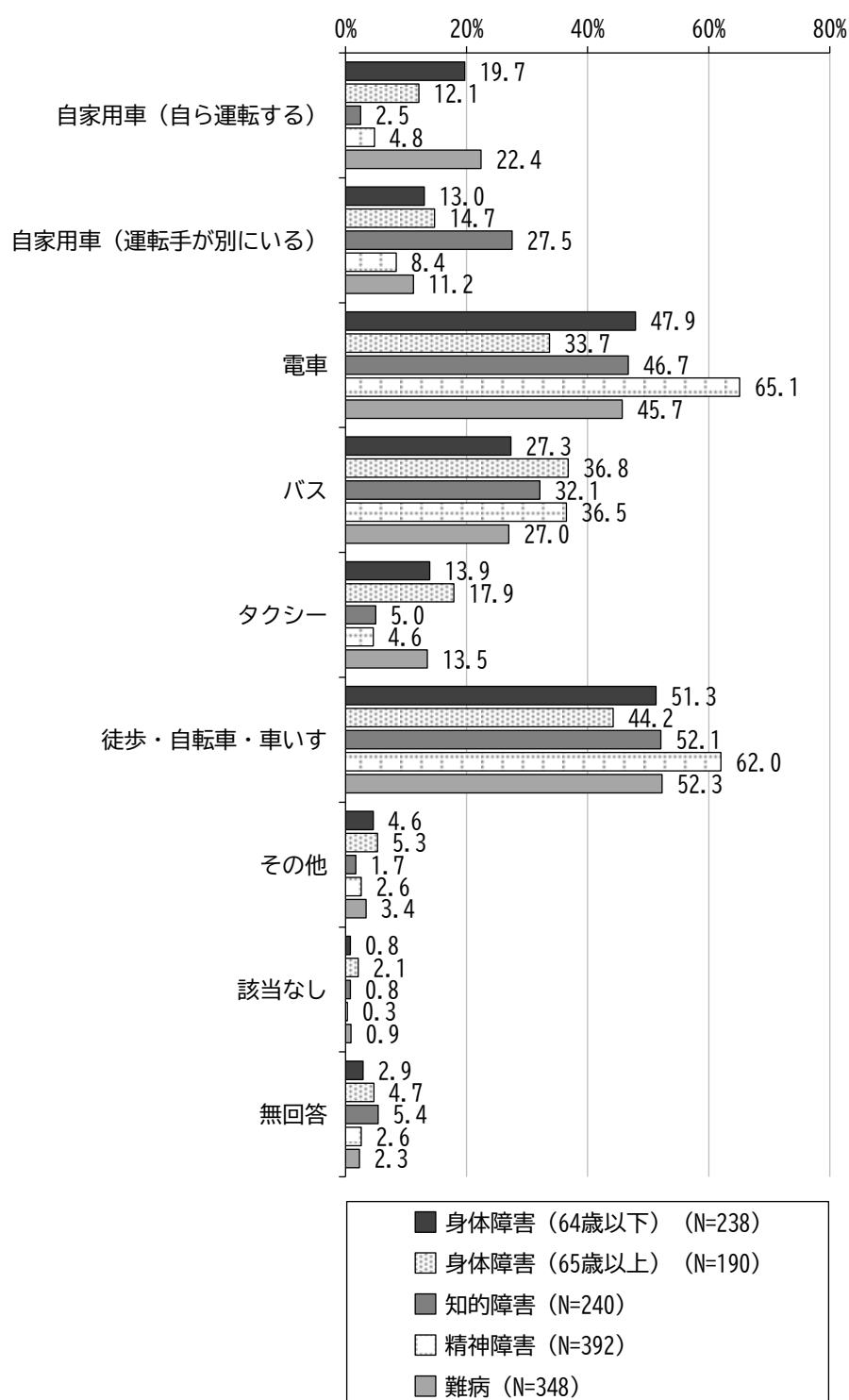


◆外出時の主な移動手段

問 28 外出時に使用している主な移動手段は何ですか。(2つまで○)

- 外出時に使用している主な移動手段は、身体障害 (64 歳以下), 身体障害 (65 歳以上), 知的障害, 難病は「徒歩・自転車・車いす」が最も多く, それぞれの割合は 51.3%, 44.2%, 52.1%, 52.3%となっている。
- 精神障害は「電車 (65.1%)」が最も多くなっている。

【複数回答】



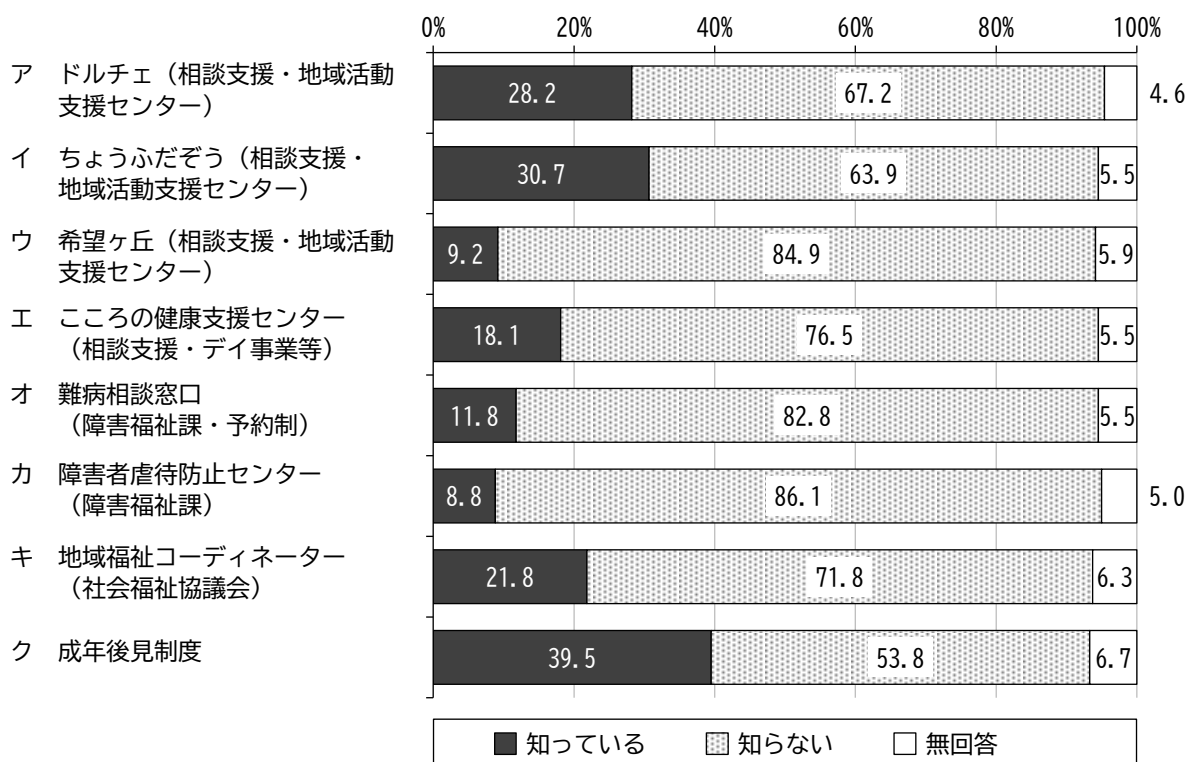
4 調布市の障害者福祉施策についておたずねします

◆市の相談窓口や制度の認知度

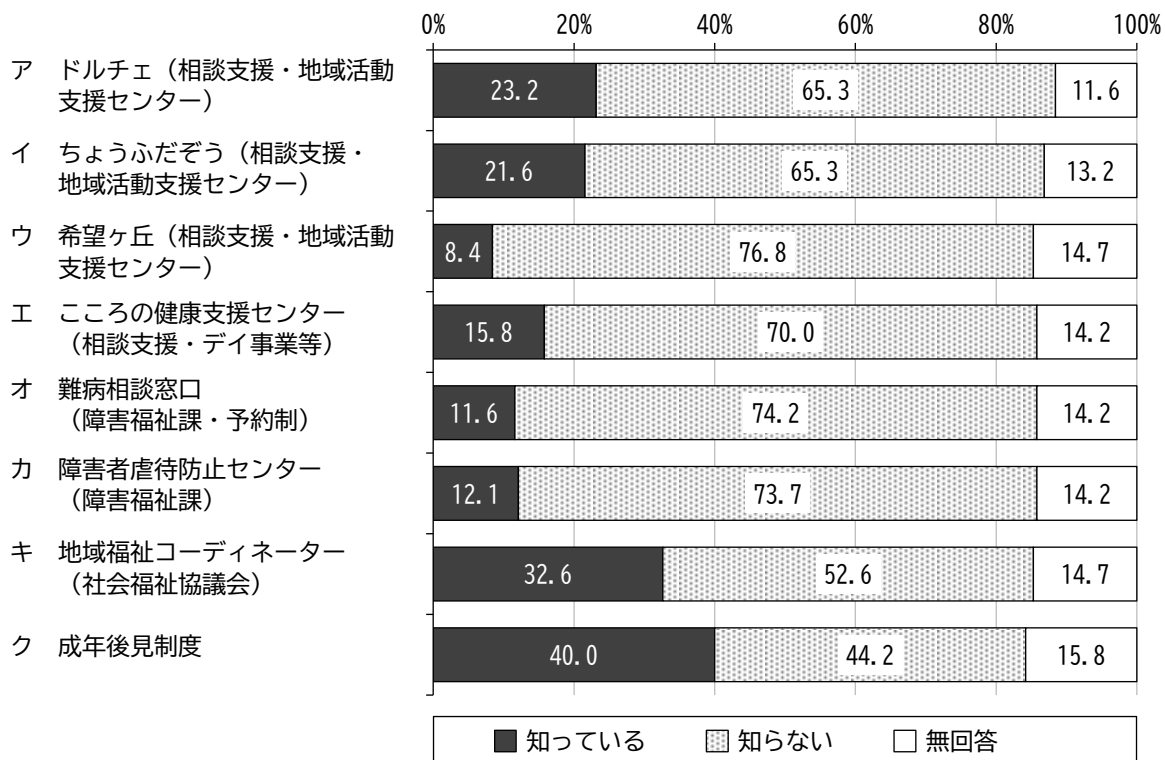
問 37 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。(それぞれ1つに○)

- 市の相談窓口や制度の認知度について、身体障害（64 歳以下）で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（39.5%）〕が最も多く、〔イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）（30.7%）〕、〔ア ドルチェ（相談支援・地域活動支援センター）（28.2%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が7割を超えている。
- 身体障害（65 歳以上）で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（40.0%）〕が最も多く、〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）（32.6%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 知的障害で「知っている」の割合は〔イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）（83.8%）〕が最も多く、〔ク 成年後見制度（35.4%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 精神障害で「知っている」の割合は〔エ こころの健康支援センター（相談支援・デイ事業等）（48.0%）〕が最も多く、〔ク 成年後見制度（39.5%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 難病で「知っている」の割合は〔ク 成年後見制度（47.7%）〕が最も多く、〔オ 難病相談窓口（障害福祉課・予約制）（40.8%）〕が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が6割を超えている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、知的障害において〔ア ドルチェ（相談支援・地域活動支援センター）〕、〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）〕、精神障害において〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）〕、難病において〔ク 成年後見制度〕がいずれも10ポイント以上高くなっている。また、〔キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）〕はいずれの障害でも割合が高くなっている。

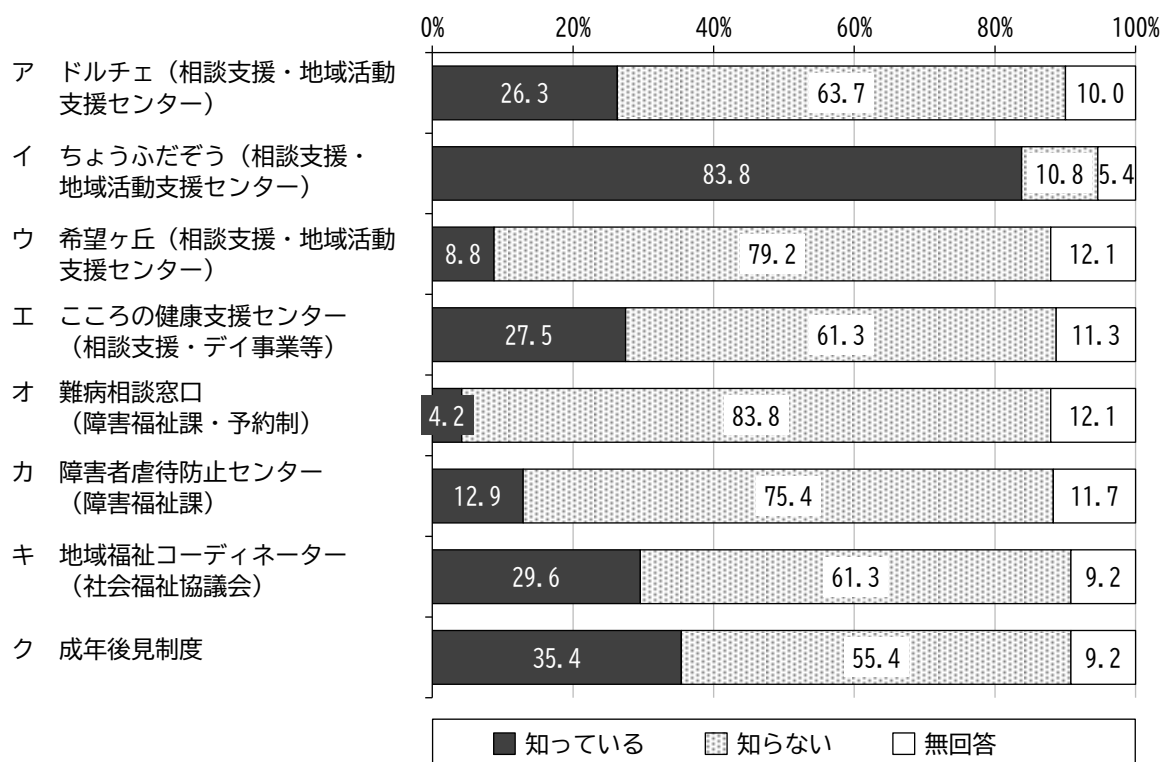
【単数回答】身体障害（64歳以下）（N=238）



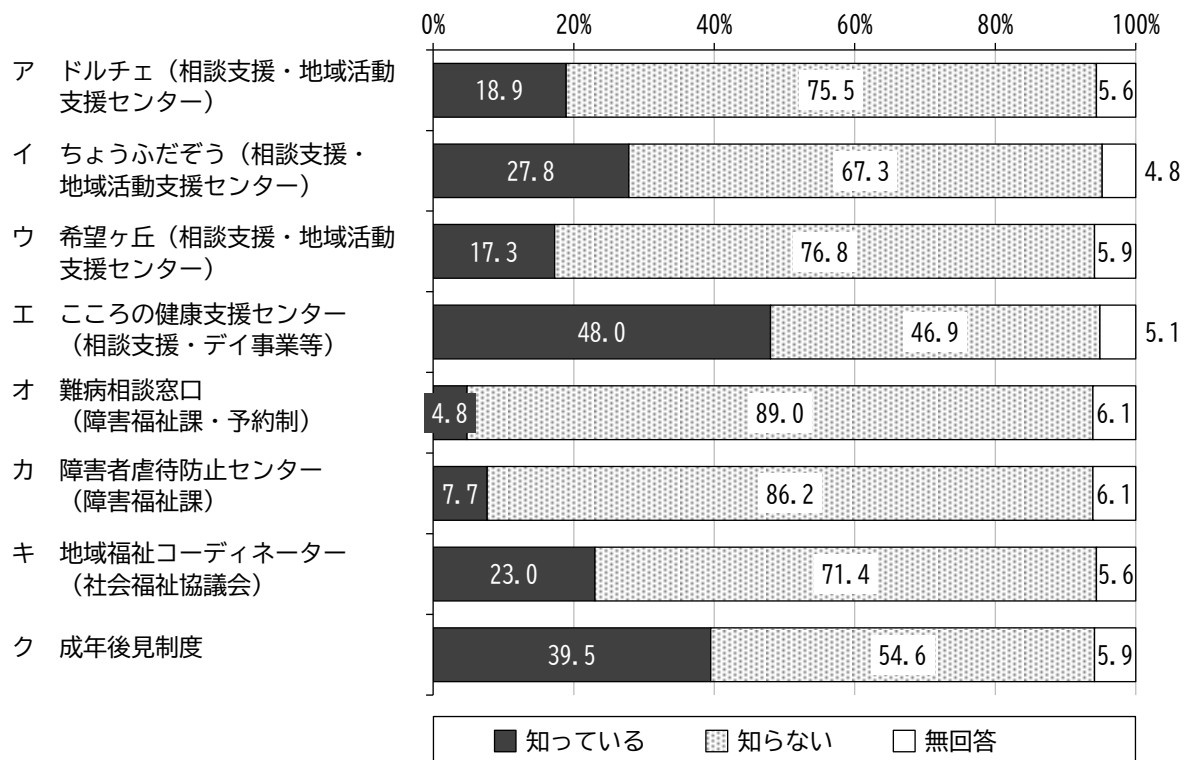
【単数回答】身体障害（65歳以上）（N=190）



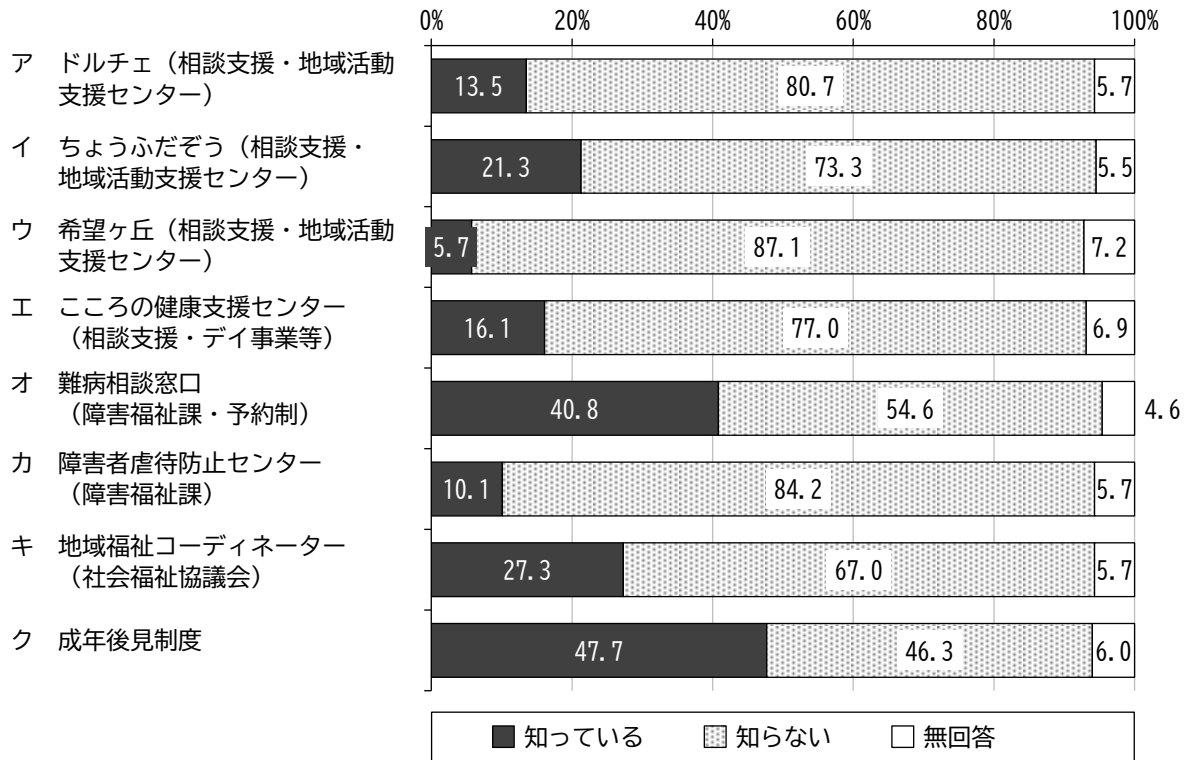
【単数回答】知的障害（N=240）



【単数回答】精神障害（N=392）



【単数回答】難病（N=348）



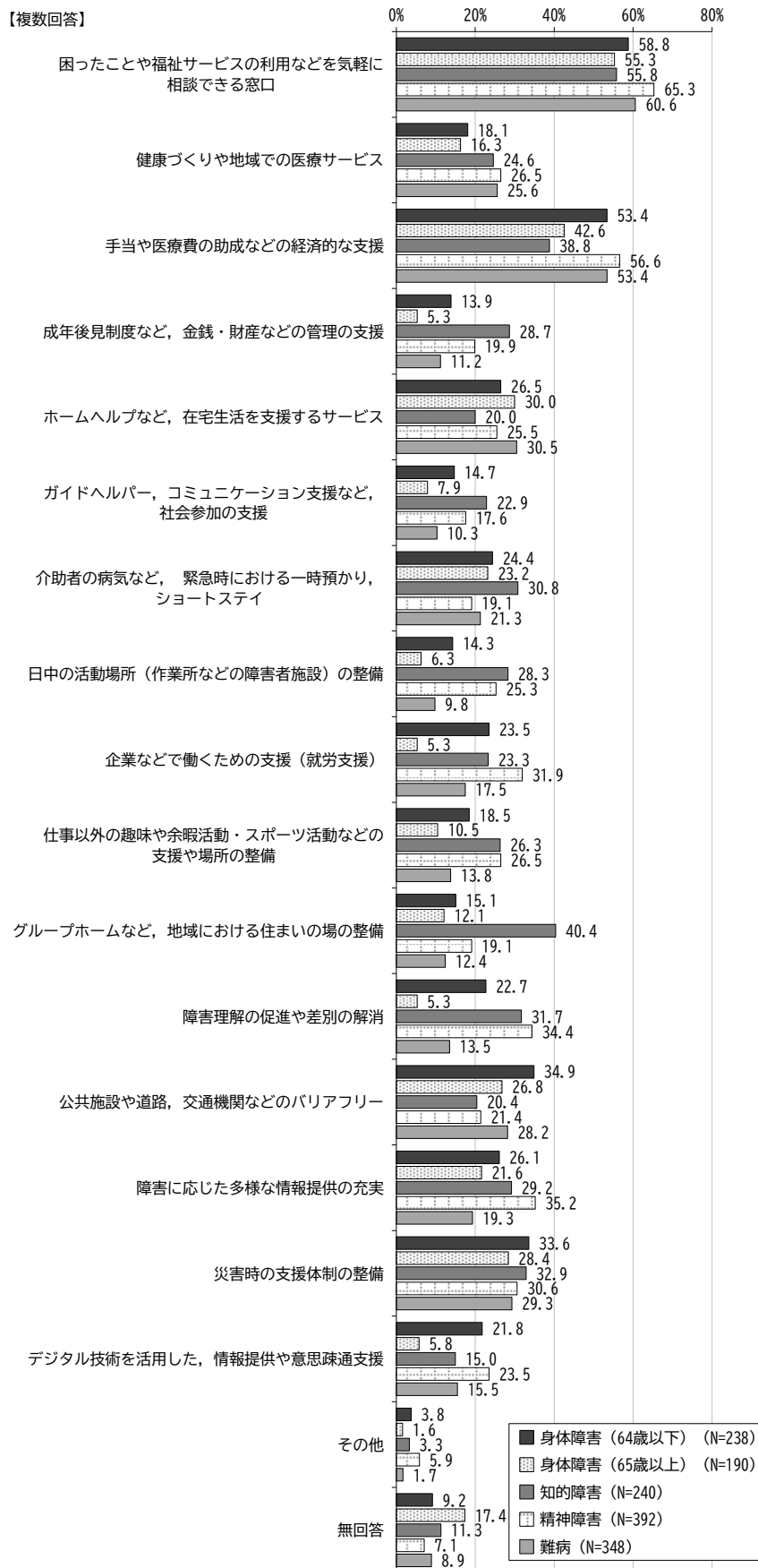
上段：「知っている」割合 下段：今回と令和4年度の差 単位：％，ポイント	身体障害（64歳以下）		身体障害（65歳以上）		知的障害		精神障害		難病	
	今回 (N=238)	令和4年度 (N=213)	今回 (N=190)	令和4年度 (N=237)	今回 (N=240)	令和4年度 (N=182)	今回 (N=392)	令和4年度 (N=177)	今回 (N=348)	令和4年度 (N=172)
ア ドルチェ（相談支援・地域活動支援センター）	28.2	31.9	23.2	15.2	26.3	11.5	18.9	11.9	13.5	7.0
	△ 3.7		8.0		14.8		7.0		6.5	
イ ちょうふだぞう（相談支援・地域活動支援センター）	30.7	35.7	21.6	13.9	83.8	83.5	27.8	24.3	21.3	16.9
	△ 5.0		7.7		0.3		3.5		4.4	
ウ 希望ヶ丘（相談支援・地域活動支援センター）	9.2	9.9	8.4	7.6	8.8	10.4	17.3	11.9	5.7	4.7
	△ 0.7		0.8		△ 1.6		5.4		1.0	
エ こころの健康支援センター（相談支援・デイ事業等）	18.1	16.0	15.8	16.9	27.5	32.4	48.0	42.4	16.1	18.6
	2.1		△ 1.1		△ 4.9		5.6		△ 2.5	
オ 難病相談窓口（障害福祉課・予約制）	11.8	16.4	11.6	13.5	4.2	6.6	4.8	5.1	40.8	44.2
	△ 4.6		△ 1.9		△ 2.4		△ 0.3		△ 3.4	
カ 障害者虐待防止センター（障害福祉課）	8.8	11.7	12.1	15.2	12.9	17.0	7.7	8.5	10.1	13.4
	△ 2.9		△ 3.1		△ 4.1		△ 0.8		△ 3.3	
キ 地域福祉コーディネーター（社会福祉協議会）	21.8	18.3	32.6	22.8	29.6	17.0	23.0	10.7	27.3	20.9
	3.5		9.8		12.6		12.3		6.4	
ク 成年後見制度	39.5	43.2	40.0	40.1	35.4	33.5	39.5	34.5	47.7	36.0
	△ 3.7		△ 0.1		1.9		5.0		11.7	

◆市の障害者福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組

問 38 調布市の障害者福祉施策（サービス）をより充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

○ 市の障害者福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、身体障害（64 歳以下）、身体障害（65 歳以上）、知的障害、精神障害、難病ともに「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」が最も多く、それぞれの割合は 58.8%，55.3%，55.8%，65.3%，60.6%となっている。

また、「手当や医療費の助成などの経済的な支援」が身体障害（64 歳以下）、精神障害、難病で 5 割を超えている。



第5章 障害児（18歳未満）の保護者調査結果

【調査名】子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 基本属性

○ 回答者は、「親（98.9%）」が最も多くなっている。

2 保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします

<お子さんの基本属性>

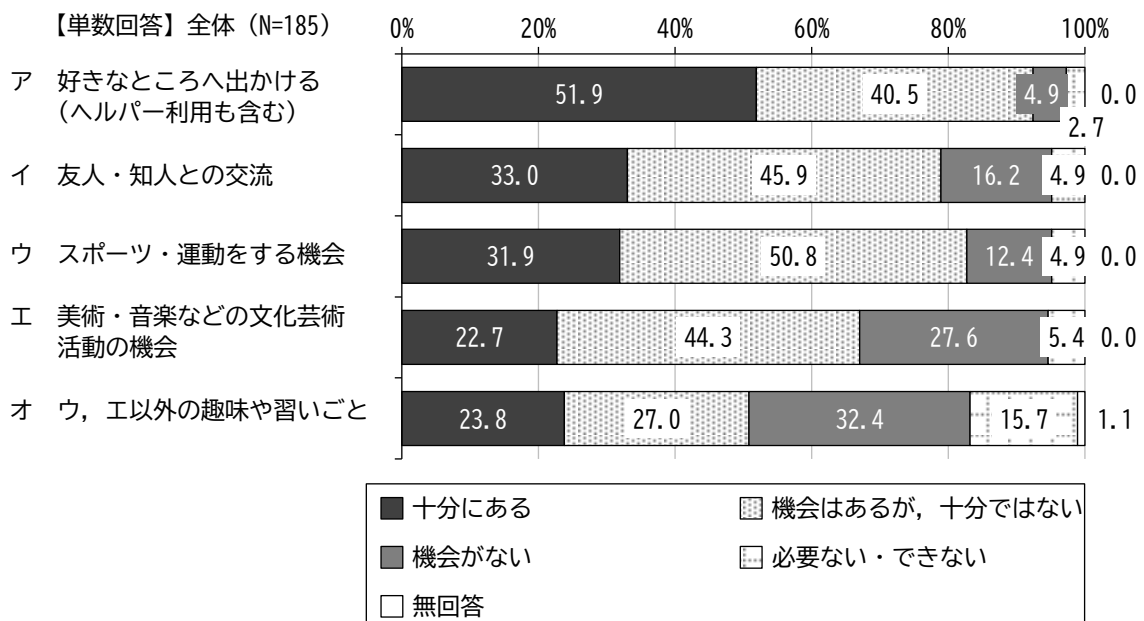
- お子さんの就学状況は、「小学校就学前（27.6%）」、「小学校就学後（72.4%）」である。
- お子さんの性別は、「男性（65.9%）」、「女性（33.0%）」、「その他（0.5%）」である。

◆お子さんの普段の活動機会

問 12 あて名のお子さんは、普段の生活の中で、次のような機会がありますか。
（それぞれ1つに○）

- お子さんの普段の生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合は、[ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（51.9%）] が最も多くなっている。
- 一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は、[イ 友人・知人との交流] [ウ スポーツ・運動*をする機会] [エ 美術・音楽などの文化芸術活動*の機会] [オ ウ、エ以外の趣味や習いごと] となっている。

※本調査における「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含む。



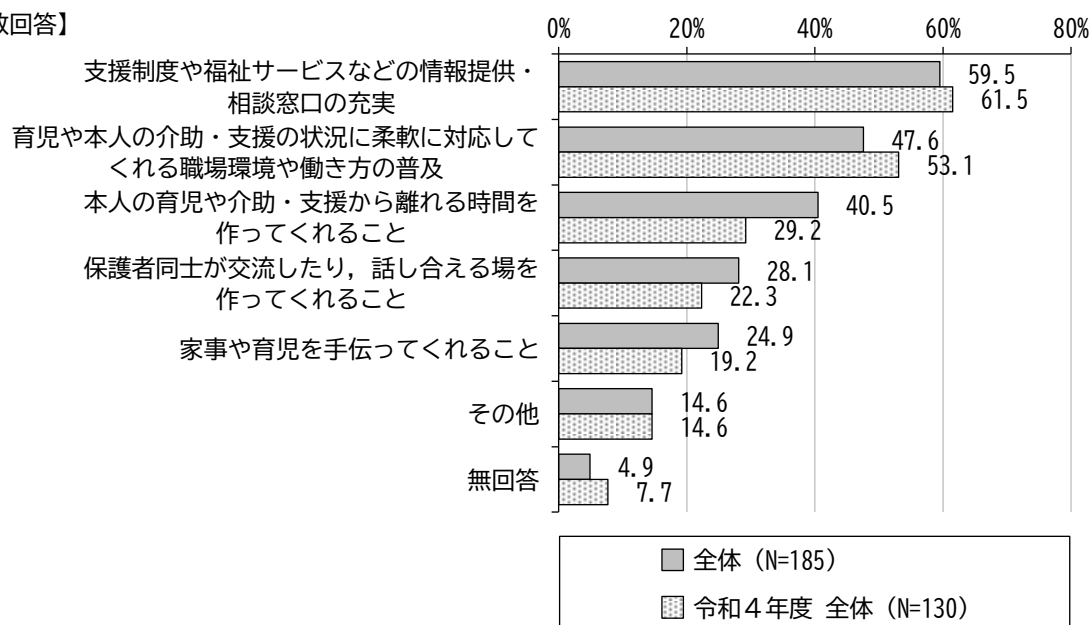
3 保護者の方に、相談支援についておたずねします

◆保護者への支援として力を入れてほしいこと

問 23 保護者への支援として力を入れてほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- 保護者への支援として力を入れてほしいことは、「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実（59.5%）」が最も多く、「育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及（47.6%）」、「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること（40.5%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること」が 11.3 ポイント、「保護者同士が交流したり，話し合える場を作ってくれること」が 5.8 ポイント、「家事や育児を手伝ってくれること」が 5.7 ポイント高く、「育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及」が 5.5 ポイント低くなっている。

【複数回答】

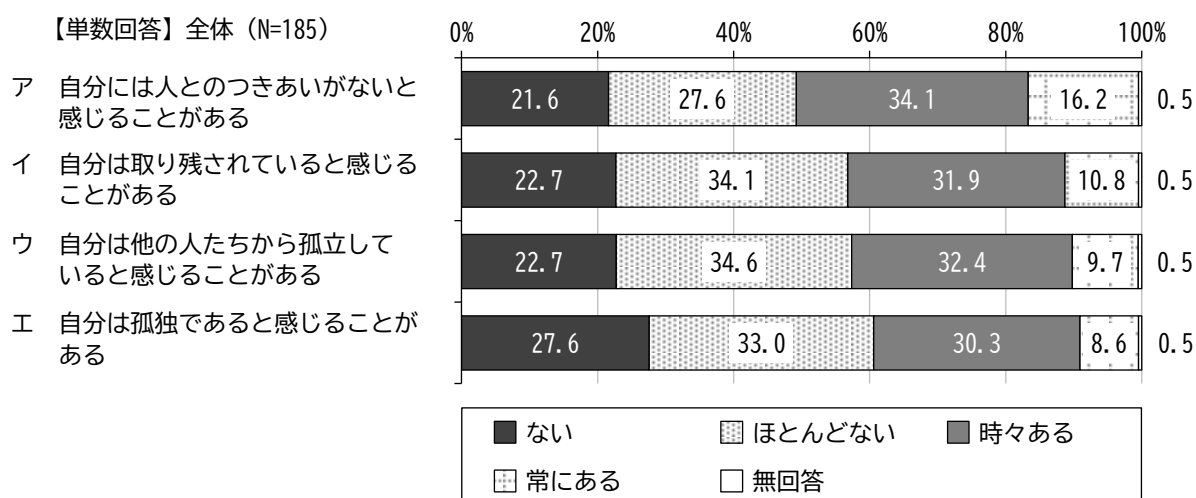


4 保護者の方に、日頃のコミュニケーションについておたずねします

◆孤独・孤立の状況

問 24 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感ずることがある (50.3%)] が最も多く、[イ 自分は取り残されていると感ずることがある (42.7%)], [ウ 自分は他の人たちから孤立していると感ずることがある (42.1%)] が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 「UCLA 孤独感尺度 (日本語版の3項目短縮版)」による間接質問のスコア化の結果は以下の表のとおりである (サンプル (n) 数が少ないため、コメントは割愛)。

単位：％		決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体 (N=185)		15.1	25.9	41.1	17.3	0.5
年代別	10歳代 (n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (n=45)	15.6	26.7	42.2	15.6	0.0
	40歳代 (n=108)	16.7	23.1	41.7	18.5	0.0
	50歳代 (n=27)	11.1	25.9	40.7	18.5	3.7
	60歳代 (n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

－ 孤独感尺度 －

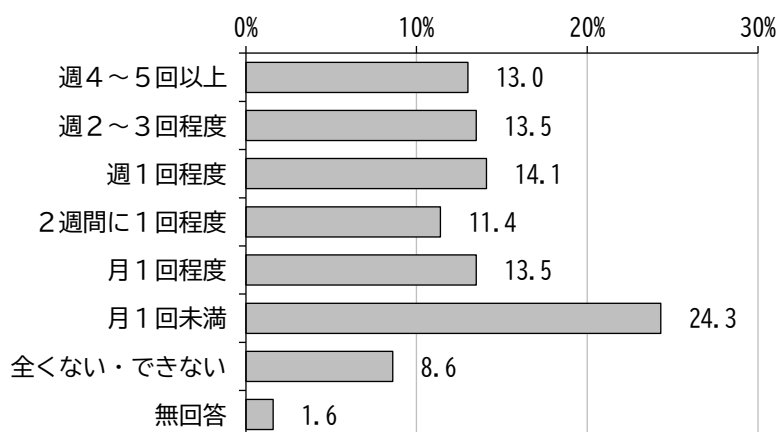
- 問 24 の項目「エ」が孤独な状況を直接うかがう「直接質問」であるのに対し、項目「ア」～「ウ」は「UCLA 孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」と呼ばれ、間接的な質問（関節質問）により回答をスコア化して孤独感を評価するものである。
- 今回は、令和 6 年に内閣府が行った「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」に倣い、「ない」を 1 点、「ほとんどない」を 2 点、「時々ある」を 3 点、「常にある」を 4 点としてスコア化し、その合計スコアについて、便宜的に「10～12 点」（常にある）、「7～9 点」（時々ある）、「4～6 点」（ほとんどない）、「3 点」（決してない）の 4 区分に整理した。

問 25 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。（それぞれ 1 つに○）

ア 直接会って話す（手話等を含む）

- 直接会って話す（手話等を含む）頻度は、「月 1 回未満（24.3%）」が最も多く、「週 1 回程度（14.1%）」、「週 2～3 回程度（13.5%）」「月 1 回程度（13.5%）」が続いている。

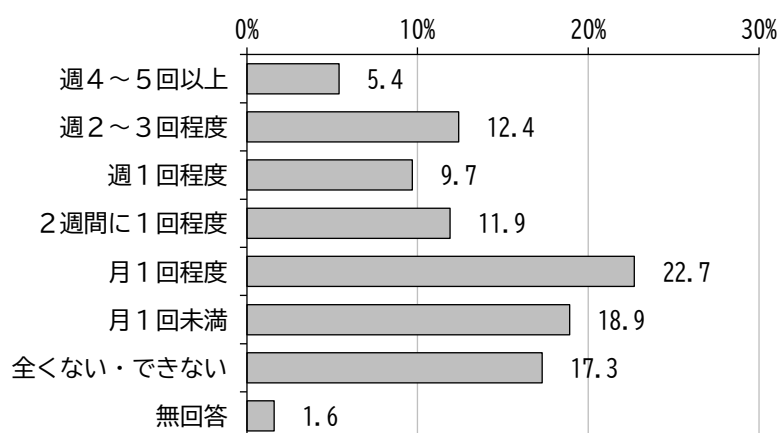
【単数回答】全体（N=185）



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回程度（22.7%）」が最も多く、「月1回未満（18.9%）」、「全くない・できない（17.3%）」が続いている。

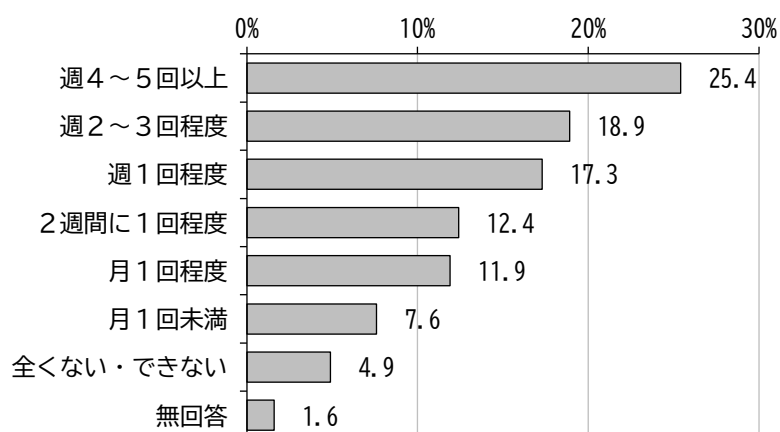
【単数回答】全体（N=185）



ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、「週4～5回以上（25.4%）」が最も多く、「週2～3回程度（18.9%）」、「週1回程度（17.3%）」が続いている。

【単数回答】全体（N=185）



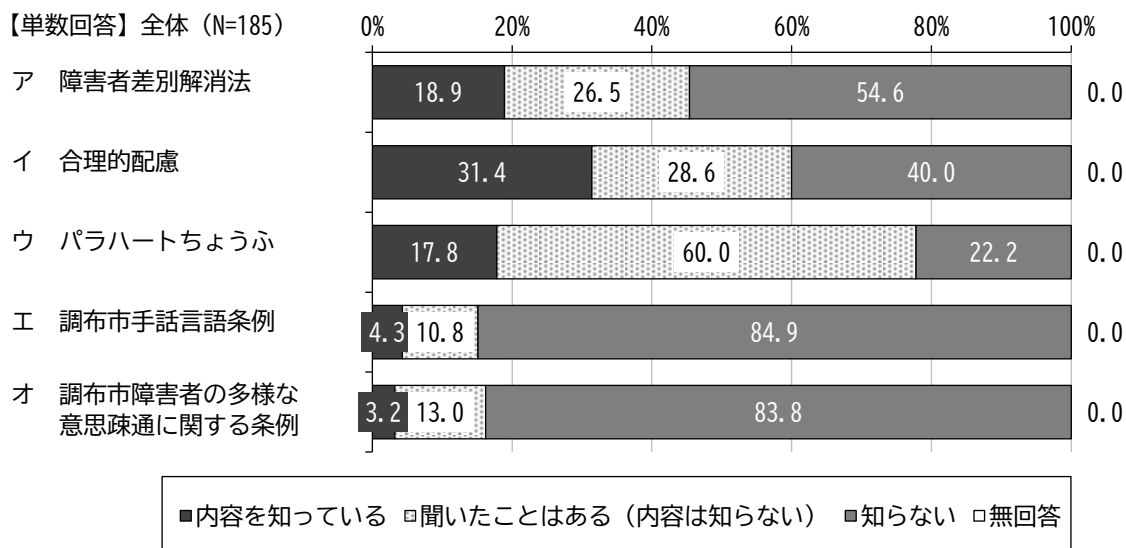
5 保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

◆共生社会の充実のための法律や考え方、調布市が令和6年度に制定した条例の認知度

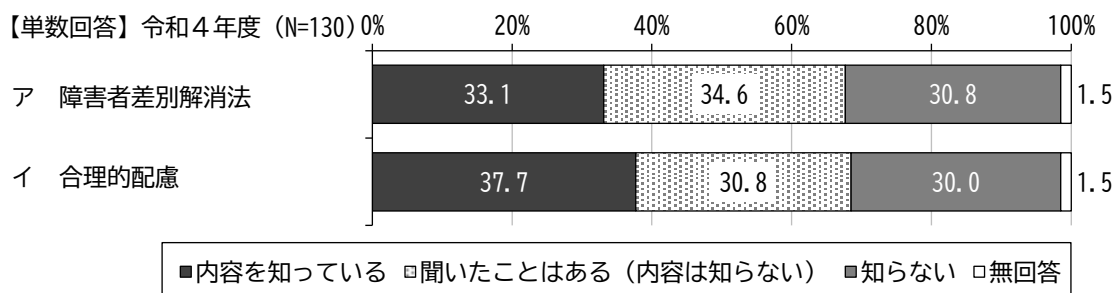
問 29 共生社会の充実のための法律や考え方、調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。(それぞれ1つに○)

- 共生社会の充実のための法律や考え方について、「内容を知っている」の割合は、[イ 合理的配慮 (31.4%)] が最も多く、[ア 障害者差別解消法 (18.9%)], [ウ パラハートちょうふ (17.8%)] が続いている。市が令和6年度に制定した2つの条例について、「内容を知っている」の割合は、[エ 調布市手話言語条例 (4.3%)], [オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例 (3.2%)] が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、[ア 障害者差別解消法] の「知らない」の割合は23.8ポイント高く、[イ 合理的配慮] の「知らない」も10ポイント高くなっている。

【単数回答】全体 (N=185)



【単数回答】令和4年度 (N=130)

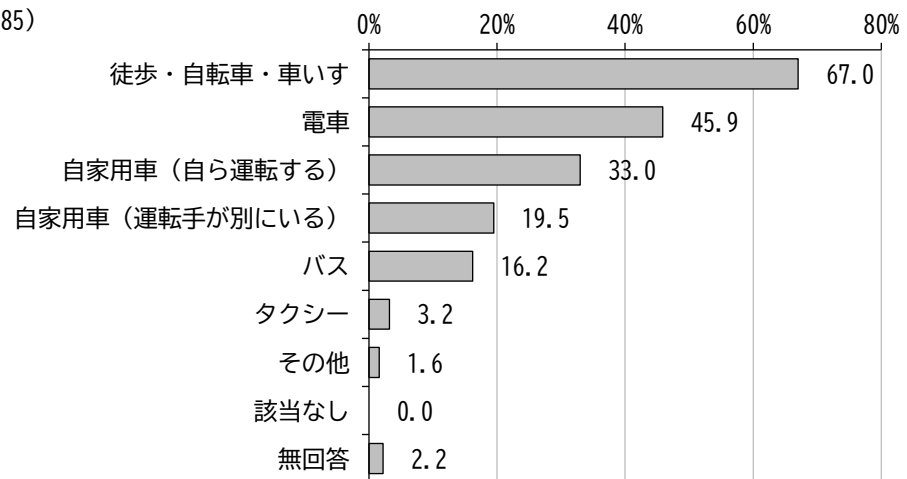


◆外出時の主な移動手段

問 30 外出時に使用している主な移動手段は何ですか。(2つまで○)

- 外出時に使用している主な移動手段は、「徒歩・自転車・車いす(67.0%)」が最も多く、「電車(45.9%)」、「自家用車(自ら運転する)(33.0%)」が続いている。

【複数回答】全体(N=185)



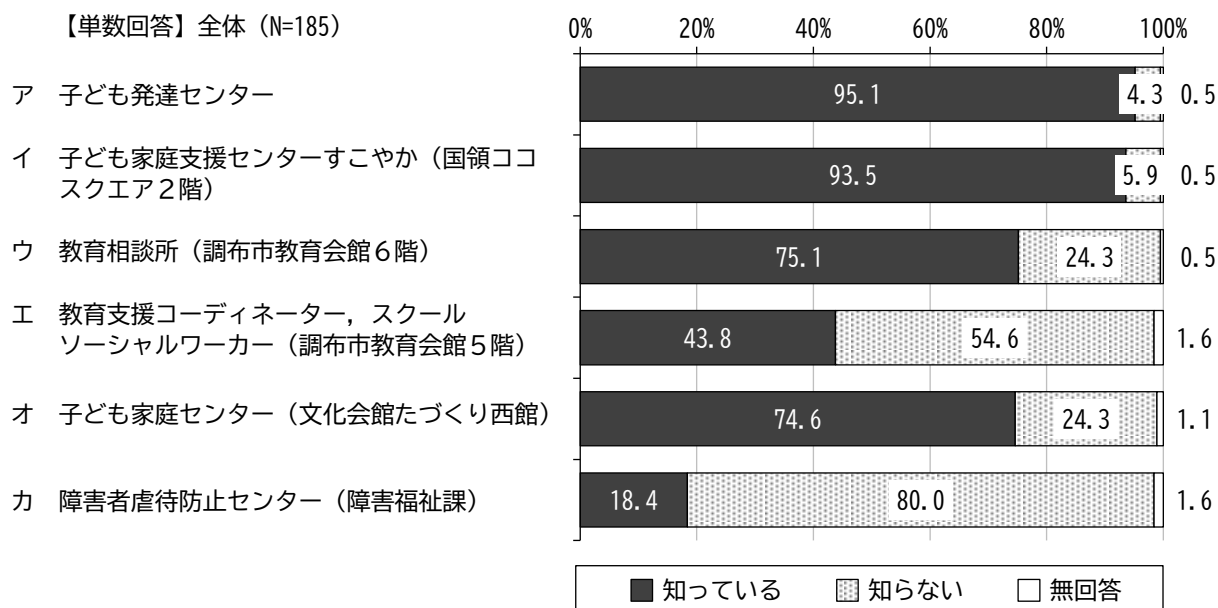
6 保護者の方に、調布市の障害者福祉施策についておたずねします

◆市の相談窓口や制度の認知度

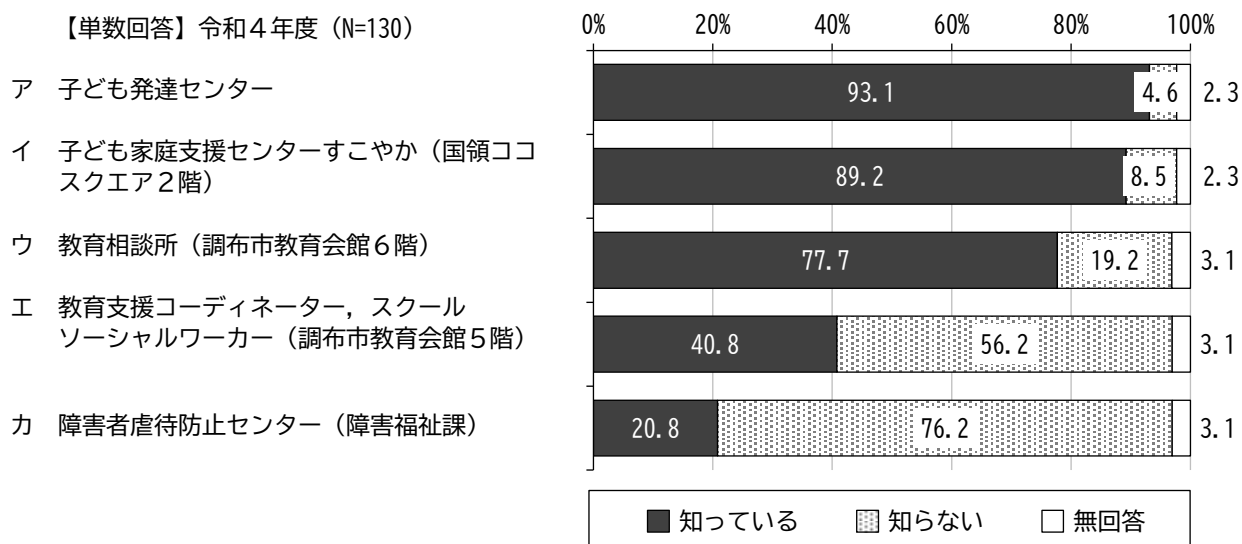
問 39 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 市の相談窓口について、「知っている」の割合は、[ア 子ども発達センター（95.1%）]が最も多く、[イ 子ども家庭支援センターすこやか（国領ココスクエア2階）（93.5%）]，[ウ 教育相談所（調布市教育会館6階）（75.1%）]が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、[ウ 教育相談所（調布市教育会館6階）]で「知らない」の割合が5.1ポイント高くなっている。

【単数回答】全体（N=185）



【単数回答】令和4年度（N=130）

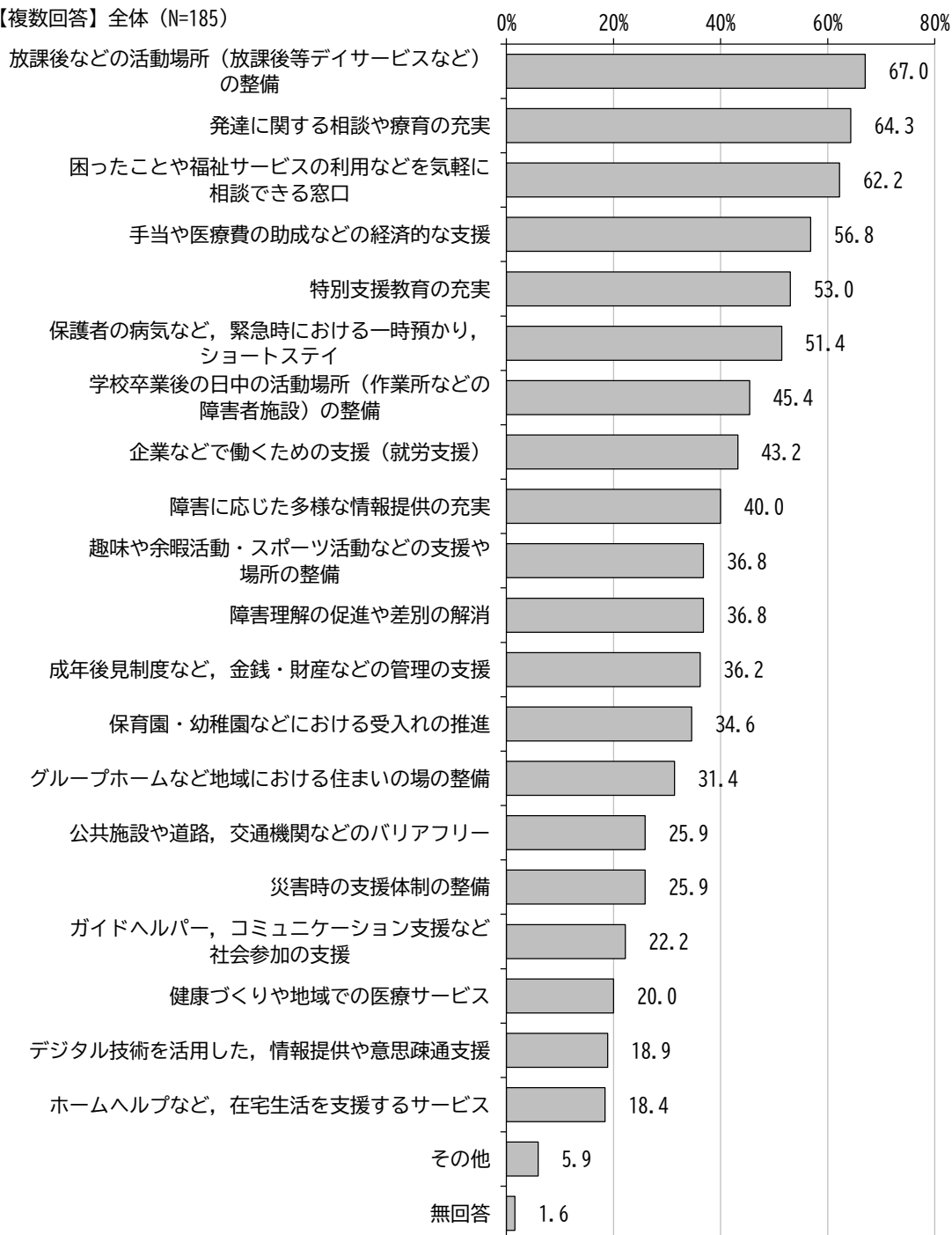


◆市の障害児福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組

問 40 調布市の障害児福祉施策（サービス）をより充実していくために、あなた（保護者）が特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害児福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、「放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備（67.0%）」が最も多く、「発達に関する相談や療育の充実（64.3%）」、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（62.2%）」が続いている。

【複数回答】全体（N=185）



住民懇談会の結果の概要

1 緑ヶ丘・滝坂／若葉・調和小学校地域

■話し合いの結果の特徴

テーブルワーク 1（つながりがあってよかったこと）

趣味の活動や自治会活動、子どもに関係した地域活動などを通じて人とのつながりが広がることで、情報共有の機会や顔の見える関係が生まれ、そこから得られる安心感が日々の生活をより豊かなものにするという、つながりが持つ重要性が共有された。

テーブルワーク 2（つながりがない状況）

不安や不信感などにより、会話や相談が困難になることや、孤立が周囲からは見えづらいこと、災害時には支援が必要な人を把握できず助け合いが機能しなくなる恐れがあることなど、つながりの欠如によって生じる孤立や孤独などの懸念が共有された。

テーブルワーク 3（つながりを生む取組）

支え合いの仕組づくりや、地域などとの連携による参加しやすい居場所の充実、災害対応や困りごとを支援する仕組みを「見える化」することなどにより、つながりを生み出す取組について共有された。

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●安心感 ●見守り ●顔の見える関係	●疑心暗鬼 ●世帯の縮小 ●多忙 ●閉鎖性の助長 ●困る人の増加	●メリットを知る ●支える人 ●連絡先を知る ●空家対策 ●システム構築
グループ B	●自治会 ●イベント・サークル等 ●効果	●後継者不足組織の弱体化 ●プライバシー個人情報 ●相談先がわからない	●あいさつ情報提供 ●行政、企業との連携役割を頼む ●イベント・まつり
グループ C	●子ども ●活発な地域のつながり ●ゆるやかなつながり	●見えづらさ ●プライバシー ●つながりいらない?? ●情報 ●タイミング	●楽しむ！ ●場所づくり ●あいさつが大事！！（きっかけ） ●情報の届け方
グループ D	●情報 ●仲間／気持ち ●共通のわだい	●居住区によるへだたり／情報が届かない届いていない ●災害 ●知らないことによる不安 ●気持ち ●つながらなくても OK	●災害 ●情報発信のツール ●情報／行政への要望 ●すぐ取りかけられること ●そんなこと

2 第一・富士見台・多摩川／第三・石原・飛田給小学校地域

■話し合いの結果の特徴

テーブルワーク 1（つながりがあってよかったこと）

サロンや交流活動の「場」が外出や健康づくりのきっかけになること、子どもの見守りや防犯活動を通じた多世代の交流が地域の安心を支えること、イベントや団体活動によって人間関係が広がることなど、多様なつながりが心身の健康や充実した生活を支える大きな価値となっていることが共有された。

テーブルワーク 2（つながりがない状況）

顔の見える関係性が構築されないことによる不安や孤立、地域の活動や行事が衰退することにより、つながりがない状態が生まれやすくなること、子育て世代の多忙さや、病気・障害への配慮の問題などについて共有された。

テーブルワーク 3（つながりを生む取組）

伝わりやすい情報の提供、個人・地域・行政・企業がそれぞれの役割を持って関わる仕組みの構築など、多様な主体の連携と情報共有・情報発信、交流等によりつながりを生み出す取組について共有された。

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために、どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●場所 ●情報 ●人 ●出会い	●居場所 ●顔が見えない ●災害 ●近所付き合い	●イベント ●情報誌 ●その他
グループ B	●具体的多世代 ●人々同志のつながり活動よい事いけなかった事。ボランティア ●地域のつながり知り合い。新しい故郷ふるさと	●個人的 ●地域的	●個人 ●地域イベント ●企業・行政
グループ C	●イベントを通じての出会い ●障がいの理解 ●団体活動 ●あいさつ	●子そだて世代 ●病気、障がい ●防犯、関係が希薄に…	●情報について（行政・地域住民） ●（行政）福祉教育，子育ての充実 ●あいさつができるようになるには…（課題）（個人）

3 上ノ原・柏野／北ノ台・深大寺小学校地域

■話し合いの結果の特徴

テーブルワーク 1（つながりがあってよかったこと）

あいさつ運動や見守り活動を通じた顔の見える関係づくり，地域イベントへの参加による交流の広がりなど，多世代にわたる関わりが地域の安全と安心を支えていることが共有された。

テーブルワーク 2（つながりがない状況）

地域とのつながりがない状況は，SOSを出せない深刻な孤独に陥りやすい危険性があることや情報弱者になりやすいこと，自らつながりのない状況に身を置いてしまう危険性があることなどが共有された。

テーブルワーク 3（つながりを生む取組）

見守りサービスや相談窓口の活用，参加しやすい地域の居場所づくり，相手に配慮した情報の提供など，つながりを構築する取組について共有された。

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために，どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●あいさつ・見守り ●ポジティブになる ●サークル ●知りあいできる ●情報が入る	●コロナ ●つながり薄くなる ●情報入らない ●心配な人	●サービス ●地域活動 ●個人でできること
グループ B	●きっかけ ●地域活動 ●気持ち・安心	●孤独「地域とつながりがない状況」 ●無関心，偏見閉鎖的 ●ギャップで分断 ●⇒結果起きること	●ツール ●学校教育 ●おせっかい，声かけ ●伝える・相手の立場・状況もふまえて ●ハード面
グループ C	●困った時に助け合う ●防犯	●つながりたいけど難しい状況環境 ●困ってない ●頼るのが苦手 ●学校	（意見区分タイトルなし）

4 第二・八雲台・国領／染地・杉森・布田小学校地域

■話し合いの結果の特徴

テーブルワーク 1（つながりがあってよかったこと）

地域行事，見守り活動等が交流のきっかけになるとともに，つながりが広がることによる孤独の解消など，多様なつながりが地域の安心を支える大きな力となっていることが共有された。

テーブルワーク 2（つながりがない状況）

地域とつながりがないことで孤立感や不安感が高まることや，人付き合いを避けたい心理，情報化の進展により，つながりを必要としない状況が生まれていることなどが共有された。

テーブルワーク 3（つながりを生む取組）

誰もが参加しやすい居場所づくりや多世代が交流する居場所づくり，情報発信や意識啓発，日常の挨拶や声かけの積み重ねなど，多様な機会を通じてつながりを構築する取組が共有された。

■意見区分タイトル（個別意見をグループ化した名前）（原文通り）

テーマ グループ	テーブルワーク 1 「つながりがあってよかったことは？」	テーブルワーク 2 「“地域とつながりがない状況”を考えてみよう」	テーブルワーク 3 「ワーク 2 の“地域とつながりがない状況”をなくすために，どんなきっかけや取組ができそう？」
グループ A	●きっかけ ●安心 ●広がり	●孤立 ●ひま ●出かけない ●会話 ●心配 ●情報	●おせっかい・声かけ ●手段 ●情報相談 ●発信
グループ B	●日常と非日常 ●活動＆そこからの広がり ●地域 ●行政，社協 ●趣味・境遇	●拒否 ●危機感ない ●情報 ●孤立	●情報・知る ●生きる基本（食・からだ・コミュニケーション） ●地域・コミュニティ ●施策・行政 ●一時的な困りごと ●リスク
グループ C	●趣味余暇 ●情報共有 ●相談支援 ●交流	●心の栄養不足 ●SNS ●孤独・孤立	●意識啓発 ●居場所づくり ●情報発信・きっかけづくり
グループ D	●出会い ●助け合い ●情報 ●気持ち ●お土産	●情報 ●気持ち ●モチベーション低下 ●助け合い ●災害編 ●お土産 ●ポジ ●機能低下	●情報 ●助け合い ●地域イベント ●ピンチをチャンスに！ ●出会い ●あいさつ ●居場所（お土産）

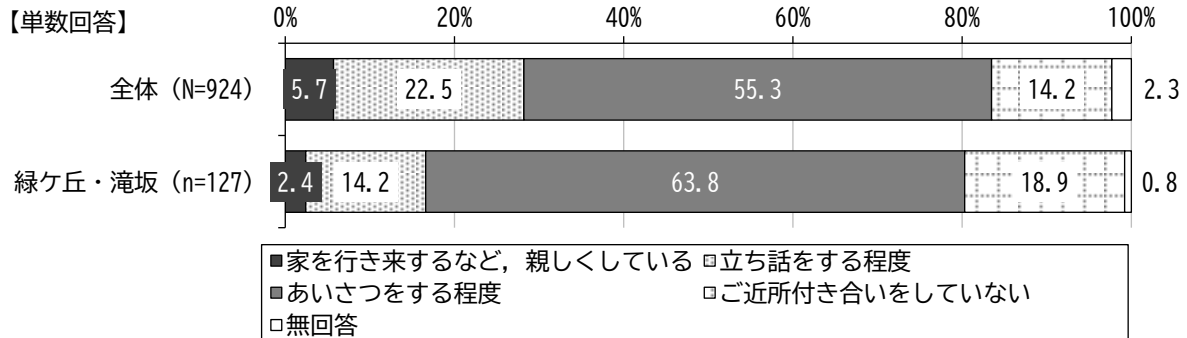
調査のまとめ

第1章 地域別のまとめ

1 緑ヶ丘・滝坂小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害時の助け合いが必要なもの	日常生活でよくとした困りごとがあるとき	子どもたちの見守り・安全確保	高齢者やひとり暮らしの人の支援・見守り	話し相手や相談相手が必要なもの
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	79.5	37.8	54.4	61.4	29.1

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える活動や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援をする活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃・環境美化、環境保全・自然保護などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	5.5	8.7	5.5	7.1	8.7	6.3	14.2	7.9	26.0
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
緑ヶ丘・滝坂 (n=127)	33.0	66.9	43.3	63.0	40.2	75.6	28.4	65.4	63.0

■市民（18 歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目 1 位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
緑ヶ丘・滝坂（n=127）	15.7	26.8	16.5	40.2	18.1	21.3	20.5	7.1	22.0	33.1	7.1	1.6	22.0	6.3

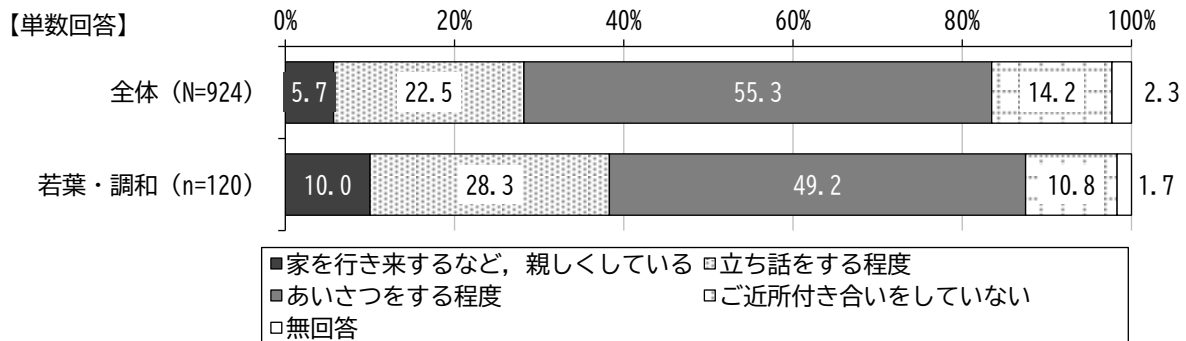
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
■地域の人に手助けしてほしいことは、「災害時避難の手助け」（78.0%）が全体（69.7%）よりも多くなっている。〔問 12〕 ■身近な地域での不安や課題は、「老後の生活のこと」（40.2%）が全体（33.8%）よりも多く、最も多くなっている。〔問 22〕	■今後取り組みたい・興味がある地域活動は、「自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動」（36.1%）が全体（26.8%）よりも多くなっている。〔問 15〕 ■高齢者保健福祉施策で特に重要と考える取組は、「自立生活のための家事についての指導」（18.1%）が全体（8.8%）よりも多くなっている。〔問 37〕
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
■避難場所等の確認は、「確認している」（61.3%）が全体（53.6%）よりも多くなっている。〔問 14〕 ■介助者への支援として力を入れてほしいことは、「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」（42.9%）が全体（33.7%）よりも多くなっている。〔問 42〕	■学校以外の過ごし方は、「民間の習いごと・教室・フリースペースなど」（60.0%）が全体（30.6%）よりも多くなっている。〔問 10〕 ■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実」と「放課後などの活動場所の整備」が最も多くなっている（いずれも 76.2%）。〔問 40〕

2 若葉・調和小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で ちょっとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
若葉・調和 (n=120)	80.0	47.5	55.0	60.8	33.4

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える活動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
若葉・調和 (n=120)	11.7	12.5	6.7	10.0	11.7	14.2	23.3	16.7	31.7
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
若葉・調和 (n=120)	23.3	62.5	35.0	55.8	34.2	64.2	32.5	55.0	46.7

■市民（18 歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目 1 位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「ご近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
若葉・調和（n=120）	14.2	20.8	15.8	30.8	18.3	10.8	20.0	4.2	20.8	27.5	8.3	0.8	29.2	4.2

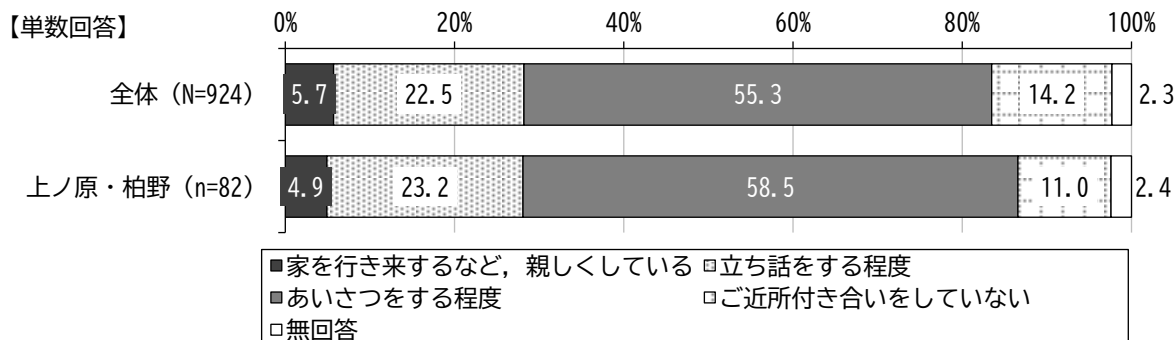
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
■「ご近所付き合いは、『親密な近所付き合いをしている』割合（38.3%）が全体（28.2%）に比べて多くなっている。〔問 8〕 ■福祉施策の充実に向けて特に重要なことは、「市民への福祉意識の啓発」（20.8%）が全体（13.6%）よりも多くなっている。〔問 32〕	■地域活動の取り組み状況は、「趣味、習いごと、健康づくりなどの活動」（44.8%）が全体（38.2%）よりも多くなっている。〔問 15〕 ■困りごとを相談できる人や機関は、「友人・知人」（51.7%）が全体（44.7%）よりも多くなっている。〔問 29〕
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
■スポーツ・運動をするために必要な支援は、「活動できる場所」（42.2%）が最も多く、全体（36.2%）よりも多くなっている。〔問 23〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」と「手当や医療費の助成などの経済的な支援」が最も多くなっている（いずれも 71.4%）。〔問 40〕

3 上ノ原・柏野小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で ちょっとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
上ノ原・柏野 (n=82)	73.1	26.9	52.4	56.1	28.1

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える活動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
上ノ原・柏野 (n=82)	4.9	8.5	12.2	6.1	7.3	4.9	15.9	6.1	29.3
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
上ノ原・柏野 (n=82)	23.2	61.0	36.6	60.9	32.9	65.9	31.7	56.1	53.7

■市民（18歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て、 子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、 友だち付き合いのこと	防犯、 地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（ 機関）が少ないこと	その他	特 に な い	無 回 答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
上ノ原・柏野（n=82）	7.3	26.8	17.1	30.5	11.0	9.8	7.3	4.9	15.9	29.3	1.2	2.4	28.0	4.9

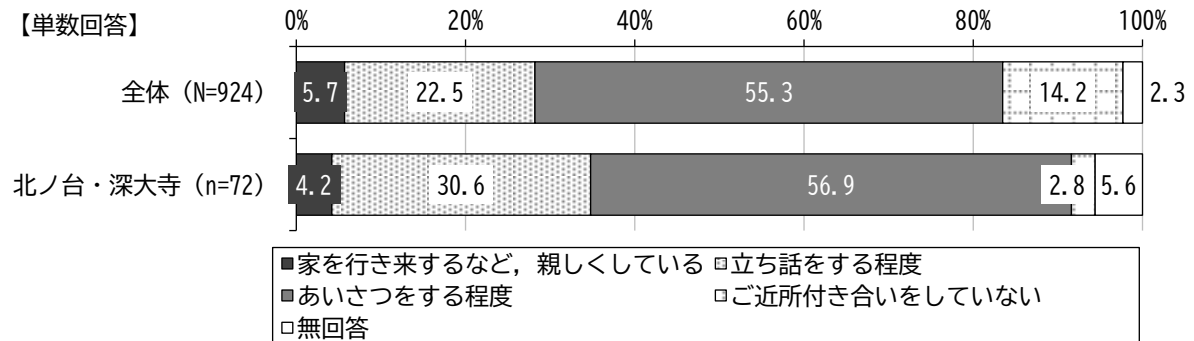
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
■福祉施策の充実に向けて特に重要なことは、 「在宅サービスの質と量の確保」（34.1%）が 全体（25.0%）よりも多くなっている。〔問 32〕	■今後取り組みたい・興味がある地域活動は、 「防災訓練や災害時に救援・支援をする活 動」（40.9%）が全体（33.2%）よりも多くな っている。〔問 15〕
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
■スポーツ・運動をするために必要な支援は、 「指導者」（28.4%）が全体（18.9%）よりも 多くなっている。〔問 23〕 ■歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差 や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路 であるかは、「充実していない」（31.0%）が 全体（21.5%）よりも多くなっている。〔問 29 エ〕 ■心のバリアフリーのために特に必要な取組 は、「わかりやすい情報発信」（53.4%）が全 体（45.5%）よりも多くなっている。〔問 30〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な 取組は、「困ったことや福祉サービスの利用 などを気軽に相談できる窓口」（68.0%）が最 も多くなっている。〔問 40〕

4 北ノ台・深大寺小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で ちょっとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
北ノ台・深大寺 (n=72)	80.6	40.3	59.7	66.7	31.9

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える活動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
北ノ台・深大寺 (n=72)	6.9	13.9	9.7	18.1	13.9	8.3	22.2	18.1	43.1
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
北ノ台・深大寺 (n=72)	36.1	61.2	33.3	63.9	44.4	66.7	37.5	61.1	65.3

■市民（18歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特になし	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
北ノ台・深大寺（n=72）	8.3	22.2	13.9	29.2	13.9	6.9	11.1	2.8	30.6	33.3	5.6	4.2	27.8	2.8

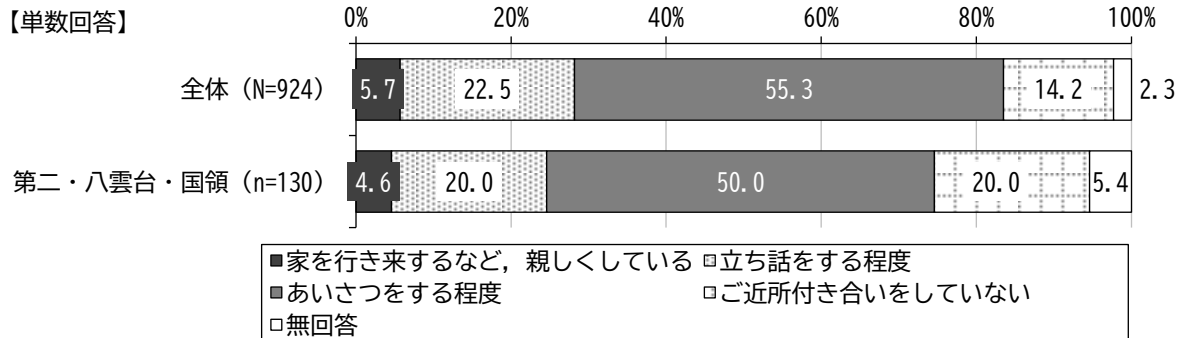
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
■住居形態は、「持ち家（一戸建て）」が8割を超えている。〔問5〕 ■地域の人に手助けしてほしいことは、「災害時避難の手助け」（76.4%）が全体（69.7%）よりも多くなっている。〔問12〕 ■身近な地域での不安や課題は、「防犯、地域の安全のこと」（30.6%）が全体（21.5%）よりも多くなっている。〔問22〕	■地域活動の取り組み状況は、「道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃、環境美化、環境保全・自然保護などの活動」（36.3%）が全体（26.7%）よりも多くなっている。〔問15〕 ■高齢者保健福祉施策で特に重要と考える取組は、「趣味や生きがいづくり・社会参加への支援」（48.5%）が全体（33.5%）よりも多く、また、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」（50.0%）が全体（42.0%）よりも多く、最も多くなっている。〔問37〕
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
■悩みや困りごとの相談先は、「相談支援機関の職員」（27.2%）が全体（19.8%）よりも多くなっている。〔問9〕 ■友人・知人との交流機会は、「機会がない」（27.2%）が全体（17.2%）よりも多くなっている。〔問20イ〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「学校卒業後の日中の活動場所の整備」（75.0%）が最も多くなっている。〔問40〕

5 第二・八雲台・国領小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で ちょっとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
第二・八雲台・国領 (n=130)	75.4	31.5	59.2	66.9	30.8

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える活動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
第二・八雲台・国領 (n=130)	8.5	9.2	7.7	12.3	10.0	12.3	17.7	10.0	29.2
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
第二・八雲台・国領 (n=130)	26.1	54.6	35.4	59.3	40.0	64.6	33.8	50.0	53.8

■市民（18 歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目 1 位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
第二・八雲台・国領（n=130）	13.8	24.6	21.5	28.5	13.8	10.8	13.1	6.2	21.5	31.5	6.2	2.3	26.2	8.5

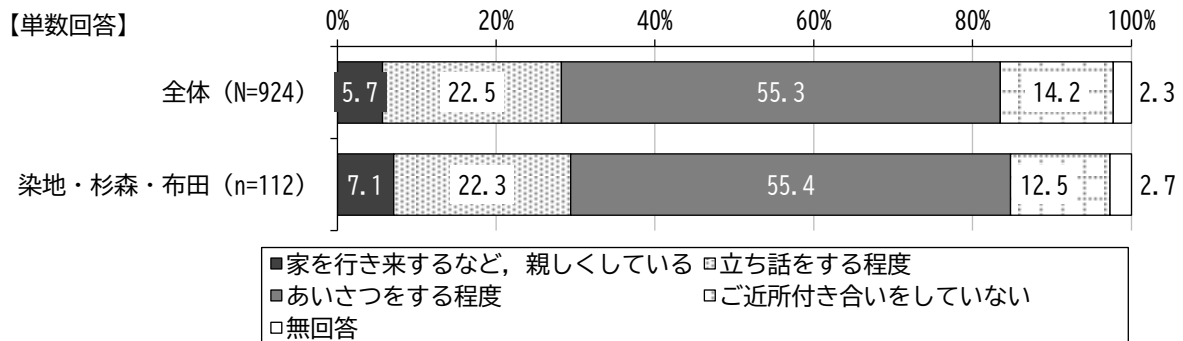
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
■住居形態は、「民間賃貸（集合住宅）」が 3 割近くで最も多く、「公営住宅」の割合が 1 割を超える。〔問 5〕 ■経済的に困った経験は、『困った事がある』（38.5%）が全体（29.2%）よりも多くなっている。〔問 16〕	■困りごとを相談できる人や機関は、「かかりつけ医や保健師などの医療関係者」（25.5%）が全体（17.7%）よりも多くなっている。〔問 29〕
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
■住居形態は、「賃貸住宅」（55.0%）で最も多く、全体（38.5%）よりも多くなっている。〔問 5〕 ■スポーツ・運動をする機会は、「ほとんどしない」（53.1%）が全体（45.7%）よりも多くなっている。〔問 21〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」と「放課後などの活動場所の整備」が最も多くなっている（いずれも 73.7%）。〔問 40〕

6 染地・杉森・布田小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で ちょっとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
染地・杉森・布田 (n=112)	81.2	41.1	66.1	67.8	39.2

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える行動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
染地・杉森・布田 (n=112)	7.1	7.1	7.1	12.5	8.0	12.5	17.0	11.6	41.1
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
染地・杉森・布田 (n=112)	29.5	63.4	37.5	66.1	35.7	67.9	34.8	62.5	59.8

■市民（18 歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目 1 位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
染地・杉森・布田（n=112）	15.2	24.1	16.1	31.3	21.4	16.1	25.0	8.0	20.5	28.6	8.9	3.6	27.7	5.4

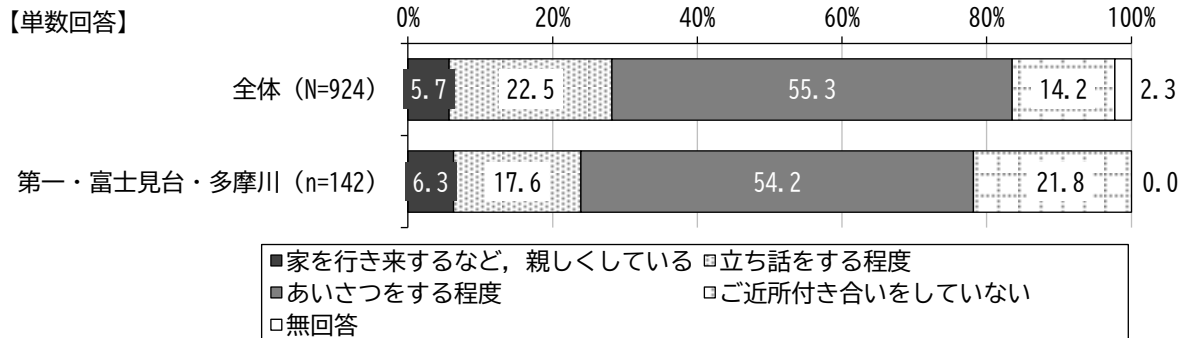
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
■近所付き合いの必要性を感じる時は、「子どもたちの見守り・安全確保」（66.1%）が全体（58.4%）よりも多くなっている。〔問 9〕 ■現在取り組んでいる地域活動は、「趣味・習いごと・健康づくりなどの活動」（41.1%）が全体（31.4%）よりも多くなっている。〔問 14〕 ■身近な地域での不安や課題は、「経済的なこと」（25.0%）が全体（17.0%）よりも多くなっている。〔問 22〕	■近所付き合いは、『親密な近所付き合いをしている』（57.0%）が全体（46.9%）よりも多くなっている。〔問 8〕 ■困りごとを相談できる人や機関は、「友人・知人」（53.2%）が全体（44.7%）よりも多くなっている。〔問 29〕
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
■歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路であるかは、「あまり充実していない」（40.5%）が全体（32.6%）よりも多くなっている。〔問 29 エ〕 ■点字ブロックや視覚障害者用の信号機の充実具合は、「充実している」（34.1%）が全体（26.8%）よりも多くなっている。〔問 29 オ〕	■学校以外の過ごし方は、「学童クラブ・あそびバ」（44.4%）が全体（30.6%）よりも多くなっている。〔問 10〕 ■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実」と「放課後などの活動場所の整備」が最も多くなっている（いずれも 75.0%）。〔問 40〕

7 第一・富士見台・多摩川小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で よつとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
第一・富士見台・多摩川 (n=142)	81.0	42.3	54.9	62.0	39.4

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える活動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃、環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
第一・富士見台・多摩川 (n=142)	13.4	13.4	9.2	11.3	10.6	13.4	12.7	13.4	31.0
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
第一・富士見台・多摩川 (n=142)	30.3	71.9	43.7	70.5	39.4	76.8	30.3	65.5	55.7

■市民（18 歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目 1 位に網掛け	子育て、子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
第一・富士見台・多摩川（n=142）	16.2	28.9	16.9	43.7	22.5	18.3	18.3	6.3	20.4	36.6	9.9	2.1	16.9	4.2

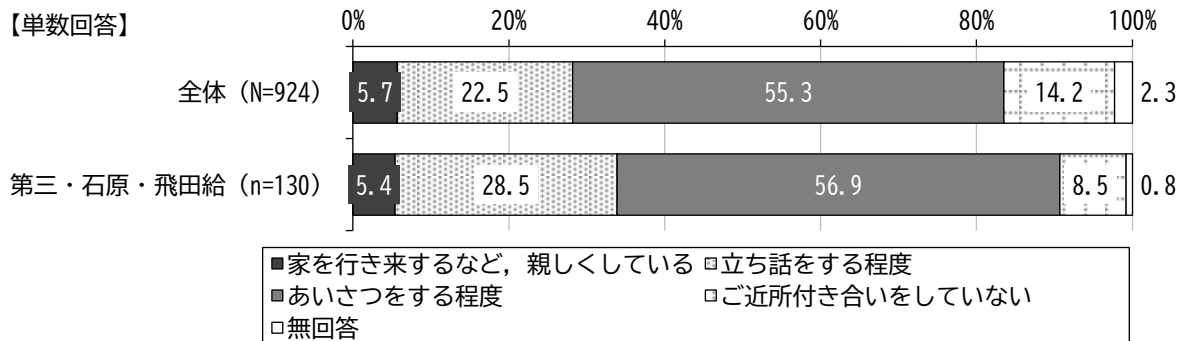
（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18 歳以上）調査結果	高齢者（65 歳以上）調査結果
■困りごとを相談できる人・機関は、「友人・知人」（63.4%）が全体（56.2%）よりも多く、最も多くなっている。〔問 20〕 ■身近な地域での不安や課題は、「老後の生活のこと」（43.7%）が全体（33.8%）よりも多く、最も多くなっている。〔問 22〕	■今後取り組みたい・興味がある地域活動は、「道路等のごみ拾い、自宅周辺の清掃、環境美化、環境保全・自然保護などの活動」（45.1%）が全体（38.3%）よりも多くなっている。〔問 15〕
障害者（18 歳以上）調査結果	障害児（18 歳未満）の保護者調査結果
■医療機関の受診で困ることは、「医療費や交通費の負担が大きい」（21.8%）が全体（16.7%）よりも多くなっている。〔問 10〕 ■仕事をするために必要なことは、「病気や障害に応じた多様な働き方」（33.5%）が全体（24.7%）よりも多くなっている。〔問 19〕 ■外出時の主な移動手段は、「電車」と「徒歩・自転車・車いす」がいずれも 6 割を超えて多くなっている。〔問 28〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実」（75.0%）が最も多くなっている。〔問 40〕

8 第三・石原・飛田給小学校地域

(1) 市全体と福祉圏域の比較

■市民（18歳以上）：近所付き合いの状況



■市民（18歳以上）：ご近所付き合いの必要性を感じる時（「とても感じる」と「感じる」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	緊急時や災害 の助け合い が必要とき	日常生活で よつとした困 りごとがある とき	子どもたちの 見守り・安全 確保	高齢者やひと り暮らしの人 への支援・見 守り	話し相手や相 談相手が必要 なとき
全体 (N=924)	79.0	38.9	58.4	63.2	35.2
第三・石原・飛田給 (n=130)	80.0	41.5	66.9	65.4	46.9

■市民（18歳以上）：地域活動の取組状況（「取り組んでいる」の割合）と今後の取組意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て世帯・青少年を支える活動 や活動、子ども会やPTAの活動	高齢者を支える行動や活動	障害のある人を支える行動や活動	お祭りや運動会などのレクリエー ション活動、地域の伝統や文化を 伝える活動	交通安全や犯罪防止など、地域の 安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援を する活動	道路等のごみ拾い、自宅周辺の清 掃・環境美化、環境保全・自然保護 などの活動	自治会・地区協議会・老人クラブな どの活動	趣味・習いごと・健康づくり（運動・ スポーツ）などの活動
①取り組み状況（「取り組んでいる」の割合）									
全体 (N=924)	8.7	10.3	8.0	11.3	9.8	10.9	17.4	12.1	31.4
第三・石原・飛田給 (n=130)	9.2	10.0	8.5	14.6	10.0	13.1	20.0	14.6	26.9
②今後の取り組み意向（「取り組みたい」と「興味がある」の合計）									
全体 (N=924)	28.7	62.4	37.6	61.8	38.1	68.5	33.0	58.6	55.4
第三・石原・飛田給 (n=130)	30.8	60.0	36.1	59.3	40.8	66.9	37.7	57.7	51.5

■市民（18歳以上）：身近な地域での不安や課題

表示：％ 各項目1位に網掛け	子育て、 子どもの教育のこと	健康のこと	介護のこと	老後の生活のこと	住まいや住宅のこと	仕事のこと	経済的なこと	「近所付き合い、友だち付き合いのこと」	防犯、地域の安全のこと	災害時のこと	気軽に相談できる人（機関）が少ないこと	その他	特になし	無回答
全体（N=924）	13.7	24.9	16.8	33.8	18.2	14.2	17.0	5.6	21.5	31.9	6.5	2.6	25.0	5.6
第三・石原・飛田給（n=130）	14.6	24.6	16.2	32.3	21.5	14.6	16.2	4.6	23.8	35.4	3.1	4.6	25.4	4.6

（2）アンケート調査結果の特徴

市民（18歳以上）調査結果	高齢者（65歳以上）調査結果
■近所付き合いの必要性を感じる時は、「子どもたちの見守り・安全確保」（66.9%）が全体（58.4%）よりも多くなっている。〔問9〕 ■身近な地域での不安や課題は、「災害時のこと」（35.4%）が最も多くなっている。〔問22〕	■困りごとを相談できる人や機関は、「自治会や近所の人」（17.0%）が全体（10.7%）よりも多いほか、「ケアマネジャー・ヘルパーなどの事業者」（22.3%）も全体（12.2%）よりも多くなっている。〔問29〕 ■高齢者保健福祉施策で特に重要と考える取組は、「ひとり暮らしなどの高齢者に対する見守りや支え合うまちづくりへの支援」と「特別養護老人ホームなどの入所施設の整備」が最も多くなっている（47.9%）。〔問37〕
障害者（18歳以上）調査結果	障害児（18歳未満）の保護者調査結果
■点字ブロックや視覚障害者用の信号機の充実具合は、「充実している」（33.2%）が全体（26.8%）よりも多くなっている。〔問29オ〕 ■心のバリアフリーのために特に必要な取組は、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす」（29.0%）が全体（22.7%）よりも多くなっている。〔問30〕	■障害児福祉施策の充実のために特に重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実」と「放課後などの活動場所の整備」が最も多くなっている（いずれも58.3%）。〔問40〕

第2章 アンケート調査から見えた課題

1 市民の地域参加と暮らしを支える取組について／市民

- (1) 多世代・多様な主体の参加による地域における支え合いの仕組みづくりを推進する必要がある

日常的なつながりが希薄化していることを踏まえ、従来の支援の担い手のみならず、多世代・多様な主体が幅広く参加できるような仕組みを整えることが重要である。今後に向けては、地域福祉コーディネーター等による地域づくりに向けた支援を通じて、地域活動やボランティア活動などへの参加を促進する取組を進めるとともに、新たな担い手の発掘・参加につながる取組を進めていく必要がある。

- (2) 複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の充実を図る必要がある

経済的な問題をはじめとする生活課題は、就労や健康、家族関係、住まいなどのさまざまな要素が複雑化・複合化し、困難な状況となることがあることから、分野を横断して包括的に相談を受け止める体制の充実が重要である。今後に向けては、支援を必要とする人が適切な支援につながるよう、多機関協働による包括的な支援体制の充実を一層進めていく必要がある。

- (3) 社会的孤立や生きづらさを抱える方の支援の充実を図る必要がある

市民の孤独感は全体として国より低い水準にあるものの、孤独・孤立は特定の年齢や属性に限らず、誰もが直面する可能性のある身近な課題であることを十分に踏まえることが重要となる。また、回答者本人、市内居住の家族ともに、ひきこもりに該当する可能性が一定割合存在していることが明らかとなった。今後に向けては、孤独・孤立やひきこもりの問題に対する地域や社会全体の理解の促進を図るとともに、人とのつながりを感じられる機会の創出や居場所づくりを進めることにより、孤立化を防ぐ地域づくりが必要である。また、地域住民や関係機関等が早期に本人との関係性を構築し、家族を含めた一人ひとりの状況に応じて多機関協働により参加支援の取組を推進する必要がある。

(4) 誰もが自分らしく暮らせるよう権利擁護支援の取組を推進する必要がある

権利擁護支援に関する制度への利用意向はみられる一方で、制度の認知や理解の浸透はいまだ十分ではなく、また、親族以外に任せる仕組みに対する不安感も存在している。今後に向けては、制度・事業の意義や仕組み、利用方法の理解を浸透させる継続的な取組とともに、利用に関して相談しやすい体制の充実、関係機関の連携強化などを通じて、本人の意向に沿った制度・事業を適切なタイミングで選択できるよう、権利擁護支援の取組を推進する環境を整える必要がある。

(5) 困難を抱える人を支える包摂的な地域づくりを推進する必要がある

さまざまな困難を抱える人が生きづらさを抱えたまま地域で孤立することなく、暮らしていけるよう、地域や社会全体で支える意識の広がり重要である。また、その中で更生支援においても地域で孤立させない取組に対する意識の醸成が重要である。そのため、今後に向けては、こうしたさまざまな困難を抱える人が地域の中で孤立することなく生活できるよう、市民一人ひとりが包摂的な地域づくりに対する理解を深める取組を着実に進めていく必要がある。

(6) ハード・ソフト両面からユニバーサルデザイン・バリアフリーの取組を推進する必要がある

市内のユニバーサルデザイン化・バリアフリー化のさらなる推進を図る必要があり、共生社会の充実に向けた制度や理念の浸透に一層の取組が求められる。今後に向けては、ハード・ソフトの両面からユニバーサルデザイン化・バリアフリー化の取組を継続的に進めるとともに、年齢や障害の有無、性別、国籍などにかかわらず、誰もが安心して暮らせる共生社会の充実に向けた取組を関係機関等と連携して推進していく必要がある。

2 高齢者の健康と暮らしを支える取組について／高齢者

(1) 支え合う意識を実際の行動や地域での活動につなげる取組が必要である

支え合いの必要性に対する意識や地域活動への関心はみられる。一方、高齢者においても日常的な関係性の希薄化が懸念される。今後に向けては、高い意識が実際の行動につながりにくい状況を踏まえ、高齢者が無理なく関われる地域活動や見守りの仕組みを整えていくことが必要である。また、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の将来の増加を見据え、生きがいや健康につながる活動を通じて、人と人とのつながりを日常的に育てていく取組を地域住民と一緒に進めていく必要がある。

(2) 高齢期のウェルビーイング※を支える多様な就労環境が必要である

高齢期においても就労を希望する人が一定程度存在することに加えて、高齢者の就労は、生活の安定、心身の充実、社会参加の機会をもたらす、高齢期のウェルビーイング向上（身体的・精神的・社会的に満たされた良好な状態）に寄与すると考えられる。こうした観点も踏まえ、今後に向けては、関係機関や事業者等と連携し、一人ひとりの希望や状況に応じた多様な働き方を選択できる環境を整えていくことが必要である。

※ウェルビーイングとは、WHO が健康の定義として示した「身体的・精神的・社会的に満たされた良好な状態」を表す言葉。健康が単なる“病気でない”状態ではなく、人生の質や幸福感までを含んでいるという考え方。国の「経済財政運営の基本方針（骨太方針）」や「（仮称）調布市スマートシティビジョン」（令和 8 年度策定予定）において、ウェルビーイングが位置付けられている。日本語では「幸せ」や「満たされた状態」といった意味で使われている（調布市 HP <https://chofu-sc.jp/news/wellbeing-questionnaire2025/>）。

(3) 介護予防の普及と将来不安に寄り添う支援の推進が必要である

今後に向けては、認知症やフレイル予防への高い意欲を継続的な取組につなげる支援とともに、人生の最終段階や権利擁護に関する備えについて、わかりやすい情報提供が必要である。高齢者本人や家族が将来への不安を感じた際に、早期に必要な支援や制度につながる相談支援の一層の充実を図る必要がある。

(4) 高齢者の外出・交流・相談を支える地域づくりの推進が必要である

困りごとを相談できない潜在的な相談ニーズがうかがえる。今後に向けては、困りごとが生じた際に相談につながりやすい体制を整えると同時に、外出・交流・相談が一体となる地域の居場所づくり（サードプレイス）を進めていく必要がある。

(5) 身近なテーマを起点とする情報周知や交流につなげる取組を積み重ねる必要がある

今後に向けては、安心やつながりに関する分野の満足度や制度認知が低い状況を踏まえ、多くの住民にとって関心があるテーマ（例 地域防災）を起点に、情報提供や世代間交流、相談につながる取組を重ね、高齢者が地域の中で安心して暮らせる環境づくりを進めていく必要がある。

(6) 高齢者の孤立やひきこもりを防ぎ、地域での見守りとつながりを強化する必要がある

高齢者調査では、主観的な孤独感は低い水準にあるものの、社会的交流が活発でない状況や、ひきこもりに該当する可能性が一定割合存在していることが明らかになった。今後に向けては、高齢期における外出機会の減少や生活環境の変化を踏まえ、日常的な見守りや声かけを通じて、高齢者の変化に家族や周囲が気づきやすい体制を整えるとともに、地域活動や交流の場への参加を促す取組を進めていくことが必要である。また、本人からの相談につながりにくいケースについても、家族や地域、関係機関が連携し、高齢者の生活実態に即した支援につなげていく必要がある。

3 障害のある方の自立と暮らしを支える取組について／障害者・障害児保護者

(1) 多様な生活希望を支える相談・情報・支援の充実が必要である

今後に向けては、多様な生活希望に応じて必要な支援や制度につながりやすい相談支援体制を整えるとともに、デジタル化の推進と併せて、デジタル・デバイドに配慮し、誰もが必要な情報や支援にアクセスできる環境づくりを進める必要がある。

※参考：デジタル・デバイド：インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。社会でデジタル化が進むことに伴い、さまざまな格差や不利益につながる可能性が指摘されている。

(2) 障害児の生活と将来の自立を見据えた支援と環境の充実が必要である

今後に向けては、障害児の成長段階に応じて、体験機会の確保と相談支援を早期から切れ目なく行い、学校・福祉サービス・地域が連携しながら、将来の就労や自立につながる支援体制を充実させていく必要がある。

(3) 防災意識の差を踏まえた平常時からの備えと情報提供の強化が必要である

今後に向けては、障害種別や立場によって防災意識や情報把握に差がみられることを踏まえ、福祉サービス事業者や地域活動等と連携しながら、平常時から避難場所・避難経路の確認とわかりやすい情報提供を継続していくことが重要である。あわせて、避難が困難な状況にある障害者を地域で支援できる体制の一層の充実が必要である。

(4) 障害特性を考慮した就労と社会参加を支える環境整備が必要である

障害種別によって就労の状況、職場での障害特性の周知には個人差がみられることから、今後に向けては、障害特性に応じた多様な働き方を可能とする職場環境づくりと、周囲の理解・協力を広げていくことが必要である。社会参加では、地域の中で安心して参加できる身近な活動の場を確保し、人と関わる機会をさらに広げる取組を進めていく必要がある。

(5) バリアフリー化と共生社会の気運醸成が必要である

今後に向けては、事業者等と連携したバリアフリー・ユニバーサルデザインによる生活基盤整備を継続するとともに、学校教育や意識啓発を通じた心のバリアフリーの取組を積み重ねることが重要である。こうした取組を通じて、障害の有無にかかわらず相互理解と配慮が広がる、共に生きる社会の実現に向けた気運を高めていく必要がある。

(6) 本人と家族の孤立やひきこもり防止に障害特性を踏まえた支援が必要である

障害者及び障害児保護者調査では、市民調査や高齢者調査と比べて孤独感や社会的孤立の該当率が高く、特に精神障害のある人や障害児保護者で顕著であること、知的障害では社会的交流が限定的なことを踏まえた対応が必要である。今後に向けては、障害特性や家族状況に応じて、本人の負担にならない形でつながりを保ちながら、福祉・医療・教育・地域が連携した重層的支援体制のもと、孤立やひきこもりの長期化を防ぐ取組を継続的に進めていく必要がある。

第3章 住民懇談会から見た課題

(1) 「つながり」を広げることで地域における支え合いの基盤の整備を推進する必要がある

「つながり」は単なる交流にとどまらず、安心感や支え合いの力を生み出し、地域における支え合いの基盤である。人と人が出会い、関係を築ける「場」や機会の充実により、地域における顔の見える関係づくりや、関係機関との連携が推進されるよう環境の整備に取り組んでいく必要がある。

(2) 地域と連携して「つながり」がない状況を生まない取組が必要である

「つながり」の希薄化により、孤独・孤立が進展し、支援につなぐりにくい状況が生じている。「つながり」の喪失は、地域の活力低下や生活環境の悪化にも影響を及ぼすため、地域住民と連携して孤立を未然に防ぐ地域づくりを進めていく必要がある。

(3) 多様な手段により「つながり」が継続するような取組が必要である

「つながり」を再構築するためには、「つながり」を「特別なもの」ではなく「日常の中にあるもの」として位置付け、つながりを広げるための意識醸成や活動、機会などが必要である。あわせて、情報発信、居場所づくりなどにより支援の取組を一体的・横断的に行う、社会への参加を支える仕組みづくりが必要となる。



刊行物番号

2025—261

調布市民福祉ニーズ調査報告書
概要版

発行：令和 8（2026）年 3 月

編集：調布市 福祉健康部 福祉総務課

〒182-8511 東京都調布市小島町 2-35-1

電話 042-481-7101, 7102 Fax 042-481-7058